

令和8年度

教科の指導計画と評価規準
&
6年間の学習計画



東京都立三鷹中等教育学校
後期課程

目 次

| | |
|--------------|-----|
| 目次 | 1 |
| 日課表・週時程表 | 2 |
| 学習に向けての心構え | 3 |
| 国語 | 4 |
| 社会 | 7 |
| 数学 | 9 |
| 理科 | 10 |
| (芸術) 音楽 | 11 |
| (芸術) 美術 | 12 |
| (芸術) 書道 | 13 |
| 保健体育 | 14 |
| 情報 | 15 |
| 家庭 | 16 |
| 英語 | 17 |
| 年間の指導計画と評価基準 | 18 |
| 国語 | 19 |
| 社会 | 35 |
| 数学 | 56 |
| 理科 | 93 |
| 芸術 | 111 |
| 保健体育 | 115 |
| 情報科 | 122 |
| 家庭科 | 131 |
| 英語 | 133 |
| 総合的な探究の時間 | 155 |
| 図書室・保健室から | 158 |
| 図書室より | 159 |
| 保健室より | 160 |
| 6年間の学習計画 | 161 |
| 国語 | 162 |
| 社会 | 163 |
| 数学 | 164 |
| 理科 | 167 |
| 音楽 | 169 |
| 美術 | 170 |
| 書写・書道 | 171 |
| 保健体育 | 172 |
| 技術・家庭・情報 | 173 |
| 英語 | 174 |
| 総合的な探究の時間 | 175 |
| 道徳 | 176 |
| キャリア教育 | 177 |
| 道徳教育全体計画 | 178 |
| 特別活動全体計画 | 179 |
| 食に関する指導の全体計画 | 180 |
| 学校安全計画全体計画 | 181 |

三鷹中等教育学校 日課表・週時程表（後期課程）

| 時程 | 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|---------------------------------------|--------|----|----|----|----|----|
| | 8:25 ~ 8:35 | 朝読書・学活 | | | | | |
| 1校時 | 8:40 ~ 9:30 | 1 | 7 | 14 | 20 | 27 | 33 |
| 2校時 | 9:40 ~ 10:30 | 2 | 8 | 15 | 21 | 28 | |
| 3校時 | 10:40 ~ 11:30 | 3 | 9 | 16 | 22 | 29 | 34 |
| 4校時 | 11:40 ~ 12:30 | 4 | 10 | 17 | 23 | 30 | |
| 昼休み | 12:30 ~ 13:15 | 昼休み | | | | | |
| 5校時 | 13:20 ~ 14:10 | 5 | 11 | 18 | 24 | 31 | |
| 6校時 | 14:20 ~ 15:10 | 6 | 12 | 19 | 25 | 32 | |
| 7校時 | 15:20 ~ 16:10 | | 13 | | 26 | | |
| SHR | 月・水・金 15:10~15:20 火・木 16:10~16:20 | | | | | | |
| 清掃 | 月・水・金 15:20~15:40 火・木 16:20~16:40 | | | | | | |
| 下校 | 17:00（届出による延長 月・水・金 18:30, 火・木 19:00） | | | | | | |

※ 土曜授業は、年間18回実施

学習に向けての心構え
〈後期課程〉

国語

4年で履修する「現代の国語」(2単位)は論理的な文章、「言語文化」(2単位)では近代以降の小説・韻文、伝統文化に関する文章、古文を学ぶ。漢文に関しては「文化科学Ⅱ」(1単位)で扱う。5年では「文学国語」(2単位)と「古典探究」(3単位)を履修する。6年では「論理国語」(2単位)を履修し、この他に自由選択科目として「現代文演習」「発展古典」「古典演習」がある。

I 現代文

君たちは、言葉というものをどれだけ大切にしているだろうか。人間は、成長する中で、言葉を自然に身につけ、当り前のように使っているが、「言葉」というものについて、考えてみたことがあるだろうか。

生後1年半で視覚と聴覚を失ったヘレン・ケラーが、初めて、ものには全て名前があると知った時の感動は、人間にとって言葉がどれほど意味の大きいものであるかを教えてくれる。

彼女は、自分の手に流れる冷たいものが「water」と名づけられており、全てのものには名前があるのだと、7歳近くになってから初めて、啓示を受けるように理解した。この時のこのことを、彼女は後に、「手に触れるあらゆるものが、生命をもって躍動しているように感じ始めた」と書いている。彼女はまた、その感動的な言葉との出会いのすぐ後に、自分が人形を床にたたきつけてこわしてしまったことに対して、「生まれて初めて、後悔と悲哀に胸を刺された」と記している。

ヘレン・ケラーは、ものには名前があるのだと知ることにより、一人の人間として、ものに関わることが出来、世界を見始めたのである。このことは、人間と言葉との最も奥深い関係を表しているだろう。

ところで、言葉には、具体的な事物を表すものと、抽象的な事物の様態、関係を表すものがある。具体的内容を示す言葉は、経験が教えてくれる中で、必要に応じて学んでいけばよいものである。抽象的内容を示す言葉も、経験が教えてくれるものであるが、その語彙の豊かさは、その人間の思索の深さと大きく関わっている。人間や社会、その他あらゆることについての思考は、抽象的概念を表す言葉を駆使することによって行われる。深い思考には、それに対応できる豊かな語彙が準備されていなければならない。「かわいい」、「かっこいい」だけでは深い思考に至らない。そういう類いの語彙だけで済ます日常からは、自分の考えが要求される場面でも「わからない」、「なんとなく」式のことしか言えない。

国語、特に現代文は、端的に言う、言葉について、そして思索することについて学ぶ科目である。多くは、それをすぐれた文章で読むことによって行うのだが、それは、一人の人間の深い思索の結晶として、また、一人の人間の豊かな内面世界を表現したものとして、高い評価を見出し得るものである。現代文という科目の最大の目標は、そのような文章に接することにより、それぞれが、自分自身の精神世界を切り拓いていくことにあると言える。

また、表現することについて学ぶことも、心に留め置いてほしい。表現すること、すなわち、書くこと、話すことは、物事に対する認識を深め、思考を確かなものとする。また、多様なものの見方を知ることにもなる。そういう意味で、表現することについて学ぶことは、高校での学習の大きな目標となっている。

(1) 家庭での学習について

まず、文章を読み、わからない部分に印をつけるか、ノートに抜き出すかしておく。不確かな言葉は辞書で引き、その文章での意味を確かめる(辞書を引いただけではわからないものは、授業で質問する)。書けない漢字を練習する。

以上が、事前に家庭学習でやっておくべきことである。授業では、文章読解をする上で重要な語句、文について確かめつつ、全体の構成、主題、表現の特徴などを把握していく。読解を深めるためには、作者や、時代背景について調べたり、他の文章を合わせて読んだりすることなどを必要に応じて行う。また、意見や感想を述べあったり、感想文等、文章を書いたりすることも適宜行っていく。

(2) 文章を理解するために

文章は、表面的になぞるだけでは真の理解には至らない。1.「学習について」でも述べたように、文章は一人の人間の深い思索の結晶、豊かな内面世界の表現である。だから文章を真に理解する(詩などの場合は、感動と言うべきだろう)ということは、作者の人間性にまで触れることである。

このことは読む側にも、一人の人間として文章に向き合うことを要求する。そして、そのように文章に向き合う姿勢が、己の内面—認識や心情—を豊かなものにしていくのである。

この、内面を豊かにしていくということが、現代文の目標として最大のものであるのだが、それには、教科書の文章を読むだけではおぼつかない。さらに多くのものを進んで読むことが大切である。読書は、書かれた内容から何かを受けとるだけのものではなく、流されがちな日常の中で、立ち止まってじっくり物事を考える姿勢を、自然に培ってくれるものである。これは社会で自立した人間として生きるための、基本となるものである。

(3) 読書をしよう

国語の学力は、大いに本を読むこと、日常の中で物事を深く考える姿勢を持つことにかかっているとと言える。読んだり考えたりすることを敬遠しないでほしい。読書は語彙を豊かにしてくれるものである。読んだ作品について語り合うことに楽しさを見出すこともあるだろう。また、作品を通じて新しい世界に触れる新鮮な感動もあるだろう。そのような中に、停滞している自分を鼓舞し、勇気づけてくれる、生涯のつき合いともなるような作品との出会いがあるかもしれない。

Ⅱ 古 典

亀井勝一郎は『大和古寺風物誌』で、「古寺の美しさは、それは荒廃のまま、まさに崩れんとしてゆくところにあるといふのは真実だ。荒廃を悲しむ心は誰にでもある。保存や再建を思ふのは当然であらう。だが、それに手を加へることの重大さを我々はつい忘れやすい。……風情を失はずに何げなく保存するには篤い信仰と繊細な心が必要なのだが、さういふ心は今ほどだえがちである。これは当今すべての古典の扱ひ方についても言ひうることでなからうか。」と述べている。荒廃する造形美術と同じように、古典文学も篤い信仰と繊細な心がなければいつかは滅び去ってしまう。私たちが何百年、いや何千年の長い歴史の精選に耐え、生き残ってきた古典を正しく受けとめ、その滋味を吸収していくことは、個人の内面世界をより豊かなものにしていくと同時に、明日の文化創造にもつながっていくだろう。私たちが古典を学習する意義はそこにあるといえる。

高校の『古典』は、上のような目標のもとに、中国四千年の歴史から生み出された作品群あるいは、我が国の万葉の時代から江戸時代までに生まれた数限りない古文の中から、今なお人々に愛好されるすぐれた古典（古い文献であると同時に、現代に至るまで脈脈と生命を保ちつづけ、後世の私たちに規範となるような典籍）を学ぶのである。

中国の古典（漢文）を学ぶのは、それが他の外国の古典と違って、長い歴史を通して私たち日本人に滋養を与えつづけているからなのである。つまり、文字をもたなかった日本人が、漢字を輸入して以来、中国の典籍は日本人の中で消化され、思想や心情に大きな影響を与えてきたものなのである。

(1) 古典の学習について

『古典』の学習は、『現代文』と異なって、私たちとの間に千年からの時間の壁が立ちふさがっている。そこには、現代とは違った語彙・語法、あるいは風俗・習慣・制度・思想などがある。だから、現代からの距離を測定してかからないと、思わぬ誤解を招くことがある。たとえば、仮名遣い一つとっても「きょう」は「けふ」だし、「匂う」は「にほふ」といったぐあいである。もちろん、言葉の意味も違うものも多くある。「おどろく」が<目をさます>の意味だったり、「うつくし」が<かわいらしい>だったりする。文法も違う。現代語の動詞の活用は五種類であるが、古文では九種類もある。さらに、「係り結びの法則」などというものもある。しかし古典の主要語が現代語にどのくらい残存しているかの調査によれば助動詞は二割であるが、自立語は八割、付属語の助詞は五割におよんでいる。このように、決して現代文と古文とは異質の言語で書かれた、異質なものではないのである。

(2) 理解を深めるために

古典を豊かに理解するためには、解釈力の充実が大切である。その解釈力を正しく、効果的に伸ばすためには、三つのこと<①古語の知識、②古典文法の知識、③有職故実(ゆうそくこじつ)と文学史の知識>を身につける必要がある。そして、古語を調べ、文法を武器として、構文を理解し、有職故実の知識で裏打ちして、古文を解釈していくようにする。

具体的には、語句の意味を辞書で調べ、文章のおおまかな意味を考える予習をした上で授業に臨み、それを授業の場で確かめるといふ学習法をとりたい。さらに教材は、解釈力を養うためのものであり、古典の世界への窓に過ぎないので、進んで、古典文学作品を原文で通読するように心がけてほしい。

(3) 漢文について

漢文という外国語を、どのように日本語に直して読むのか。それには「訓読」の基礎的なルールをしっかりと覚えることが大切である。『漢和辞典』をひき、漢語の解字や意味を確実にするとともに、その言語的な特徴をよく理解して、初歩の段階では、返り点・送り仮名・置き字・再読文字・助字などの基礎をしっかりと固めよう。それから、重要な句法を身につけていくようにしていこう。

しかし、漢文を読解するためには、それだけでは十分でない。古文の学習や、日常の読書などを通して語彙を増やし、歴史や地理などの背景を知ることによって、より深い理解へつながる。漢文読解力とは、さまざまな分野の総合力なのである。

「難しそうだから…」とって、はじめからあきらめないでほしい。君たちの世界は、まだまだ広がる可能性をもっているのだから。

地理歴史・公民

加速度的に多様化・複雑化していくこの社会を捉え、考察する力は、これから社会に出てどう生きていくかを考えていく上で、その基礎となる重要な力です。ですがこの社会を捉え、考察するのは簡単なことではありません。そのためいろいろな角度から、いろいろな方法で社会の見方、考え方を学んでいくことによって、社会についての認識をより確かな、より深いものにしていくことが必要です。

そのような考え方に立って、本校の後期課程では、「地理総合」「歴史総合」「公共」（４年）を必修に、「地理探究」「日本史探究」、「世界史探究」（５年）を選択必修にしています。６年生ではより深く学びたいと思った科目を学べるよう、さらに選択科目を充実させています。

1 地理総合（地理）

世界の人々は、それぞれの地域で、さまざまな自然環境と社会環境の中で、他の地域と関連をもちながら、特色ある生活をしています。地理学習のねらいは、このような人間生活の地域的特色を正しく理解し、広い視野と国際協調の精神を養うところにあります。さらに、かけがえのない自然を愛し、資源を有効に利用し、生活環境を整備する必要性を理解することです。

授業は講義形式で行うほか、レポートの作成や発表学習、地図の作業学習や視聴覚教材による学習などをとり入れて行う場合もあります。

「地理総合」を学習するにあたっては、次の①～⑥に留意してください。

- ① 各国（地域）の特殊性を他の国（地域）と比較しながら明らかにしていくとともに、全世界に共通するものを見きわめること。
- ② 地形や気候を学習するときは、その地域の産業や衣食住などのかかわり合いについても理解すること。
- ③ 人間生活を学習するときは、その国の人々の考え方や地域が抱えている問題点についても理解すること。
- ④ 「地理総合」の学習内容は、歴史・公民をはじめ、理科・家庭科など他の教科とも密接な関連を持っているので、教科の枠にとらわれず、他の教科の内容も参考にすること。
- ⑤ 地理的なもの見方や考え方を養うためにも、地図帳や統計などを積極的に利用する習慣を身につけること。
- ⑥ 「地理総合」の教材は学習書ばかりでなく、新聞・テレビ・図書・インターネットなど、私たちの日常生活のまわりにはたくさんあるので、進んで利用すること。

2 歴史総合（日本史・世界史）

今、為すべきこと。それは本を読むという至極ありふれた行為です。授業をしていていつも感じるのですが、残念ながら君たちは余りにも基本的な知識を持ち合わせていないのです。この状態では、人類の英知の結晶である歴史から何かを学びとることは、少し難しいかもしれません。今からでも遅くありません、決して遠回りではありません。読書にもっと積極的に取り組んでみて下さい。そしてあらゆる分野のことに興味を持つのです。そうしている内に興味の対象が絞られ、そのことに関する周辺の知識をもっと深く、より幅広く得たいと考えるようになるはずですが。そこまでいって初めて、俯瞰的に全体を見渡す「歴史のもの見方」が価値を持つてくるのだと思うのです。興味の持てる本を読み、同時並行的に歴史の授業を受け、自分の中で考えを深めていく。そして現在進行形の今の社会についても興味を持つと、より一層歴史が生きてくるのではないのでしょうか。

歴史は人間が創造するものです。人間が行うことですので、成功もあれば失敗もあります。ただ忘れてはならないことは、過去に生きた人たちの懸命な努力があったからこそ今の社会があることを知ってほしいのです。今当たり前前に享受している事柄が、過去はどうだったのかということをしっかり勉強し見つけてほしいものです。現在と過去との対話は未来につながっていくものです。

４年生の歴史総合は、日本史と世界史を融合し、現代的な諸課題につながる近現代の日本と世界の歴史を学びながら、歴史的なもの見方、考え方を身につける科目です。

５年生以降は選択必修となりますが、「世界史探究」は、大航海時代からの１９世紀中頃までの世界の歴史を学習します。５年生の「日本史探究」は、開国と幕末の動乱以降の近・現代史を学習します。

3 公 共

2022年度より、高等学校の新学習指導要領が実施され、公民科では従来の「現代社会」に代わる新しい必修科目「公共」がスタートしました。新科目「公共」は、皆さんが近い将来、社会に参画し、様々な課題と向き合い、それを解決する力を養うことを目的としています。

本校では、「公共」を4年生において、週2時間（2単位）で履修することになっています。

授業では時事的な話題も織り交ぜるので、現実の諸課題をとらえて望ましい人間としての在り方生き方や、問題解決の方法について主体的に考察してもらえればと思います。活発に意見を出し合い、公正に判断する能力や健全な批判力をつけていきましょう。

では、実際に「公共」を学習する上で留意すべき点を挙げておきます。

- ① 現代の社会においては、さまざまな事象が複雑に関連し合っているので、広い視野に立って多面的・多角的に考察すること。
- ② 「公共」の学習内容は、地理総合、歴史総合、文化科学Ⅱなど他の科目とも密接な関連をもっています。科目の枠にとらわれず、他の科目の内容も参考にすることが大切です。
- ③ 「公共」の教材は学習書だけではなく、新聞・テレビ・図書など、私たちの日常生活のまわりにはたくさんあるので、進んで利用することを薦めます。

6年生の選択科目「倫理」では先哲の思想や宗教、現代の諸課題をより人間の思考・思想に焦点を当てながら学習し、選択科目「政治・経済」では現代の政治機構や経済の仕組み、世の中の諸問題の構造について学んでいきます。

このほか、財務局の方などを招いてお話を聞く機会を設けるので、それらを通じても現代に対する見方や考え方の基本を習得していきます。

数 学

後期課程では、数学Ⅰ(3)、数学Ⅱ(4)、数学Ⅲ(4)、数学A(2)、数学B(2)、数学C(3)の6科目(数字は単位数)を学習します。4年生では数学Ⅰ、数学A、5年生で数学Ⅱと数学Bと数学Cを全員が学習します。特に関数に関する内容が増え、3次以上の関数、三角関数、指数関数、対数関数が新たに加わります。前期課程で学習した関数の内容についてしっかり定着させておきましょう。

6年生では進路希望に応じて、数学Ⅲや共通テスト、個別入試に向けた科目を選択して学習します。したがって、将来学びたいことや進路希望をよく考えた上で、自分に必要な科目を選択することになります。自分の進路については、保護者の方や担任の先生とよく相談して考えてください。なお、入試に必要な科目はそれぞれの分野によって異なる上、年度ごとに入試科目が変更される可能性もありますから、必ず自分で調べるようにしてください。

皆さんは小学生の時からいろいろな数について学んできました。ものを数える**自然数**(natural number)から始めて、**小数、分数などの有理数**(rational number)、そして前期課程では負の数や π 、 $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ 、…などの**無理数**(irrational number)も学びました。これまで学んできた数を全部あわせて**実数**(real number)といいます。

ここで、 x を1つの実数とします。 $x^2=1$ を満たす x は2乗して1になる数ですから、答えは $x=\pm 1$ です。この事から分かる様に、実数 x は正の数であっても負の数であっても、2乗すると必ず0以上の数になります。任意の実数 x について $x^2 \geq 0$ であることは、とても大切な実数の性質です。

では、 $x^2=-1$ を満たす x はどんな数でしょうか。実数の性質を考えてみれば、このような数は実数の中には存在しないことが分かります。ですから、「そのような数は無い」と言ってしまえば、話は終わってしましますが、仮に「**そのような数があるとしたら**」と考えたらどうでしょうか？

物事を考える時、このような柔軟な発想がとても大切です。

そこで、「2乗して-1になる数を新しく作ってみよう」と考えた数学者が現れました。

彼らは、2乗すると-1になる数を i (虚数単位、 $i^2=-1$ を満たす数)と表し、その数 i を用いて**虚数**(imaginary number)という数を作り出し、実数と合わせて**複素数**(complex number)という新しい数へと発展させていきました。

これらの数については、後期課程で学びますが、この複素数は、数学だけに限らず自然科学や工学の分野を大きく発展させたと評価されています。

数学の学習において、皆さんは複雑な計算をしたり、いろいろな場合を考えたりするのを嫌がっていませんか。答えだけに執着し、答が求められるまでの過程やその問題の本質を理解しようとしなくていい人が多くなっているように思えます。確かに現代社会では、合理的であることが重要視されますが、

【合理的】⇒【簡単に片付ける】⇒【面倒なことはしない】ということではないと思います。

今まで、腰を据えてじっくりと一つのことにとこだわって考えたことはありますか。なぜなのか、どうしてなのか、ということをよく考えない学習は、本当の意味での学習ではありません。後期課程における学習では、物事をじっくりと考える姿勢がさらに強く求められます。

学校で学習した内容の問題練習を家庭で欠かさず行うことはもちろんですが、既習事項の振り返り学習も大切です。志望を高く設定し、進路実現に向けて着々と努力する姿勢を築きましょう。

理科

なぜ「理科」を学ぶのでしょうか。春のある日、あなたは仲の良い友人と郊外の散策に出かけたとしましょう。「わあ、きれいな川だね!」「そうかな?」「ほら、あそこの土手なんか黄色い花でいっぱいだ・・・」「ほんとだ!」日頃のこんな会話は、お互いのものの見方や価値観などが分かり親交も深まるものです。しかし、客観的に論じなければならないときは、自分の感じ方だけでは議論は成立しません。川が「きれい」とは、透明度でしょうか、BODでしょうか、あるいは植物をはじめ様々な生きもの様子でしょうか? 個々人の価値観や感情に左右されずに同じ土俵で論じあえる物差は無いのでしょうか?

その物差のひとつが、科学(理科)です。みなさんには、理科の時間を使って、ぜひ客観的なものの見方や判断のしかたを学んでほしいと思います。透明度? BOD? なんだか理屈っぽい印象だが、科学を学んでいくとワクワクドキドキする場面にたくさん出会えるはずです。なぜなら、何千年も前から人々が不思議に思い、その謎解きに膨大な時間をかけてチャレンジして来た集大成なのですから。蹴飛ばしたボールの行方、宙返りするジェットコースター、夜空の星の動き・・・これらの運動は実は単純な一つの数式で表現できます。昆虫の複眼も私たちの眼も遺伝的な基本的プログラムは同じでした。

身の回りの様々な現象を科学で読み解いて行きましょう。まずは、自分の目と手、耳と鼻と舌を使って、思いをめぐらせ確かめてみましょう(実験や観察)。予想し、仮説をたて、実験を工夫し・・・少しずつ真実に近づいていきましょう。

理科には大きく物理・化学・生物・地学の4分野があります。

4年生では「化学基礎」と「生物基礎」を勉強します。銅貨を金貨にかえたいという言わば邪な動機で始まった錬金術は、やがて近代化学へと変容します。教科書の基礎事項を理解し、実験によって理解を深めましょう。また、ヒトの恒常性や生命の巧妙さ、地球のおかれた環境を学習し、発表表現につなげます。実験によって、生ある「いきもの」を感じ取って下さい。

5年生では「物理基礎」が始まります。古代より人々が知っていた経験則が普遍的な物理法則として理解できます。教科書を中心に数式による表現を学びましょう。「化学基礎」に引き続き「化学」の勉強がはじまります。無機物や有機物の化学反応を知ることで、自然現象を物質の視点から理解します。また「地学基礎」では、地球や宇宙について学習を深めていきます。

6年生では、受験に向けた学力と解答力を高めます。教科書を読み込み、基本事項の理解と高度な内容への繋がりを勉強していきます。多くの選択講座や長期休業中あるいは日頃の講習を受講して、第一志望に挑戦する力を涵養しましょう。

わたしたちの好奇心と「なぜ?」という疑問、「もっと知りたい!」という探究心が科学の出発点です。ノーベル賞を受賞したiPS技術や青色発光ダイオードによるLEDも、それまでの常識にとらわれない仮説から生み出されたものです。ぜひ疑問を抱いて、積極的に授業に参加してください。

私たちの前には様々な問題や課題が山積しています。しかし、私たちが好奇心を持ち続け、謎を解いて行こうという気持ちを失わない限り、それらはいつの日か解決されていくと信じています。解決には、いろいろな分野の考え方や知識・技術の連携が必要になります。柔軟かつ鋭い科学的考察力を養うため、科学だけではなく、様々な事柄を考え学んで下さい。

音 楽

前期課程までの学習を土台に、表現及び鑑賞や理論の学習を通して、多様な音楽文化を理解し、幅広く関わることを目標に学習を進めます。

<授業の概要>

1 表現

歌唱、器楽、創作の学習に取り組みます。

- ① 歌唱：合唱や独唱に取り組み、表現形態や作品に適した発声や言葉の発音を学習します。
- ② 器楽：独奏やアンサンブルに取り組み、表現の力を高めます。
- ③ 創作：テーマに合わせて旋律を創作し、発表します。

2 鑑賞

作品に関わる知識を得たり活かしたりしながら、様々な表現形態の音楽作品に触れます。表現分野の学習においても、互いの演奏や作品を鑑賞し合うことで、相手の意図や作品の良さを発見します。

3 音楽理論

楽典や音楽史等の理論は、可能な限り実作品と絡めながら学習し、その後の表現や鑑賞の学習に活用できる知識を身に付けることを目指します。

美術

後期課程では、引き続き表現活動と鑑賞の両方を大切に授業をおこないます。

この時期は、幼少期から学んできた常識や教養を集大成し、教養人としての基礎を完成させる時期です。こうした、大人としての自分を作り上げ、今しかできない表現や感動を味わえる場でありたいと考えます。造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指していきます。

題材は選択した生徒の求める美術を展開していきたいと考えています。よって授業をデザインしていきますので特に固定していません。

以下に、授業の概要を紹介しますので、参考にしてください。

1. 静物画：観察力を更に深め、見たもの感じたものを画面に表現する力を伸ばす。
キャンバス、アクリルガッシュを使用。
2. 風景画：遠近法、透視図法を利用して作品制作をする。「作品にする」という考え方を学ぶ。
キャンバス、アクリルガッシュを使用。
3. 版画：銅版画制作を通してイメージ力を養い見通しをもって作品に取り組む姿勢を養う。
4. 彫刻：木彫カトラリーをデザイン、制作することにより用と美について考えを深める。
4. 陶芸：用と美を考え、生活の中での工芸の役割を理解し作品制作をする。
5. デザイン：色彩や構成の応用を学び作品制作をする。
6. 模写：鑑賞を兼ねた模写を行う。レポート等の作成も行う。
7. 鑑賞：夏休みに美術館へ行き、美術館鑑賞レポートの作成を行う。
本物に触れることで得られる感動を大切にしている。
8. 自由制作：各々がそれまでの知識と発想を総動員して作品制作に取り組む。
9. その他：時間の許す限り、クロッキーやデッサン等に取り組む。
作品及びレポートの未提出は認めていないので計画的な制作態度を必要とする。
授業時間内に作品が完成しない場合は、放課後や自宅での制作時間を生み出す。

書道

「筆で文字を書く」というと、すぐに「お習字」と考えることでしょうか。そして上手い、下手で評価されると思いがちです。また、これまでは「文字を正しく整えて書く」ことを目標に＜読みやすさ＞が求められ、国語科の中の「書写」として学習してきました。しかし後期課程では、芸術教科の中で「書道」として位置付けられ、全員が初めて体験する学習内容となります。そこでは「書写能力の向上」のみならず、その多くは上手い、下手よりも「表現や鑑賞活動」が中心となるのです。具体的には、私達が日常使用している「漢字」や「平仮名」がどのような歴史の中で、どのような意義を果たしてきたかを知るとともに、古人が残してくれた様々な名品の鑑賞や表現法を学習することで＜今の自分を書で表現できるようにする＞ということが大きな目標となります。学習を終える頃には、きっと書道に対する見方や感じ方が変わり、多くの新しい発見があることでしょうか。以下に授業の概要を紹介します。

1. 表現

- ① 漢字の書 → 基礎・基本、表現法（楷書、行書中心）
創作（各書体の学習を活かし、自らの意図に基づき創意工夫する）
- ② 仮名の書 → 基礎・基本、表現法（平安時代の古筆から）
創作（古筆の学習を活かし、俳句を題材に創意工夫する）
- ③ 漢字仮名交じりの書 → 創作（①と②の学習を活かし、自分の言葉で「今の自分」を表現できるように創意工夫する）
*これらの学習の成果を日常に活かせるようにする。

2. 鑑賞

- ① 漢字の書 → 古典の美（楷書、行書、草書、隸書、篆書、篆刻）
*東洋の伝統文化としての＜漢字の美＞を、その成り立ちを理解しながら鑑賞する。
- ② 仮名の書 → 平安古筆の美
*日本の伝統文化としての＜古筆の美＞を、その成り立ちを理解しながら鑑賞する。
- ③ 漢字仮名交じりの書 → 日本の名品の美
*現代の書としての＜美＞を、日常の書との違いを理解しながら鑑賞する。
- ④ 文化祭作品 → 互いの作品を鑑賞し合うことで、相手の意図するところや良さを発見する。
- ⑤ 美術館鑑賞 → 都内美術館にて書の名品の展示開催がある時など随時。

※上記「1. 表現」と「2. 鑑賞」は、関連させながら学習を進めます。

※課題および作品の未提出は認めていません。

保 健 体 育

(1) 健康の保持増進のための実践力を身に付ける。

- ①健康・安全や運動に関する科学的な内容を理解し、将来に渡って健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質を養う。
- ②健康・安全や運動についての総合的な理解を深め、正しい意思決定と行動選択ができるようになる。
- ③体力の向上を図る。

(2) 生涯にわたり、計画的に運動に親しむ資質や能力の定着を図る。

- ①各種の運動の特性にふれ、楽しさや喜びを知り、意欲的、主体的に取り組む。
- ②公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動ができるようになる。

(3) 運動を合理的に実践する力を身に付けさせ、体力の向上を図る。

- ①自己の能力に適した課題の解決を主体的に行うなど、技能や体力の向上に意欲的に取り組む。
- ②各種の運動の基本的な内容を応用して実践する力を身に付ける。

(1) 授業中

①健康・安全

- 活動場所の安全に留意し活動する。
- 自らの健康に気を配り、自己管理能力を身に付ける。
- 教員の指示に従い、安全で効果的な活動を行う。

②自主的・主体的な取り組み

- 自ら意欲的に活動し、向上心を持って取り組む。
- 課題意識を持ち、質問や発言を積極的に行う。
- ノートやプリントは工夫しながらまとめる。
- 様々な課題を自らの生活に置き換えて考え、健康な生活を送る実践力をつける。

③規律・マナー

- 互いを認め合い、尊重し合いながら思いやりの気持ちをもって授業に臨む。
- 授業の準備、片付けを協力して行う。
- ルールやマナーを守り、公正な態度で臨む。

(2) その他

- ① スポーツ、健康に関する時事問題やニュースに関心をもつ。
- ② 充実した学校生活を送るために、基本的な生活習慣を整える。

1 学習について

学習の目標：

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

(1) 日常生活にあふれる「情報」を意識しよう

私たちの生活には、さまざまな情報が溢れています。そして、一昔前からは考えられないほど、日常生活はデジタル化されています。これらの「情報」が何を意味するのか、どのように取り扱われているのか、日常生活に溢れる「情報」を意識することが学習のポイントになります。

(2) さまざまなメディアから情報を入手しよう

情報は、インターネットから入手するものがすべてではありません。新聞、雑誌、書籍、人から伝えられる情報、自分の目で見える情報、聞く情報、さまざまな情報があります。1つの情報源のみを信じるのではなく、さまざまな情報源を確認し、情報の信頼性を確認しましょう。

(3) ICT(Information Communication Technology:情報通信技術)を活用しよう

コンピュータ・タブレット・スマートフォンをはじめとする情報機器は私たちの生活の一部となっています。苦手意識を持たず、さまざまな情報機器を「道具」として使っていきましょう。

2 学習への取り組み

(1) 授業中

必ずノートをとりましょう。ただし、黒板に書かれたものやプロジェクターに映し出されたものだけをノートに写すのではなく、先生の話の中で大切な箇所や課題となる点については、自分でメモをとるなどして整理することが重要です。

先生の説明・指示を良く聞き、課題に積極的に取り組みましょう。粘り強く考え、疑問点や分からない点は先生に質問するなど、疑問を疑問のまま残さないようにしましょう。

(2) 復習

教科書・ノート・プリント、授業で示されたスライドなどを活用して授業で学んだ内容を再確認し、知識の定着を図ります。理解できない内容がある場合は、質問するなど対策をとりましょう。

(3) 宿題や課題等

宿題や課題は、提出日を厳守し計画的に学習して必ず提出しましょう。

(4) 定期テストへの取組

授業で学習した内容を、教科書・ノート・プリント、授業で示されたスライドなどを活用して学習内容を再確認し、しっかり準備をしてテストに臨みましょう。

(5) スマート・スクール端末

授業はCALL教室で行いますが、端末は必ず持参してください。

家庭

後期課程では引き続き、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次育成することを目指しています。

《家庭基礎で身に付けてほしいこと》

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする態度。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度。

(1) 授業

① 講義

- 講義内容を自分の生活に関連させて考える。クラスメイトと意見交換する。
- 自分や班で考えた意見を発表する。
- ワークシート、ICTを活用し、学習の記録を作る。
- 教材、持ち物、提出物は忘れず、授業の準備をする。

② 実習

- 事前に実習の手順を理解し予定を立てる。
- 実習中は安全を考えながら、協力して積極的に取り組む。
- 実習後は結果を自分の生活に関連させて考え、次回への改善点や課題をまとめる。

(2) 授業以外の学習

① 課題意識

- 家庭や地域での生活から様々な課題を見つけ地球全体で考える。

② 情報活用

- 様々な情報媒体を活用する。

英 語

本校では、生徒の能力・進路及び学習効果などを考え、4年では「英語コミュニケーションⅠ」と「論理・表現Ⅰ」、5年では「コミュニケーション英語Ⅱ」と「論理・表現Ⅱ」「文化科学Ⅲ」、6年では「英語コミュニケーションⅢ」と「論理・表現Ⅲ」を全員が履修します。6年では選択科目で「英語コミュニケーション演習」を学習します。

高校英語の目的は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ことです。「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の総合教材には英文読解を中心に、その中に新しい「語彙」「構文」「文法事項」等が続々と現れます。また、「論理・表現Ⅰ」では基本的な文法事項の確認をします。その上で「論理・表現Ⅱ」で自分の意思をうまく表現する方法を学習します。そして「論理・表現Ⅲ」で身近な事柄だけでなく、社会的な事柄についても、自分の意見を英語で表現できる力を身に着けます。この二つの科目を通して、現代英語を読み、その内容を理解する能力と、聞き、話し、書く力を養うことを目指します。更に、英語を母国語としている人々の発想や表現法、生活や風俗習慣を理解し、英語を手段として、様々な国の人々や風俗習慣を理解することも目標としています。

学習の根本は、授業に真剣に取り組むことです。授業は各自が十分予習したことを前提として行われます。予習・授業・復習を続けてこそ、十分な学習効果を発揮するのです。50分の授業を100分、150分学習したのと同じ効果が得られるようにできるのは十分な予習、復習があつての話です。

辞書や参考書などを使って予習し、自分で理解できる所と理解できていない所をはっきりさせて授業に臨みましょう。授業で習った事は、その日のうちに復習し、整理して覚えましょう。

英語の読解力を付けるには、授業で扱うように教科書を詳しく勉強する「精読」と、沢山の英文を自分の力で読んでいく「多読」があります。本校英語科では、この2つのバランスが大切だと考えます。正しい頭の働かせ方を学習しないで、ただ「たくさん読もう」と思っても、泳ぎ方を知らない人が「バタフライで100メートル泳いでみる」と考えるのに等しいのです。授業の精読で、未知の英文に取り組むときの頭の働かせ方を学んだ上で、多くの多読教材を実践の場として活用してください。また、たとえば大学入試は大量の英文を読ませるから速読こそが大事、と思うかもしれませんが、10分かけて読んで理解できない文章を、5分で理解できるようには絶対にならないのです。長文といわれる入試問題やGTECなどは時間との勝負ですが、英語を英語のまま理解し、直読直解を心がけ、振り返りをしないようにすれば、スキミング、スキミングなどの速読のテクニックを使わなくても時間内に全て読み終わるよう設計されています。頭の働かせ方を学ぶ精読と、それを実践する場である多読という両輪をしっかりと回していきましょう。多読の一環として洋書多読にもしっかりと取り組んでください。多読用の洋書はレベル別に図書室や英語科に多数そろえてあります。

また、リスニングの際の頭の働かせ方は、実は読むときと同じなのですが、リスニングでは音の連結、消失など、理屈だけではなく慣れることもとても大事です。2年間で700時間を制覇すれば、かなりの英語は聞き取れるようになります。CD教材だけでなく、テレビ・ラジオの語学番組や二ヶ国語放送・インターネット等を利用して、英語を聴きとる訓練もしましょう。

英語学習には不断の努力と、身に付けた内容を折に触れ使ってみる好奇心が必要です。

Never give up!

年間の指導計画と評価規準 〈後期課程〉

令和8年度 <4学年 現代の国語> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 精選 現代の国語 (第一学習社) |
| 使用補助教材 | 新訂 総合国語便覧 (第一学習社) 入試新出漢字＋現代語重要語彙 TOP2500 |

| 目標 |
|--|
| 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 |
| (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 |
| (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりする。 |
| (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 評価の観点と方法・材料 |
|---|
| <p>【評価の観点】(知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>(思考・判断・表現) 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p> <p>【評価の方法・材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|----|--|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 「本当の自分」幻想(平野啓一郎) 〈個性・人格〉 | 4 | ・推論の仕方について理解を深めている。 | ・内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 | ・積極的に本文中に根拠を求め、筆者の主張に対する自分の考えを、表現の仕方を工夫している。 |
| | 5 | 【事実と意見】「私作り」とプライバシー(阪本俊生)〈メディアと個人〉 | 6 | ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 | ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈する。 | ・事実と意見を区別して粘り強く評論を読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 |
| | 6 | 水の東西(山崎正和)〈比較文化〉 言語活動水に関わる芸術や文化を調べ、その魅力を紹介しよう | 6 | ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解している。 | ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。 | ・個別の情報を一般化する 筆者の論理について自分の考えをもち、表現を工夫してまとめようとしている。 |
| | 7 | ものとことば(鈴木孝夫)〈言語〉 読みを広げる 言葉と文化 | 6 | ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 | ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫している。 | ・筆者の主張に従って具体例を言葉で定義し、表現の仕方を工夫して説明しようとしている。 |
| 2 | 9 | 現代の「世論操作」(林香里) 〈情報・メディア〉 言語活動メディアへの向き合い方について、考えを文章にまとめよう | 8 | ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めている。 | ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 | ・メディアへの向き合い方について、グラフから必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめようとしている。 |
| | 10 | 【主張と根拠】デザインの本意(原研哉)〈生活と文化〉 | 8 | ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 | ・内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 | ・筆者の主張とそれを支える根拠を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 |
| | 11 | 不均等な時間(内山節)〈時間〉 読みを広げる 身体と時間 | 8 | ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 | ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈する | ・筆者の提案を踏まえ、持続可能な社会に関する意見文を積極的に書こうとしている。 |
| | 12 | ロビンソンの人間と自然(村岡晋一)〈経済と自然〉 | 6 | ・推論の仕方について理解を深めている。 | ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫している。 | ・既習の評論と粘り強く読み比べ、共通点を説明しようとしている。 |

| | | | | | | |
|--------|---|--------------------------------------|----|--------------------------------|---|---|
| 3 | 1 | フェアな競争(内田樹)〈自由と平等〉 読みを広げる 経済社会と人間 | 6 | ・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 | ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 | ・接続の仕方に注意して本文の内容・構成を捉え、学習課題に従ってまとめようとしている。 |
| | 2 | 「文化」としての科学(池内了)〈科学と社会〉 | 8 | ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 | ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫している。 | ・文章から主張と論拠を読み取り、表現の仕方を工夫して自分の考えをまとめようとしている。 |
| | 3 | 生と死が創るもの(柳澤桂子)〈生命倫理〉 | 4 | ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めている。 | ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 | ・筆者の経歴や発表している作品等を積極的に調べ、生と死に関する自分の考えを深めようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 言語文化> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 精選 言語文化 (第一学習社) |
| 使用補助教材 | 古文単語330 (いいずな書店) 必携新明説漢文 (尚文出版) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) 新精選古典文法 (東京書籍) |

| 目標 |
|---|
| 言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 評価の観点と方法・材料 |
|---|
| <p>【評価の観点】(知識・技能) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p> <p>【評価の方法・材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|----|-------------------------------------|----|--|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 説話「宇治拾遺物語」 | 6 | ・歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 | ・古典の文章に慣れて、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを理解している。 | ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物の面白さを捉えようとしている。 |
| | 5 | 小説「羅生門」 | 6 | ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 | ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取っている。 | ・老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 |
| | 6 | 歌物語「伊勢物語」 | 6 | ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 | ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉えている。 | ・歌物語に積極的に親しみ、和歌の果たす意味を捉えようとしている。 |
| | 7 | 小説「砂に埋もれたル・コルビュジエ」 | 4 | ・語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 | ・現在と過去の交錯を、段落どうしの関係から読み取り、学習課題に沿って構成や表現の仕方を捉えようとしている。 |
| 2 | 9 | 詩 鷺のうへ、一つのメルヘン、自分の感受性くらい、I was born | 4 | ・特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 | ・詩独特の表現方法や構成などを理解し、作品に託されたメッセージを読み取る。 | ・描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。 |
| | 10 | 日記「土佐日記」 | 8 | ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 | ・日記文学から、記録ではない日記の表現方法と意図を読み解く。 | ・虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて批評しようとしている。 |
| | 11 | 小説「夢十夜」 | 8 | ・語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | ・「夢」という非日常の世界で「自分」の判断の根拠とは何かを読み解く。 | ・「夢」の中での判断やその根拠を捉え、作品世界を解釈しようとしている。 |
| | 12 | 随筆「枕草子」 | 6 | ・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めている。 | ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 | ・随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。 |

| | | | | | | |
|--------|---|---------------------------|----|---|--------------------------------------|---|
| 3 | 1 | 小説「城崎にて」 | 8 | ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 | ・三つの小動物の死と関連して心境を読み取り、死生観を深める。 | ・作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。 |
| | 2 | 軍記物語「平家物語」 | 6 | ・和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 | ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 | ・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 |
| | 3 | 和歌・俳諧「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」 | 8 | ・掛詞・縁語・見立てなどの和歌に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 | ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 | ・和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 文学国語> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 「文学国語」(筑摩書房) |
| 使用補助教材 | 四訂版 プロGRESS 現代文 総演習 発展編 (いいずな書店) 改訂版 大学入試の核心漢字 と語彙 3750 (尚文出版) カラー版新国語便覧 (第一学 習社) |

| 目標 |
|---|
| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 評価の観点と方法・材料 |
|---|
| <p>(知識・技能) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>(思考・判断・表現) 各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。</p> <p>【評価の方法・材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---------------------------------|-----------------------------------|--|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 豊かな認識へと導くことばに触れる 「プラスチック膜を破って」 | 6 | ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 | ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 | ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 5 | 小説から情景や心情を読み取る 「山月記」 | 8 | ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 | ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 | ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈するなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 6 | 身近な題材を取り上げ、問題を発見する 「メディアと倫理」 | 6 | ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 | ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 | ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察するなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| 7 | 現実を多面的に捉える想像力を身につける 「異なり記念日」 | 4 | ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 | ・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 | ・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察するなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |

| | | | | | | |
|--------|----|---|-----|---|--|--|
| 2 | 9 | 「自己」を追い求める近代の特色について考える 「こころ」 | 1 2 | ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 | ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 | ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 10 | | | | | |
| | 11 | 生の軌跡をひもとき、現在のあり方を考える 「死者の声を運ぶ小舟」 | 8 | ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 | ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 | ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 12 | 選り抜かれたことばの、洗練されたリズムを味わう 「小景異情」「サーカス」 | 6 | ・文学的な文章における文体的特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 | ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 | ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| 3 | 1 | 柔軟に思考するために新鮮な着眼点を探る 「文学の仕事」 | 6 | ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 | ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 | ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 2 | 異質な価値観のぶつかり合いを読み解く 「舞姫」 | 1 4 | ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 | ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 | ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 7 0 | | | |

令和8年度 <5学年 古典探究> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 3単位 |
| 使用教科書 | 「高等学校古典探究」古文編・漢文編（第一学習社） |
| 使用補助教材 | 必携新明説漢文（尚文出版） カラー版新国語便覧（第一学習社） 新精選古典文法（東京書籍） 古文単語 330（いいずな書店） ステップアップノート 30 古典文法基礎ドリル 三訂版 |

| 目標 |
|--|
| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
| (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 |
| (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 |
| (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 評価の観点と方法・材料 |
|---|
| <p>【評価の観点】</p> <p>(知識・技能) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>(思考判断表現) 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養おうとしている。</p> <p>【評価の材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 ●古文 ▼漢文 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--|----|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ●随筆『徒然草』『方丈記』 観念性・抽象性の高い文章の内容を構成や展開に即して的確に捉え、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 | 12 | 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 5 | ▼古代の史話「背水之陣」 やや長めの文章を読むことによって訓読の方法に習熟し、漢文の読解力を高める。歴史に残る名場面を迫力ある表現で描いた史伝の魅力を味わう。 | 6 | 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 | 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 | 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察するなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 6 | ●随筆『枕草子』 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉え、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 | 9 | 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |
| | 7 | ●歌物語『大和物語』 歌物語における和歌の役割を理解する。 | 3 | 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 |

| | | | | | | | |
|--------|----------|---|-----|--|---|---|--|
| | | ▼漢詩「絶句」「律詩」「古体詩」 ▼日本の漢文(日本漢詩)それぞれの詩のリズムを味わい、詩句に込められた作者や登場人物の心情を把握する。 | 6 | 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 | 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。 | 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| 2 | 9 | ●日記『和泉式部日記』日記を読んで、人間、文学、社会などに対する作者のものの考え方や感じ方を理解する。 | 8 | 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| | 10 | ▼項羽と劉邦『史記』歴史に残る名場面を迫力ある表現で描いた史伝の魅力味わう。長めの文章を読むことによって訓読の方法に習熟し、漢文の読解力を高める。 | 13 | 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 | 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| | 11 12 | ●物語『源氏物語』長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を話の展開に即して読み取る。 | 18 | 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 | 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 | 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| 3 | 1 | ●物語『大鏡』歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を話の展開に即して読み取る。 | 12 | 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 | 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 | 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価するなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| | | ▼逸話 名文と呼ばれる文章を読み、作者のものの見方や考え方を理解するとともに、駢儷文の持つ表現の華麗さを味わう。 | 3 | 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| | 2 | ▼諸家の思想『孟子』『老子』『荘子』『韓非子』読解を通して、人間や社会のあり方に対する儒家の主張の概要を理解する。 | 7 | 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 | 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| | 3 | ●和歌・俳諧『古今和歌集』和歌の修辞技巧を理解し、各歌が作者のどのような意識のもとに作り上げられているかを理解する。 | 8 | 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 | 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。 | 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| 年間授業時数 | | | 105 | | | | |

令和8年度 <6学年 論理国語> 年間指導計画

| | |
|--------|---------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 高等学校 論理国語(第一学習社) |
| 使用補助教材 | 大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000 (尚文出版) |
| | 2027 年用 パワーマックス 共通テスト対応模試 (Z会) |
| | 大学入学共通テスト 現代文 (いっずな書店) |

| 目標 |
|--|
| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
| (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 |
| (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 |
| (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| 評価の観点と方法・材料 |
|--|
| <p>【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。</p> <p>【評価の方法・材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--------------------------------|----|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 自他の「間あい」 (鷲田清一) 評論のしるべ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言い換えや比喩を用いて、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。 ・「アイデンティティには必ず他者が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く本文の構成と各段落の関係性を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。 |
| | 5 | 「私」中心の日本語 (森田良行) 評論のしるべ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 ・読書の意義と効用を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の特徴について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が説明する「私」と「公」との関係を表や図を用いて積極的に整理しようとしている。 |
| | | 実用文法に関わる文章を読み比べる | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・異なる形式で書かれた複数の実用的な文章を粘り強く読み、学習課題に沿ってまとめようとしている。 |
| | 6 | AI時代の社会と法 (小塚荘一郎) 評論のしるべ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・AI(人工知能)の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本文を粘り強く読み、テクノロジーの進化が経済活動にもたらす変化を説明しようとしている。 |
| | 7 | なぜ多様性が必要か (福岡伸一) 評論のしるべ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・根拠や論拠を批判的に検討し文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性について述べた本文を読み内容の理解を深めようとしている。 |

| | | | | | | |
|--------|----|--|----|--|--|---|
| 2 | 9 | 人間という中心と、それよりも〈軽い命〉(金森修) 評論のしるべ | 6 | ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にするはたらきがあることを理解する。 | ・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。 | ・具体と抽象の関係を整理しながら本文を粘り強く読み、学習課題に沿って本文の構成を捉えようとしている。 |
| | 10 | 身体の個別性(浜田寿美男) 評論のしるべ | 6 | ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 | ・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較し、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。 | ・筆者の「自己中心的利他性の弊」について自身に引きつけて考えようとしている。 |
| | 11 | コスモポリタニズムの可能性(河野哲也) 評論のしるべ | 6 | ・読書の意義と効用を理解する。 | ・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。 | ・グローバル化する社会で「コスモポリタン」という自覚をもって生きることにについて考えようとしている。 |
| | 12 | ジェンダー化された身体の行方(川本玲子) | 6 | ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 | ・ジェンダーをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 | ・学習課題に沿って「ジェンダー化された身体」とはどのようなものか、積極的に説明しようとしている。 |
| 3 | 1 | ヒトの進化と現代社会(長谷川真理子) | 4 | ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 | ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 | ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し考えようとしている。 |
| | 2 | 「である」と「する」と(丸山真男) 評論のしるべ 日本の雇用形態に関わる文章と資料を読み比べる | 8 | ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 ・読書の意義と効用を理解する。 | ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・非正規雇用に関する文章と資料から必要な情報を読み取り、複数の情報を関連づけて問題点をまとめる。 | ・民主主義社会のあり方について述べた評論を粘り強く読み、学習課題に沿って本文の構成や、要旨を捉えようとしている。 ・複数の図表を伴う文章を粘り強く読み、解釈したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 |
| | 3 | 現代日本の開化(夏目漱石) 評論のしるべ | 6 | ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 | ・一般の開化と日本の開化との違いを整理しながら筆者の主張を捉え、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 | ・既習の評論と粘り強く読み比べ、文章の内容や筆者の姿勢における共通点と相違点を整理し、積極的に発表しようとしている。 ・本文を粘り強く読み、聴衆が講演を理解しやすいように筆者が施した工夫について理解を深めようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 現代文演習> 年間指導計画

| | |
|--------|-------------------------------|
| 単位数 | 単位 |
| 使用教科書 | 高等学校論理国語（第一学習社） 文学国語（筑摩書房） |
| 使用補助教材 | 入試頻出漢字＋現代文重要語彙T OP2500 |

| |
|--|
| 目標 |
| 言語活動を通して、思考力、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起し、総合的な国語力を育成する。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【評価の観点】</p> <p>（知識・技能）語彙、文法など正しい日本語の運用ができています。</p> <p>（思考・判断・表現）主題や論拠、結論、意図や心情を正確にとらえ、論理に従って読解し、論述ができています。</p> <p>（主体的な学び）テキストに対しこれまで経験してきた言語体験に基づき主体的にとらえ他者と協働し創造的に深化させています。</p> <p>【評価の方法・材料】</p> <p>小テスト、グループワーク、発表、考査等、総合的に判断する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|---------------|----|--------------------------------|--|------------------------------------|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 随想（問題演習） | 6 | 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。 | 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 | 文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 |
| | 5 | 評論（問題演習） | 8 | | | |
| | 6 | 小説（問題演習） | 8 | | | |
| | 7 | 詩、短歌、俳句（問題演習） | 2 | | | |
| 2 | 9 | 随想（問題演習） | 6 | 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。 | 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点を理解する。 | 文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 |
| | 10 | 評論（問題演習） | 8 | | | |
| | 11 | 小説（問題演習） | 8 | | | |
| | 12 | 詩、短歌、俳句（問題演習） | 6 | | | |
| 3 | 1 | 随想（問題演習） | 6 | 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。 | 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点を理解する。 | 登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察する。 |
| | 2 | 評論（問題演習） | 8 | | | |
| | 3 | 小説（問題演習） | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 発展古典> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 高等学校 古典探究 古文編 (第一学習社) |
| 使用補助教材 | 完全マスター古典文法 (第一学習社) 古文単語 330 (いいずな書店) 必携新明説漢文 (尚文出版) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) |

| |
|--|
| 目標 |
| 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉え、古典を読む能力を養うとともに、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 発展的な文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して古典を読む力等を、日常の授業態度、演習の成果と定期考査、提出物等を対象として総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|----|-----------|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 説話 (問題演習) | 12 | <ul style="list-style-type: none"> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 古典の作品や文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辞について理解を深める。 文語のきまりについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。 和歌の修辞について理解し、学習の見通しをもって調べたり発表しようとしていたりしている。 |
| | 5 | 日記 (問題演習) | 16 | | | |
| | 6 | 逸話 (問題演習) | 12 | | | |
| | 7 | 物語 (問題演習) | 12 | | | |
| 2 | 9 | 随筆 (問題演習) | 16 | <ul style="list-style-type: none"> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 我が国の文化の特質について理解を深める。 文語のきまりについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 作品に表れた無常観を読み取り、学習課題に沿って、我が国の中世的なものの見方、考え方に対して理解を深めようとしている。 |
| | 10 | 日記 (問題演習) | 16 | | | |
| | 11 | 史伝 (問題演習) | 16 | | | |
| | 12 | 思想 (問題演習) | 12 | | | |

| | | | | | | |
|--------|---|----------|-----|--|--|--|
| 3 | 1 | 物語（問題演習） | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 歌物語の特徴について理解を深める。 ・ 文語のきまりについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の中で和歌が果たしている役割を押しさえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・ 歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・ 学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。 |
| | 2 | 歌論（問題演習） | 8 | | | |
| | 3 | 思想（問題演習） | 8 | | | |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <6学年 古典演習> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 高等学校 古典探究 古文編 (第一学習社) |
| 使用補助教材 | 完全マスター古典文法(第一学習社) 古文単語 330 (いいずな書店) 必携新明説漢文 (尚文出版) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) |

| |
|--|
| 目標 |
| 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉え、古典を読む能力を養うとともに、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して古典を読む力等を、日常の授業態度、演習の成果と定期考査、提出物等を対象として総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|----|-----------|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 説話 (問題演習) | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 古典の作品や文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辞について理解を深める。 文語のきまりについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。 和歌の修辞について理解し、学習の見通しをもって調べたり発表しようとしていたりしている。 |
| | 5 | 日記 (問題演習) | 8 | | | |
| | 6 | 逸話 (問題演習) | 6 | | | |
| | 7 | 物語 (問題演習) | 6 | | | |
| 2 | 9 | 随筆 (問題演習) | 8 | <ul style="list-style-type: none"> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 我が国の文化の特質について理解を深める。 文語のきまりについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 作品に表れた無常観を読み取り、学習課題に沿って、我が国の中世的なものの見方、考え方に対して理解を深めようとしている。 |
| | 10 | 日記 (問題演習) | 8 | | | |
| | 11 | 史伝 (問題演習) | 8 | | | |
| | 12 | 思想 (問題演習) | 6 | | | |

| | | | | | | |
|--------|---|----------|----|--|--|--|
| 3 | 1 | 物語（問題演習） | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 歌物語の特徴について理解を深める。 ・ 文語のきまりについて理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の中で和歌が果たしている役割を押しさえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・ 歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・ 学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。 |
| | 2 | 歌論（問題演習） | 4 | | | |
| | 3 | 思想（問題演習） | 4 | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 文化科学Ⅱ> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 1 単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 精選 言語文化 (第一学習社) |
| 使用補助教材 | 古文単語330 (いいな書店) 必携新明説漢文 (尚文出版) 新訂総合国語便覧 (第一学習社) 新精選古典文法 (東京書籍) |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・漢籍や漢詩、現代の文章を横断的に扱い、論理的に読み書きできる基礎的な知識や技能を身に付ける。 ・漢文学と現代社会を結びつけて考察する思考力、判断力、表現力を磨く。 ・漢文の学習を通して豊かな教養を育むことで、学びに向かう力と人間性の向上を目指す。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【評価の観点】</p> <p>(知識・技能) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>(思考判断表現) 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養おうとしている。</p> <p>【評価の材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|------------------------------|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 漢文の学習 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点、助字、再読文字の種類と使い方、および訓読法を習得している。 ・故事成語や格言に多く触れ、語彙を豊かにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を理解しようとしている。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に影響を与えた漢文に興味・関心を深めている。 ・漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。 |
| | 5 | 訓読に親しむ 漢文を読むために | 6 | | | |
| | 6 | 故事成語・史伝 | 7 | | | |
| | 7 | | | | | |
| 2 | 9 | 漢詩 (孟浩然・柳宗元・杜牧・李白・杜甫・白居易・王維) | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢詩きまり (詩形・構成・押韻・対句) を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現や技法 (押韻や対句) に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の思いを読み取っている。 ・古代から現代にいたるまで日本人の精神構造に深くかかわってきた思想を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・『論語』をはじめとする儒教の精神が現在の日本人の行動様式と関連付けて考えようとしている。 |
| | 10 | | 8 | | | |
| | 11 | 思想：儒家、孔子『論語』 | | | | |
| | 12 | | | | | |
| 3 | 1 | 文章 (陶潜「桃花源之記」他) | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・話と「老荘思想」と関連付けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「桃源郷」へのあこがれは現代の物語ではどのように受け継がれているか探究している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語構造を現代文・古文・漢文と結びつけて共通性を見出そうとしている。 |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 35 | | | |

令和8年度 <4学年 地理総合> 年間指導計画

| | |
|--------|------------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 高等学校地理総合（第一学習社） 詳解現代地図最新版（二宮書店） |
| 使用補助教材 | 最新地理図表 GEO（第一学習社） |

| |
|--|
| 目標 |
| 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する世界に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、レポート課題等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | | | | | | |
|--------|----|--|----|--|--|--|----------------------------------|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 | | | | | |
| 1 | 4 | A 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 (1) 地図や地理情報システムと現代世界 | 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 ・地図やGISの役割や有用性などについて理解し、それらを用いて、情報を収集し、読み取ってまとめる技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の地域構成について、世界的視野からみた日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを、また、地図やGISについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的、多角的な視野から考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図やGISと現代世界について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に追究しようとしている。 | | | | | |
| | 5 | | | | | | B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活文化の多様性や、地理的環境の変化によって変容すること、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、主題を設定し、多様性や変容の過程やその要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会でみられる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| 2 | 9 | (2) 地球的課題と国際協力 | 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球的課題の各地で共通する傾向性やそれぞれの課題の関連性などについて大観し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した取組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球的課題について、地域のつながりや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にその地域にみられる課題を主体的に追究しようとしている。 | | | | | |
| | 10 | | | | | | C 持続的な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の規模や頻度、地域に応じた備えや対応の重要性などについて理解し、各種の地理情報について、収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域性を踏まえた防災について、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察して表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に現代社会でみられる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 11 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | | | | | | |

令和8年度 <4学年 歴史総合> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 帝国書院『明解 歴史総合』 |
| 使用補助教材 | 帝国書院『歴史総合図説 シンフォニア』 帝国書院『明解 歴史総合』 |

| |
|---|
| 目標 |
| 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、小テスト、レポート課題、作業課題、発表活動等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|---|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 歴史の扉 18世紀のアジアの繁栄 ・前近代の東アジア情勢 | 4 | 交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 | 交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 | 交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に関心を高め、課題意識を持ち、追究しようとしている。 |
| | 5 | 工業化の進展と国民国家の建設 ・産業革命の影響 ・仏革命・米独立革命の影響 | 8 | | | |
| | 6 | 結び付く世界と日本の開国 ・アジアの植民地化 ・日本の開国と近代化 | 8 | | | |
| | 7 | 帝国主義とアジア諸国の変容 ・帝国主義の波及 ・富国強兵政策の影響 | 6 | | | |
| 2 | 9 | 第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦と戦後体制 ・大戦後の政財界への影響 | 8 | 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立、世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の変化について理解し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 | 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立、世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策に関心を高め、課題意識を持ち、追究しようとしている。 |
| | 10 | 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌の影響 ・日中戦争と第二次世界大戦 | 8 | | | |
| | 11 | 第二次世界大戦後の世界と日本 ・大戦後の国際体制 ・日本の占領政策 | 12 | | | |
| | 12 | 冷戦と国際秩序の変化 ・冷戦 | | | | |
| 3 | 1 | 冷戦と植民地化・第三世界の台頭 ・冷戦と第三世界 ・高度経済成長の影響 | 8 | 日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 | 持続可能な社会の実現を視野に入れ、現代的な諸課題につながる歴史的な観点から主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想して探究し、現代的な諸課題について問いを表現している。 | 科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことに関心を高め、課題意識を持ち、追究しようとしている。 |
| | 2 | 世界秩序の変容と日本 ・石油危機の影響 ・アジアの経済成長と民主化 | 10 | | | |
| | 3 | 冷戦の終焉 ・グローバル化の光と影 現代的な諸課題の展望 | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 公共> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 清水書院「705 公共 私たちがひらく未来・社会」 |
| 使用補助教材 | とうほう「フォーラム公共2026」 清水書院「705 公共 高等学校 公共 ワークノート」 |

| |
|---|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会についての見方・考え方を働かせる。 ・現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。 ・広い視野にたち、これからの時代を切り開く主体的な人間としての思考力をはぐくむ。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 先哲の思想や現代の諸課題、現代社会の構造について関心を持ち、課題を客観的に考察し、課題に対する考えや解決に向けた考えを適切に表現する力が備わっているか、また、これからの社会を主体的に生きる人間として必要な知識・思考力を身に付けているか、授業に取り組む姿勢や課題レポート、定期考査等を対象に総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|-----------------|----|--|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 公共的な空間をつくる私たち | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の特徴と発達課題、様々な人間の心の在り方について理解する。 ・人生における哲学や宗教や芸術のもつ意義について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の心理的な特徴を捉え、自分ごととして考える ・ギリシャ哲学や宗教の学習を通して、「幸福」「愛」「徳」などの観点から、人間としての在り方生き方について思索する。 | 豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 |
| | 5 | 私たちの人生と社会 | 8 | | | |
| | 6 | 青年期の心理と課題 | 8 | | | |
| | 7 | 源流思想 | 8 | | | |
| | | | 4 | | | |
| 2 | 9 | 日本の風土と神仏への信仰 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の思想が我が国の風土や伝統、外来思想の影響を受けながら形成されてきたことを理解する。 ・カントの思考と功利主義の考え方を理解する。 ・深刻化する環境問題とその解決に向けた取り組みを理解する。 ・憲法の構成、性質を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に生きる日本人としての自己の在り方生き方について多面的・多角的に考察する。 ・社会の構成員としての自己を意識するとともに、「幸福」「正義」「公正」などの観点から、他者との関わりや社会のあり方について考察する。 ・憲法の意義を考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学や医療技術の進展にともなって生じた倫理的課題から、生きることの意義について思索している。 ・「幸福」「公正」などの観点を理解し、社会のあり方について考察している。 ・地球規模の課題を身近な地域の問題として捉え、社会の構成員として生きる自己のあり方について考察している。 |
| | 10 | 江戸時代の学問と近代化への歩み | 8 | | | |
| | 11 | 西洋思想 | 8 | | | |
| | 12 | 義務論と功利主義 | 6 | | | |
| | | 現代の諸課題 | 8 | | | |
| | | 日本国憲法 | 8 | | | |
| | | 三権分立 | 6 | | | |
| 3 | 1 | 現代の国際社会 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の機能、金融や財政の仕組みについて理解する。 ・現代の企業の仕組みと特色を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能、金融や財政の仕組みについてその役割と課題について多面的・多角的に考察させる。 ・現代の企業の仕組みと特色や、企業統治や企業の社会的責任などについて考察させる。 | ・知識をもとに現代の経済について主体的に考察している。 |
| | 2 | 経済の仕組み | 6 | | | |
| | 3 | マクロ経済・ミクロ経済 | 4 | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 地理探究> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 地理探究（東京書籍） 詳解現代地図 最新版（二宮書店） |
| 使用補助教材 | 最新地理図表 GEO（第一学習社） |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会の出来事を地理的な見方・考え方を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する世界で主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な資質・能力の育成を目指す。 ・大学入試共通テストで高得点を得られるような学力をつける。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査や課題等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、それらを総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--|-----|--|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 世界の地形 | 46 | 地形や気候といった自然環境の形成要因を理解している。また、資源・エネルギーの重要性を把握し、地域ごとの交通・通信、貿易、観光の違いやその現代における変化、その形成要因・分布、人間生活との関係に着目しながら理解している。 | 地形や気候などの自然の形成過程を考察し、その特徴を踏まえながら、人間生活との関係について表現している。同様に、分布が均一ではない資源・エネルギーと工業との関係、そして近年変化が激しい交通・通信や観光の変化などを表現している。 | 地形や気候などの自然と人間生活、資源・エネルギーと工業との関係、地域ごとの交通・通信等の違いについて関心と課題を、意欲的に追究しとらえようとしている。またその関連事項に意欲的に情報を得ようとしている。 |
| | 5 | 世界の気候 | | | | |
| | 6 | 資源・エネルギーと工業 | | | | |
| | 7 | 交通・通信、貿易、観光 | | | | |
| 2 | 9 | 人口 | 54 | 人口はどこで多く、またそれがどのような要因で変化したのかを理解する。また人口が集中する都市と、反対に過疎化が進む村落の問題を理解する。世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を理解する。 | 人口分布と変化の要因を自然・社会環境からその違いを考察する。また、世界の諸地域が同じ地球上でありながら、人々の生活が異なる理由を、歴史的背景も踏まえながら多角的に考察する。 | 人口、都市・村落、そして世界の諸地域で発生している諸課題に対する当事者意識を涵養し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。世界の諸地域で発生している諸課題を自分事としてとらえ、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。 |
| | 10 | 人口問題 都市 | | | | |
| | 11 | 都市問題 民族 | | | | |
| | 12 | 国家と領土 世界の諸地域 アジア 東南アジア 南アジア 西・中央アジア | | | | |
| 3 | 1 | 世界の諸地域 | 40 | 世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握する。 | 世界の諸地域において人々の生活スタイルが異なる理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。また、同じ新大陸諸国であるアメリカとブラジル、オーストラリアを比較地誌的な観点からその違いとそれが生じた背景を考察する。 | 世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。 |
| | 2 | アフリカ ヨーロッパ ロシアとその周辺諸国 北アメリカ、 中南アメリカ オセアニア | | | | |
| | 3 | 日本の国土像 | | | | |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <5学年 世界史探究> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 詳説世界史（山川出版社） |
| 使用補助教材 | ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） |

| |
|--|
| 目標 |
| ・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解や国際的共生といった意識を育てる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 授業に取り組む姿勢や、ノート・レポート等の提出物、確認テスト、定期考査等を対象として総合的に評価し、5段階で評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|---------------------|--|-----|---|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・文明の誕生 ・中央アジア世界 中国の統一、動乱と東アジア文化圏の形成 ・仏教、ヒンドゥー教の成立と南アジア世界と東南アジア世界 ・イラン諸国家とギリシア人都市国家、ローマの地中海支配 | 46 | 都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質やアジア、地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解している。 | 古代文明とアジア、地中海周辺の原因・結果、相互の関連などに着目し主題を設定し、諸資料を比較したりして読み解き、多面的・多角的に考察している。 | 古代文明とアジア、地中海周辺の歴史的特質について、多面的・多角的な考察をしようとしている、または主体的に理解を深めようとしている。 |
| 2 | 9 10 11 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の諸地域への伝播、西アジアの動向 ・西欧の封建社会とその展開、東西ヨーロッパ世界のそれぞれ異なる展開とのその文化 ・アジア諸地域の自立化と宋、モンゴルの大帝国 | 54 | <p>西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりをも構造的に理解している。</p> <p>宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりをも構造的に理解している。</p> | 西アジアと地中海周辺の歴史の原因、結果、相互の関連や中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したりして読み解き、多面的・多角的に考察し、表現している。 | 西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋、モンゴルの大帝国について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察をしようとしている、または主体的に理解を深めようとしている。 |
| 3 | 1 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・アジア交易世界の興隆 ・ヨーロッパの海洋進出 ・アメリカ大陸の変容 | 40 | アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 | 諸地域の交易とヨーロッパの進出の原因、結果や相互の関連に着目し、主題を設定し、諸資料を比較したりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察をしようとしている、または主体的に理解を深めようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <5学年 日本史探究> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 詳説日本史 (山川出版) |
| 使用補助教材 | 新詳日本史 (浜島書店) |

| |
|--|
| 目標 |
| ・我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 授業に取り組む姿勢や、確認テスト、レポート等の提出物、定期考査等を対象として総合的に評価し、5段階で評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---------------------------------------|---|--------------------------------------|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・ 日本文化のあけぼの文化の始まり ・ 農耕社会の成立 ・ 古墳文化の展開 | 11 | 日本列島における旧石器文化・縄文文化、弥生文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 | 黒曜石や稲作などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化、弥生文化の社会について考察し、表現している。 | 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。 |
| | 5 | ・ 律令国家の形成 ・ 飛鳥の朝廷の成立 ・ 平城京、律令国家の変容 | 13 | 隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成や密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 | 文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 | 平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | | ・ 貴族政治の展開 ・ 摂関政治、国風文化 | | 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 | 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 | 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。 |
| | 6 | ・ 院政と武士の躍進 ・ 院政と平氏政権 ・ 武家政権の成立 ・ 鎌倉幕府の成立 ・ モンゴル襲来と幕府の衰退 | 13 | 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 | 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 | 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。 |
| 7 | ・ 武家社会の成長 ・ 室町幕府の成立 ・ 幕府の衰退と庶民の | 11 | 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成 | 南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジア | 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前 | |

| | | | | | | |
|---|----|---|----|--|--|--|
| | | 台頭 | | 立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 | の国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 | 後の時代とのつながりを見出そうとしている。 |
| 2 | 9 | ・幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 | 15 | 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 | 戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。 |
| | 10 | ・幕藩体制の動揺 幕政の改革 幕府の衰退と近代への道 | 20 | 列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。 | 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 | 政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 |
| | 11 | ・近世から近代へ 開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足 | 20 | 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。 | 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 | 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 |
| | 12 | ・近代国家の成立 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立 ・立憲国家の成立と 日清戦争 自由民権運動、 憲法制定 条約改正交渉、 日清戦争 ・近代国家の展開 | | 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 日清・日露戦争の前後にお | 諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 国内体制を欧米の水準に合わせることを改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 議会が戦争を支持する一方 | 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 対外的な戦争が日本の近代 |

| | | | | | | |
|---|---|---|----|--|---|---|
| | | <p>日露戦争と国際関係 資本主義の成立と発展</p> <p>第一次世界大戦と日本</p> <p>第一次世界大戦と大戦景気、政党政治の展開</p> <p>ワシントン体制、協調外交の展開</p> <p>・恐慌と第二次世界大戦 軍部の台頭 第二次世界大戦 日中戦争から太平洋戦争</p> | | <p>ける条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。</p> <p>第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。</p> <p>政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。</p> <p>戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。</p> | <p>で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</p> <p>大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</p> | <p>化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。</p> <p>対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p> <p>満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</p> |
| 3 | 1 | <p>・ 占領下の日本 占領と改革 戦後改革と経済再建</p> | 16 | <p>第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。</p> | <p>戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> | <p>現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。</p> |

令和8年度 <6学年 発展地理> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 地理探究（東京書籍） 詳解現代地図 最新版（二宮書店） |
| 使用補助教材 | 最新地理図表 GEO（第一学習社） |

| |
|--|
| 目標 |
| 社会の事象を地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する世界に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、レポート課題等における習得度及び完成度や、特に受講者が少人数であるため授業での質問への答えなどを総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|----------------|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 自然地理（地形） | 6 | 地形や気候といった自然環境の形成要因を理解している。また、資源・エネルギーの重要性を把握し、地域ごとの交通・通信、貿易、観光の違いやその現代における変化、その形成要因・分布、人間生活との関係に着目しながら理解する。また、それに関連する入試問題を解くことができる。 | 地形や気候などの自然の形成過程を考察し、その特徴を踏まえながら、人間生活との関係について表現している。同様に、分布が均一ではない資源・エネルギーと工業との関係や交通・通信や観光の変化などを表現している。また、それに関連する入試問題を解くことができる。 | 地形や気候などの自然と人間生活、資源・エネルギーと工業との関係、地域ごとの交通・通信等の違いについて関心と課題を、意欲的に追究しとらえようとしている。また、それに関連する入試問題を解くことができる。 |
| | 5 | 自然地理（気候） | 6 | | | |
| | 6 | 農業 食料問題 | 8 | | | |
| | 7 | 資源エネルギー 鉱工業 | 4 | | | |
| 2 | 9 | 都市・村落 | 6 | 人口がどのような場所で多く、またそれがどのような要因で変化したのかを理解し、人口が集中する都市と過疎化が進む村落の問題を把握する。世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握する。また、それに関連する入試問題を解くことができる | 人口分布と変化の要因を自然・社会環境からその違いを考察する。また、世界の諸地域が同じ地球上でありながら、人々の生活が違っている理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。世界の諸地域での人々の生活が異なる理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。また、それに関連する入試問題を解くことができる | 人口、都市・村落、そして世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。また、それに関連する入試問題を解くことができる |
| | 10 | 地誌 | 6 | | | |
| | 11 | | 8 | | | |
| | 12 | 総まとめ | 6 | | | |
| 3 | 1 | 総まとめ | 20 | 世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握する。また、それに関連する入試問題を解くことができる | 世界の諸地域での人々の生活が異なる理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。また、それに関連する入試問題を解くことができる | 世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。また、それに関連する入試問題を解くことができる |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 地理演習> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 地理探究（東京書籍） 詳解現代地図 最新版（二宮書店） |
| 使用補助教材 | 最新地理図表 GEO（第一学習社） |

| |
|--|
| 目標 |
| 地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する世界に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査における習得度及び完成度や、少人数であるため授業での問答、問題演習等を評価材料とし、これらを総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|----------------|----|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 自然地理（地形） | 6 | 地形や気候といった自然環境の形成要因を理解している。また、資源・エネルギーの重要性を把握し、地域ごとの交通・通信、貿易、観光の違いやその現代における変化、その形成要因・分布、人間生活との関係に着目しながら理解している。また、その学習内容にかかわる入試問題を解くことができる。 | 地形や気候などの自然の形成過程を考察し、その特徴を踏まえながら、人間生活との関係について表現している。同様に、分布が均一ではない資源・エネルギーと工業との関係、そして変化が著しい交通・通信や観光の変化などを表現している。また、その学習内容にかかわる入試問題を解くことができる。 | 地形や気候などの自然と人間生活、資源・エネルギーと工業との関係、地域ごとの交通・通信等の違いについて関心と課題を、意欲的に追究しとらえようとしている。また、その学習内容にかかわる入試問題を解くことができる。 |
| | 5 | 自然地理（気候） | 6 | | | |
| | 6 | 農業 食料問題 | 8 | | | |
| | 7 | 資源エネルギー 鉱工業 | 4 | | | |
| 2 | 9 | 都市・村落 | 6 | 人口はどこで多く、どのような要因で増加したのかを理解し、人口が集中する都市や過疎化が進む村落の問題を理解する。特に自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握し、その学習内容にかかわる入試問題を解くことができる。 | 人口分布と変化の要因を自然・社会環境からその違いを考察する。また、同じ地球上で人々の生活が違っている理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。また、その学習内容にかかわる入試問題を解くことができる。 | 人口、都市・村落、そして世界の諸地域で発生している諸課題の当事者意識を高め、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。また、その学習内容にかかわる入試問題を解くことができる。 |
| | 10 | 地誌 | 6 | | | |
| | 11 | | 8 | | | |
| | 12 | 総まとめ | 6 | | | |
| 3 | 1 | 総まとめ | 20 | 世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握する。 | 世界の諸地域での人々の生活が異なる理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。 | 世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。 |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 発展世界史> 年間指導計画

| | |
|--------|------------------------|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 山川出版社 詳説世界史B |
| 使用補助教材 | 浜島書店 ニューステージ 世界史 詳覧 |

| |
|--|
| 目標 |
| ・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解・国際的共生や現代を歴史的に捉えられる思考を養う。 |

| |
|------------------------------------|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 授業態度・ノート作成・発問への答えかた・定期考査によって評価を行う。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 |
|----|-----------------|--------------------|----|---|
| 1 | 4 | ・ルネサンス | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスを支えた精神の特徴ルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解し、多面的・多角的に考察し表現する。 ・それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違い、カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ・オランダの覇権獲得および衰退、イギリス革命、近世フランス、イギリスとフランスの覇権争いを多面的・多角的に考察し表現する。 ・ロシアの主権国家体制、プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ・イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・フランス革命変遷や外国に与えた影響、ナポレオン支配に対する反応を多面的・多角的に考察し表現する。中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ウィーン会議が目指した国際秩序、ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・19世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。 |
| | 5 | ・宗教改革 | 20 | |
| | 5 | ・主権国家体制の成立 | 20 | |
| | 5 | ・オランダ・イギリス・フランスの台頭 | 20 | |
| | 6 | ・北欧・東欧の動向 | 20 | |
| | 6 | ・産業革命 | 20 | |
| | 7 | ・アメリカ合衆国の独立と発展 | 20 | |
| 2 | 9 | ・第一次世界大戦とロシア革命 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦が勃発した原因もたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ・第一次世界大戦が東アジア、インド・東南アジア・アフリカ、西アジアに与えた影響を理解する。 ・世界恐慌が起こった背景やその影響、ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・戦後国際秩序がいかなる構想のもと形成されたのかを理解する。 ・米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 ・アジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。 ・1960年代におけるアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 |
| | 9 | ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 | 20 | |
| | 10 | ・アジア・アフリカ地域の民族運動 | 20 | |
| | 10 | ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 | 20 | |
| | 11 | ・第二次世界大戦 | 20 | |
| | 12 | ・新しい国際秩序の形成 | 20 | |
| | 12 | ・冷戦の展開 | 20 | |
| | ・第三世界の台頭とキューバ危機 | 20 | | |
| | ・冷戦体制の動揺 | 20 | | |

| | | | | |
|--------|-------------|--|-----|--|
| 3 | 1 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・産業構造の変容 ・冷戦の終結 ・今日の世界 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化、1970～1980年代に進んだ開発途上国の工業化の経緯を理解する。 ・ゴルバチョフの改革が挫折した原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。 |
| 年間授業時数 | | | 140 | |

令和8年度 <6学年 世界史演習> 年間指導計画

| | |
|--------|------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 山川出版社 詳説世界史B |
| 使用補助教材 | 浜島書店 ニューステージ 世界史 詳覧 |

| |
|--|
| 目標 |
| ・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解・国際的共生と現代を歴史的に捉えられる思考を養う。 |

| |
|-------------------------------------|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 授業態度・ノート作成・発問への答えかた・演習問題の成果によって評価する |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 |
|--------|--------|---|----|--|
| 1 | 4 | ・5年生で学習した大航海時代から絶対主義までの世界史について問題演習を通して復習する。 | 15 | ・模擬テストを毎時間ごとに実施し、それによって評価する。 |
| | 5 | ・アジア諸帝国の繁栄 | | ・ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 |
| | 6 7 | ・絶対主義から19世紀ヨーロッパ世界を問題演習を通して復習する。 | 14 | ・模擬テストを毎時間ごとに実施し、それによって評価する。 |
| 2 | 9 | ・大学入試過去問題と問題演習をとおして、受験準備を進める。 | 14 | ・演習問題を通して、これまでの学習を総復習する。 |
| | | ・先史時代から1学期に実施した時代を除いて、現代までの大学入試過去問題の演習を行う。 | | ・知識及び理解の足りないところを再確認し、知識の定着を図る。 |
| | 10 | ・先史時代～古代オリエント世界 ・ギリシア・ローマ世界 ・古代インド・古代中国 ・アジア諸地域の動揺 | | ・オスマン帝国の動揺の要因、イギリスによるインドの直接統治の特徴、東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 |
| | 11 | ・イスラーム世界 ・ヨーロッパ中世史 ・帝国主義とアジアの民族運動 | 15 | ・第二次産業革命、列強の植民地化、アジア諸国の変革と民族運動を多面的・多角的に考察し表現する。 |
| | 12 | ・近世ヨーロッパ世界 ・近代ヨーロッパ世界 ・欧米における近代国家の形成 | | |
| 3 | 1 | ・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動 | 6 | ・大学入試過去問題を通して、各テーマについて理解し、学力がついているかを見る。 |
| | 2 | ・二つの世界大戦 | 6 | ・知識の定着を確認し、不十分なところを補う。 |
| | 3 | ・冷戦と第三世界の独立 | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | |

令和8年度 <6学年 発展日本史> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 詳説日本史 (山川出版) |
| 使用補助教材 | 新詳日本史 (浜島書店) |

| |
|--|
| 目標 |
| 近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。現代の社会や国民生活の特色について、国際環境に関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 授業に取り組む姿勢や、確認テスト、レポート等の提出物、定期考査等を対象として総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--|---|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・近世から近代へ 開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の 発足 | 8 | 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。 | 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 | 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | | | | | |
| | 7 | ・近代国家の成立 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立 | 10 | 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 | 諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 |
| | ・立憲国家の成立と 日清戦争 自由民権運動、 憲法制定 条約改正交渉、 日清戦争 | 10 | 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 | 国内体制を欧米の水準に合わせることを改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 | 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | ・近代国家の展開 日露戦争と国際関係 資本主義の成立と発展 | 10 | 日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期 | 議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて | 対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。 | |

| | | | | | | |
|---|--|--|-------------------------------|--|---|---|
| | | <p>第一次世界大戦と日本</p> <p>第一次世界大戦と大戦景気、政党政治の展開</p> <p>ワシントン体制、協調外交の展開</p> <p>・恐慌と第二次世界大戦</p> <p>軍部の台頭</p> <p>第二次世界大戦</p> <p>日中戦争から太平洋戦争</p> | <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> | <p>の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。</p> <p>第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。</p> <p>政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。</p> <p>戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。</p> | <p>多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</p> <p>大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</p> | <p>対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p> <p>満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</p> |
| 2 | <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> | <p>・占領下の日本</p> <p>占領と改革</p> <p>戦後改革と経済再建</p> <p>・冷戦の開始と講和</p> <p>占領政策の転換と講和</p> | <p>8</p> <p>8</p> | <p>第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。</p> <p>占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を</p> | <p>戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比</p> | <p>現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>連合国による日本占領機構の特色やその目的を考</p> |

| | | | | | | |
|--|--|---|---------------------------------------|--|--|--|
| | | <p>・高度成長の時代 55年体制、国際情勢と国内政治高度成長と国民生活</p> <p>・経済大国への道 安定成長期</p> <p>・激動する世界と日本 冷戦終結と日本社会の動揺</p> <p>バブル崩壊と構造改革</p> | <p>10</p> <p>10</p> <p>8</p> <p>8</p> | <p>読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。</p> <p>保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。</p> <p>冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。</p> <p>ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。</p> <p>冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。</p> | <p>較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。</p> <p>日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・LIT貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけてたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。</p> <p>日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</p> <p>国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</p> | <p>察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。</p> <p>55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。</p> <p>高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p> <p>第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。</p> |
|--|--|---|---------------------------------------|--|--|--|

| | | | | | | |
|--------|-------------|--|-----|--|--|--|
| 3 | 1 2 3 | テーマ別学習 ・政治史 ・文化史 ・社会経済史 ・外交史 | 20 | | | |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <6学年 日本史演習> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 詳説日本史 (山川出版) |
| 使用補助教材 | 新詳日本史 (浜島書店) |

| |
|---|
| 目標 |
| 大学入学共通テストをはじめ大学入試の実際の出題例に多く触れさせることにより、通史・部門史の知識を確実なものとし、多様な入試問題に対応できる力を身につけさせる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 授業に取り組む姿勢や、確認テスト、レポート等の提出物、定期考査等を対象として総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|---------------------|---|----|---|--------------------------------------|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | 古代史演習 ・ 日本文化のあけぼの、律令国家の形成旧石器時代から奈良時代について、問題演習を通じて理解を深める。 中世史演習 ・ 貴族政治と国風文化、中世社会の成立と発展など、平安時代から室町時代について、問題演習を通じて整理し、理解を深める。 | 26 | ・ 旧石器時代から古墳時代の文化の諸相、および古代律令国家の成立に至る時期の政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。 ・ 平安時代から室町時代にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。 | ・ 問題演習を通じて、古代史・中世史の歴史的意義等について考察している。 | ・ 積極的に問題演習に取り組むとともに、自分なりに復習を行い、まとめを行っている。 |
| 2 | 9 10 11 12 | 近代史演習 ・ 幕藩体制の確立と展開 織豊時代から江戸時代前期について、問題演習を通じて理解を深める。 ・ 幕藩体制の動揺 江戸時代中・後期について、問題演習を通じて理解を深める。 | 26 | ・ 織豊時代から江戸時代前期にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。 ・ 江戸中期から後期にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。 | ・ 問題演習を通じて、近代史の歴史的意義等について考察している。 | ・ 積極的に問題演習に取り組むとともに、自分なりに復習を行い、まとめを行っている。 |
| 3 | 1 2 3 | 【テーマ別演習】 ・ 古代から現代に至る内政・外交・経済の展開を通観させ、理解を深める。 ・ 古代から現代に至る文化の展開を通観させ、理解を深める。 ・ わが国の古代から近現代にいたる歴史について、地理的な見方を交えて考察する。 | 18 | ・ 内政、外交のそれぞれのテーマに沿って、日本史の大きな流れを理解することができる。 ・ 経済の展開について、土地制度や貨幣制度等のテーマに沿って大きな流れを理解することができる。 ・ 文化の発展について、文学、学問、美術等のテーマに沿って大きな流れを理解することができる。 | ・ 問題演習を通じて、テーマ史別の歴史的意義等について考察している。 | ・ 積極的に問題演習に取り組むとともに、自分なりに復習を行い、まとめを行っている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 政治・経済> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------|
| 単位数 | 単位 |
| 使用教科書 | 実教出版「312 高校政治・経済」 |
| 使用補助教材 | とうほう「政治・経済資料 2026」 |

| |
|---|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する能力を身につける。 ・政治・経済・国際関係に関する諸課題について主体的に考察する。 ・公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を育てる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 現代の政治、経済、国際関係について関心を持ち、課題を追究するとともに、国家や国際社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察する知識を身につけ、適切に表現する能力が養われているか、定期考査等を通して評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--------------|----|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・民主政治の基本原理 | 8 | ・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 | ・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | ・現代日本の政治について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |
| | 5 | ・日本国憲法の基本的性格 | 8 | | | |
| | 6 | ・日本の政治機構 | 8 | | | |
| | 7 | ・現代日本の政治 | 4 | | | |
| 2 | 9 | ・現代の国際政治 | 6 | ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 | ・国際平和に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | ・現代の国際政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |
| | 10 | ・経済社会の変容 | 8 | | | |
| | 11 | ・現代経済のしくみ | 8 | | | |
| | 12 | ・現代経済と福祉の向上 | 6 | | | |
| 3 | 1 | ・世界経済と日本 | 4 | ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、持続可能な国際社会づくりなど、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させ多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方について説明、論述している。 | ・グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 | |
| | 2 | ・現代社会の諸課題 | 6 | | | |
| | 3 | | 4 | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 倫理> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|---|
| 単位数 | 2単位 | 目標 |
| 使用教科書 | 実教出版「倫理 702 詳述倫理」 | |
| 使用補助教材 | 山川出版「倫理用語集」 山川出版「山川 一問一答 倫理」 清水書院「最新版 倫理資料集 ソフィエ～智を学び夢を育む～」 実教出版「2026 実践攻略 公共, 倫理 大学入学共通テスト問題集」 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題と、人間としての生き方を理解する。 ・主体としての自己の確立をめざして、人間の尊厳についての倫理的な考え方を学ぶ。 ・現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断力を養う。 |

| | | |
|--|--|--|
| 評価の観点と方法・材料 | | |
| 基本的な知識を身につけ、倫理的な課題に対する思考力や表現力が養われているかを授業や定期考査などを通して評価する。 | | |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--|----|--|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・青年期の課題と自己形成 | 4 | ・他者と共によりよく生きるための人間の心の在り方について理解している。 ・古今東西の先哲の思想を理解し、人間としての在り方生き方に関わる知識と情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしている。 |
| | 5 | 【源流思想】 ・ギリシア思想 ・宗教 | 8 | | | |
| | 6 | 【西洋近現代思想】 | 8 | | | |
| | 7 | ・人間の尊厳 ・科学・技術と人間 ・民主社会と自由の実現、社会と個人 ・人間への新たな問い、社会参加と幸福 | 8 | | | |
| 2 | 9 | 【日本思想】 ・古代日本人の思想 | 6 | ・古今東西の先哲の思想を理解し、人間としての在り方生き方に関わる知識と情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしている。 |
| | 10 | ・日本の仏教思想 | 6 | | | |
| | 11 | ・近世日本の思想 | 8 | | | |
| | 12 | ・西洋思想の受容と展開 | 8 | | | |
| 3 | 1 | 【現代の諸課題と倫理】 ・生命の倫理 ・環境の倫理) | 6 | 生命, 自然, 科学技術などと人間との関わりについて理解し、人間としての在り方生き方に関わる知識と情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明, 論述している。 | ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしている。 |
| | 2 | ・家族の課題 ・地域社会の課題 ・情報社会の課題 ・文化と宗教の課題 | 6 | | | |
| | 3 | ・国際平和と人類の福祉の課題 | 2 | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 数学I> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|--|
| 単位数 | 3単位 | <p style="text-align: center;">目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |
| 使用教科書 | 数研出版 数学I | |
| 使用補助教材 | サクシード 数学I + A チャート式 数学I + A チャート式 数学II + B + C [ベクトル] 体系数学3 数式・関編 体系数学3 論理・確率編 ※いずれも、数研出版 | |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、授業への取り組み、定期考査、提出物、等</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---------|----|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 2次関数 | 30 | <ul style="list-style-type: none"> 二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------|-------------------|--------|-----|---|--|---|
| 2 | 7 9 | 図形と計量 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・ 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・ 鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・ 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・ 正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 ・ 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| | 10 11 | データの分析 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解している。 ・ コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ・ 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ・ 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ・ 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| 3 | 12 1 2 3 | いろいろな式 | 35 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・ 多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 ・ 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ・ 二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している。 ・ 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・ 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 ・ 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 105 | | | |

令和8年度 <4学年 数学A> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|---|
| 単位数 | 2単位 | 目標 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学A | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 場合の数と確率、数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係や社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |
| 使用補助教材 | サクシード 数学I+A チャート式 数学I+A サクシード 数学II+B+C チャート式 数学II+B+C ※いずれも、数研出版 | |

| 評価の観点と方法・材料 | |
|--|--|
| <評価の観点> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場合の数と確率、数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 ・ 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を身に付けている。 ・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <評価の方法と材料> 出席状況、授業への取り組み、定期考査、提出物、等 | |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---------|----|--|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | | 場合の数と確率 | 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・ 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・ 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・ 独立な試行の意味を理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・ 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・ 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |

| | | | | | | |
|--------|--|----------|----|---|---|---|
| | | | | <p>解し、独立な試行の確率を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 | | |
| 2 | | 数学と人間の活動 | 27 | <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 数学史的な話題，数理的なゲームやパズルなどを通して，数学と文化との関わりについて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを，関心に基づいて発展させ考察することができる。 パズルなどに数学的な要素を見だし，目的に応じて数学を活用して考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 人間の活動における数学のよさを認識し，様々な場面で数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 |
| 3 | | 数列 | 13 | <ul style="list-style-type: none"> 等差数列と等比数列について理解し，それらの一般項や和を求めることができる。 いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 事象から離散的な変化を見だし，それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 事象の再帰的な関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，数列の考えを問題解決に活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 数学Ⅱ> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|--|
| 単位数 | 4単位 | <p>目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |
| 使用教科書 | 数研出版 数学Ⅱ | |
| 使用補助教材 | サクシード 数学Ⅱ+B チャート式 数学Ⅱ+B ※いずれも、数研出版 | |

| | |
|--|--|
| 評価の観点と方法・材料 | |
| <p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。</p> | |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--------------------------------------|----|--|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | <p><複素数と方程式></p> <p>1. 複素数</p> | 16 | <p>○複素数の表記を理解し、複素数、複素数の相等の定義を理解している。</p> <p>○複素数の四則計算ができる。</p> <p>○負の数の平方根を理解し、それらを含む式の計算を、iを用いて処理することができる。</p> | <p>○有理数から実数へ数の範囲を拡張する必要性を理解し、複素数を考察することができる。</p> <p>○複素数の範囲で、負の数の平方根を考察することができる。</p> | <p>○方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。</p> |
| | | 2. 2次方程式の解と判別式 | | <p>○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。</p> <p>○判別式を利用して、2次方程式の解を判別することができる。</p> | <p>○2次方程式の解について、実際に解を求めずに、判別式で解の種類を判別することができることを理解している。</p> | <p>○2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。</p> |

| | | | | | |
|---|----------------------|----|--|--|--|
| 5 | 3. 解と係数の関係 | 23 | <ul style="list-style-type: none"> ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ○和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○やや複雑な2数を解とする2次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ○異なる2つの実数α、βが正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○2次方程式の解に関する種々の問題を、解と係数の関係を利用して考察しようとする。 ○2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 |
| | 4. 剰余の定理と因数定理 | | <ul style="list-style-type: none"> ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○$P(k) = 0$であるkの値の求め方を理解し、高次式を因数分解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○多項式$P(x)$が$x - k$で割り切れることを式で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 |
| | 5. 高次方程式 | | <ul style="list-style-type: none"> ○因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。 ○高次方程式の既知の解から、方程式の係数を決定することができる。 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○高次方程式を、1次・2次方程式に帰着して考察することができる。 ○高次方程式が解αをもつことを、式で表現することができる。 ○「方程式が虚数αを解にもてば$\bar{\alpha}$も解である」ことの証明に、共役な複素数の性質がどのように使われるかを考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ○方程式が虚数αを解にもてば$\bar{\alpha}$も解であることに興味・関心をもち、 ○3次方程式の解と係数に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 |
| | <図形と方程式> 1. 直線上の点 | | <ul style="list-style-type: none"> ○線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算することができる。 ○数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○内分点の求め方と同様の考え方で外分点を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○数直線上の点について調べようとする。 |
| | 2. 平面上の点 | | <ul style="list-style-type: none"> ○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ○距離の公式を利用して、図形の性質を証明できる。 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○三角形の重心の座標の公式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質を証明する際に、座標軸を適切に設定することで、計算が簡単になるように工夫をすることができる。 ○点の座標を求めるのに利用できる適切な図形の性質を判断でき、図形的条件(点対称、線対称など)を式で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の問題を考察しようとする。 ○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 |

| | | | | |
|---|------------|--|---|--|
| | 3. 直線の方程式 | <ul style="list-style-type: none"> ○直線が x, y の 1 次方程式で表されることを理解している。 ○ x 軸に垂直な直線は $y = mx + n$ の形で表せないことを理解している。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○1 点を通る直線の方程式から、異なる 2 点を通る直線の方程式に拡張して考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。 |
| | 4. 2 直線の関係 | <ul style="list-style-type: none"> ○2 直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ○連立方程式の実数解の個数と、2 直線の共有点の個数の関係を理解している。 ○ $kF(x,y) + G(x,y) = 0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ○点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○連立方程式の解の状況を、2 直線の位置関係から考察することができる。 ○2 直線の交点を通る直線を、方程式を用いて考察することができる。 ○直線に関して対称な点の座標について、2 直線の関係を用いて考察することができる。 ○直線の方程式を利用して、図形の性質を証明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○2 直線の平行・垂直の関係を、直線の傾きに注目して考察しようとする。 ○2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ○三角形の垂心について、直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。 |
| 6 | 5. 円の方程式 | <ul style="list-style-type: none"> ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○ x, y の 2 次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ○3 点を通る円の方程式を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○円の方程式が x, y の 2 次方程式で表されることを理解し、x, y の 2 次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ○3 点を通る円と、この 3 点を頂点とする三角形との関係を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○与えられた方程式が表す図形に興味・関心をもち、 |
| | 6. 円と直線 | <ul style="list-style-type: none"> ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ○円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○円と直線の共有点の個数を、2 次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ○直線が円によって切り取られてできる線分の長さを、円の中心と直線の距離を用いて考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○円と直線の位置関係を、2 次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 |

| | | | | | | |
|---|---|----------------------|----|--|--|---|
| | | | | | | |
| | | 7. 2つの円 | | <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の位置関係を調べることができる。 ○2円の中心間の距離と半径の関係を利用して、ある円と外接・内接する円の方程式を求めることができる。 ○$kF(x,y) + G(x,y) = 0$の形を利用して、円の方程式を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の位置関係を、2円の中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ○2つの円の交点の座標や、交点を通る円について、2つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○2つの円の交点と、その交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 |
| | | 8. 軌跡と方程式 | | <ul style="list-style-type: none"> ○直線や円などを、条件を満たす点全体の集合として考えることができる。 ○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ○軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している ○点を満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 |
| | | 9. 不等式の表す領域 | | <ul style="list-style-type: none"> ○不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 ○図で与えられた領域を不等式で表すことができる。 ○領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 ○領域を利用して、命題を証明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○変数 x, y についての不等式を満たす点 (x, y) 全体の集合がどのような図形であるかを考察することができる。 ○条件の真理集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもつ。 ○不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。 ○放物線を境界線とする領域に関心をもち、考察しようとする。 |
| | 7 | <三角関数> 1. 一般角と弧度法 | 27 | <ul style="list-style-type: none"> ○一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 ○弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。 ○扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○弧の長さや角を図る方法として、弧度法を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一般角を動径とともに考察することができる。 ○新しい角の測り方である弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。 |
| 2 | 9 | 2. 三角関数 | | <ul style="list-style-type: none"> ○弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ○単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。 ○三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をした | <ul style="list-style-type: none"> ○三角比の定義を、三角関数の定義に一般化して考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。 |

| | | | | |
|-------------|--|--|---|---|
| | | りすることができる。 | | |
| 3. 三角関数の性質 | | ○ $-\theta$ や $\theta \pm \pi$ などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 | ○三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。 | ○単位円を利用して、三角関数の性質を調べようとする。 |
| 4. 三角関数のグラフ | | ○三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ○いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ○ $y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。 | ○単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。 ○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 | ○ $y = \sin\theta$ と $y = \cos\theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味、関心をもつ。 ○周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。 |
| 5. 三角関数の応用 | | ○三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。 ○角が $\theta + \alpha$ の形をしている三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。 ○三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 | ○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。 ○変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。 | ○三角関数を含む方程式・不等式の解くことに取り組む意欲がある。 ○やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。 |
| 6. 加法定理 | | ○加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ○正接の加法定理を利用して、2直線のなす角の鋭角を求めることができる。 | ○角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ○正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。 | ○加法定理を2点間の距離の公式を用いて証明しようとする。 ○加法定理を利用して、平面上の点を回転させたときの座標の求め方を考察しようとする。 |
| 7. 加法定理の応用 | | ○2倍角、半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。 ○2倍角の公式を利用して、等式を証明することができる。 ○2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 | ○3倍角の公式を、 $3\alpha = 2\alpha + \alpha$ としてとらえることができる。 ○2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。 | ○加法定理から、2倍角の公式、半角の公式を導こうとする。 ○和と積の公式に関心を示し、その公式を用いて三角関数の値を求めたり、三角方程式の解を求めたりしようとする。 |
| 8. 三角関数の合成 | | ○ $a\sin\theta + b\cos\theta$ を $r\sin(\theta + \alpha)$ の形に変形する方法(三角関数の合成)を理解している。 ○合成後の変数のとる値の範囲に注意して、 $a\sin x + b\cos x = k$ の形の方程式や不等式を解くことができる。 ○ x の関数 $y = a\sin x + b\cos x$ の式を変形して、関数の最大値・最小値を求めること | ○ $a\sin\theta + b\cos\theta$ の変形にあたり、同じ周期をもつ2つの関数の合成であることを理解している。 | ○同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。 |

| | | | | | | |
|----|-------------------------|----|---|---|--|--|
| | | | | ができる。 | | |
| 10 | <指数関数と対数関数> 1. 指数の拡張 | 19 | ○指数が整数，有理数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を用いた計算をすることができる。 ○累乗根の定義を理解し，累乗根の計算ができる。 | ○累乗根をグラフによって考察することができる。 ○指数が整数の場合だけではなく，無理数の場合まで拡張して，累乗の定義を理解している。 | ○指数法則が成り立つようにするには，0乗，負の整数乗，分数乗をどのように定義すればよいかと調べようとする。 ○負の数のn乗根に興味を示し，具体的に理解しようとする。 | |
| | 2. 指数関数 | | ○指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ○底と1の大小に注意して，指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ○ $a^x > 0$ に注意して，おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。 | ○指数関数の増減によって，大小関係や不等式・方程式を考察することができる。 | ○指数関数のグラフの概形を，点をプロットしてかこうとする意欲がある。 | |
| | 3. 対数とその性質 | | ○指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ○対数の定義を理解し，対数の値を求めることができる。 ○対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算や，等式の証明の方法がわかる。 | ○指数法則から，対数の性質を考察することができる。 | ○指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 | |
| | 4. 対数関数 | | ○対数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ○底と1の大小に注意して，対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ○おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。 | ○対数と指数の関係から，両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ○対数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ○真数が正であることに着目し，対数の性質を適切に利用して問題を解決することができる。 | ○やや複雑な対数方程式，対数不等式に積極的に取り組みようとする。 | |
| | 5. 常用対数 | | ○正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して，対数の値を求めることができる。 ○常用対数の定義を理解し，それに基づいて種々の値を求めることができる。 ○常用対数を利用して，桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 | ○非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。 ○底の変換公式を用いることによって，どの対数も常用対数で表現することができる。 ○桁数や小数首位が第n位の数を，不等式で表現することができる。 | ○桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ○バクテリアの分裂など，現実世界の問題を，常用対数を用いて解こうとする。 ○対数で表された数が無理数であることの証明に関心を持ち，考察しようとする。 | |
| 11 | <微分法と積分法> 1. 微分係数 | 37 | ○平均変化率，微分係数の定義を理解し，それらを | ○関数の極限値の性質を直感的に理解し，その性質 | ○平均の速さと瞬間の速さに興味を持ち，平均変化 | |

| | | | | | |
|----|---|-------------------|---|--|--|
| | | | <p>求めることができる。</p> <p>○微分係数の図形的意味を理解している。</p> | <p>を利用して関数の極限値を考察することができる。</p> | <p>率や微分係数との関連を考察しようとする。</p> <p>○種々の関数の極限値を、興味・関心をもって考察しようとする。</p> |
| | | 2. 導関数 | <p>○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。</p> <p>○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。</p> <p>○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。また、微分係数の値などから関数を決定することができる。</p> | <p>○導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使って表現することができる。</p> | <p>○二項定理を利用して関数 x^n の導関数の公式の証明を、興味・関心をもって理解しようとする。</p> |
| | | 3. 接線 | <p>○接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。</p> <p>○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。</p> | <p>○微分係数の図形的な意味と、直線の方程式の公式から、接線の方程式の公式を考察することができる。</p> <p>○定点 C から曲線に接線を引くとき、接点 A における接線が点 C を通ると読み替えて考察することができる。</p> | <p>○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式や接点の座標を求めようとする。</p> |
| | | 4. 関数の値の変化 | <p>○導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。</p> <p>○導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。</p> <p>○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。</p> | <p>○関数の増減を接線の傾きから考察することができる。</p> <p>○関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察することができる。</p> <p>○関数の極値から関数を決定する際に、必要十分条件に注意して考察することができる。</p> | <p>○関数の増減や極値の問題を導関数を用いて調べ、解決しようとする。</p> <p>○4次関数の増減や極値を調べたり、グラフをかいたりする意欲がある。</p> |
| 12 | | 5. 最大値・最小値 | <p>○導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。</p> <p>○最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意している。</p> <p>○導関数を利用して、最大値・最小値の応用問題を解くことができる。</p> | <p>○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、明確に意識して考察することができる。</p> | <p>○身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。</p> |
| | | 6. 関数のグラフと方程式・不等式 | <p>○不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。</p> <p>○導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。</p> | <p>○方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。</p> <p>○不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察することができる。</p> | <p>○方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。</p> |
| 3 | 1 | 7. 不定積分 | <p>○不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに</p> | <p>○微分法の逆演算としての不定積分を考察すること</p> | <p>○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積</p> |

| | | | | | |
|---|------------------|----|--|---|---|
| | | | <p>示することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ○与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を、不定積分を利用して求めることができる。 | <p>ができる。</p> | <p>分を求めようとする。</p> |
| | 8. 定積分 | | <ul style="list-style-type: none"> ○定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ○定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 ○上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識することができる。 ○定積分の計算で、分数計算を容易にするための工夫を考察することができる。 ○上端が x である定積分を、x の関数ととらえて問題を解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の 1 つの不定積分であることに興味・関心を持ち、考察しようとする。 |
| | 9. 面積 | | <ul style="list-style-type: none"> ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ○上下関係が入れ替わる 2 曲線で囲まれた面積を求めることができる。 ○絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。 ○3 次関数のグラフとその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察することができる。 ○放物線と直線の交点の座標が複雑な値であるとき、放物線と直線で囲まれた部分の面積を、定積分の公式を利用するなどして、工夫して求める方法を考察することができる。 ○微分や定積分の計算で、$(x+a)^n$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。 ○微分や定積分の計算で、$(x+a)^n$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。 ○微分積分学の基本定理について、興味・関心を持ち、考察しようとする。 |
| 2 | 以降 標準<入試演習> | 18 | <p>これまでに学んだ学習内容について、演習を通して観点別に評価を行う。</p> | | |
| | 標準<入試演習> | 18 | | | |
| 2 | <関数> 1. 数列の極限 | | <ul style="list-style-type: none"> ○分数関数の定義について理解し、関数を適切に変形して、そのグラフをか | <ul style="list-style-type: none"> ○分数関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替 | <ul style="list-style-type: none"> ○方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 |

| | | | | | |
|--|--|------------------|---|---|--|
| | | | <p>くことができる。</p> <p>○分数関数のグラフと直線の共有点の座標が求められる。</p> <p>○分数不等式を解くことができる。</p> | <p>えて考察できる。</p> <p>○分数不等式の解を、分数関数のグラフと直線の上下関係に読み替えて考察できる。</p> | |
| | | 2. 無限等比数列 | <p>○無理関数の定義について理解し、関数を適切に変形して、そのグラフをかくことができる。また、値域が求められる。</p> <p>○無理関数のグラフと直線の共有点の座標が求められる。</p> <p>○無理不等式を解くことができる。</p> | <p>○無理関数 $y = \sqrt{ax}$ のグラフを放物線の一部として理解し、対称移動の考え方で $y = -\sqrt{ax}$ などのグラフを考察できる。</p> <p>○無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えて考察できる。</p> <p>○無理不等式の解を、無理関数のグラフと直線の上下関係に読み替えて考察できる。</p> | <p>○方程式の同値変形について考察し、理解を深めようとする。</p> <p>○方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。</p> |
| | | 3. 逆関数と合成関数 | <p>○逆関数の定義を理解し、種々の関数の逆関数を求められる。</p> <p>○$b = f(a)$ と $a = f^{-1}(b)$ が同値であることを理解している。</p> <p>○合成関数の定義を理解し、種々の関数の合成関数を求められる。</p> | <p>○逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察できる。</p> <p>○2 つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という1つの関数として考察できる。</p> | <p>○逆関数、合成関数の考え方に興味、関心を示す。</p> |
| | | <極限> 1. 数列の極限 | <p>○数列の収束、発散について、記号や用語を正しく理解している。</p> <p>○収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。</p> <p>○不定形を解消するように数列の式を変形することにより、数列の収束、発散を調べることができる。</p> | <p>○工夫して式変形することにより、数列の極限を求めることができる。</p> <p>○数列の極限が簡単に求められない場合に、数列の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて、極限が求められる。</p> | <p>○簡単な無限数列の極限を、グラフなどで直観的に考察しようとする。</p> |
| | | 2. 無限等比数列 | <p>○無限等比数列の極限が求められる。また、無限等比数列の収束・発散を利用して、さまざまな数列の極限が求められる。</p> <p>○無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。</p> <p>○漸化式で表された数列の一般項を求め、その極限値が求められる。</p> | <p>○無限等比数列の極限を、公比の値で場合分けして考察できる。</p> <p>○漸化式で表された数列の項の決まり方を、グラフを利用して視覚化することで、極限を考察できる。</p> | <p>○漸化式で表された数列の極限をグラフで視覚化する方法に、興味、関心をもつ。</p> |
| | | 3. 無限級数 | <p>○無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散をその部</p> | <p>○無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べること</p> | <p>○「項を無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解しようとする。</p> |

| | | | | |
|--------|------------|---|--|---|
| | | <p>分和から調べられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無限等比級数の収束，発散を，公比の値で調べられる。また，無限等比級数の収束条件を理解し，それを利用できる。 ○無限級数の和の性質について理解し，それを用いて無限級数の和が求められる。 ○無限級数の収束，発散を判定する条件を理解し，それを利用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しを含む図形的な問題を，無限等比級数を活用して考察することができる。 ○循環小数が無限等比級数の形に表されることを理解し，無限等比級数の考えを用いて，循環小数を分数で表すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち，無限等比級数を利用して考察しようとする。 |
| | 4. 関数の極限 | <ul style="list-style-type: none"> ○関数の極限に関する用語・記号を正しく理解し，$x \rightarrow a$ や $x \rightarrow \infty$，$x \rightarrow -\infty$ のときの関数の極限を求めることができる。 ○不定形を解消するように関数の式を変形することにより，関数の極限を調べることができる。 ○関数の右側極限，左側極限を調べ，関数の極限の有無について調べられる。 ○指数関数，対数関数の極限が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○関数の極限について，数列の極限における考え方の類似点と相違点を理解している。 ○関数の極限について，グラフなどで直観的に考察できる。 ○極限值をもつ関数の係数決定に関しては，等式を成り立たせるための必要条件を求めて，その十分性をチェックすることで関数の式の係数を決定することができることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○関数の極限を，グラフなどで直観的に考察しようとする。 |
| | 5. 三角関数と極限 | <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な三角関数の極限を求めることができる。 ○$\sin x/x$ の極限が利用できるように関数の式を変形することにより，三角関数を含む関数の極限を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○関数の極限が簡単に求められない場合に，関数の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて，極限が求められる。 ○三角関数の極限を応用して，図形的な問題を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○三角関数が現れる図形的な問題を，三角関数の極限を利用して考察しようとする。 |
| | 6. 関数の連続性 | <ul style="list-style-type: none"> ○定義に基づいて，関数の連続性，不連続性を判定することができる。 ○閉区間で連続な関数が最大値，最小値をもつことを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○中間値の定理が成り立つための条件を正しく理解し，解の存在の証明に活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○連続でない関数があることに興味をもち，グラフを用いてそのことを調べようとする。 |
| 年間授業時数 | | 140 | | |

令和8年度 <5学年 数学B> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学B |
| 使用補助教材 | サクシード 数学Ⅱ+B+C 〔ベクトル〕 チャート式 数学Ⅱ+B+C 〔ベクトル〕 ※いずれも、数研出版 |

| |
|---|
| 目標 |
| <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|-------------|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 1. 数列 | 32 | <ul style="list-style-type: none"> ○数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ○数列の定義、表記について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○数列の一般項を表す式を、定義域が自然数であるnの関数と捉え、新しい概念である数列を、既習の関数と関連付けて考察できる。 ○数の並び方からその規則性を推測して、数列の一般項を考察できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 |
| | | 2. 等差数列とその和 | | <ul style="list-style-type: none"> ○等差数列の公差、一般項などを理解している。また、条件から等差数列の一般項を決定できる。 ○等差数列の和の公式を | <ul style="list-style-type: none"> ○等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。 ○項の正負と数列の和の | <ul style="list-style-type: none"> ○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 |

| | | | | | | |
|---|------------------|--------------|---|--|---|---|
| | | | 適切に利用して、等差数列の和が求められる。 | 増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察できる。 | | |
| 5 | 3. 等比数列とその和 | | <ul style="list-style-type: none"> ○等比数列の公比、一般項などを理解している。また、条件から等比数列の一般項を決定できる。 ○等比数列の和の公式を適切に利用して、等比数列の和が求められる。 ○等比数列の和に関する条件から、初項や公比が求められる。 | ○等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ○複利計算に興味、関心をもち、具体的な問題に取り組みようとする。 | |
| | 4. 和の記号 Σ | | <ul style="list-style-type: none"> ○和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。 ○数列の第k項をkの式で表し、初項から第n項までの和が求められる。 | ○ Σ の性質を利用して、和の計算を簡単に行うことができる。 | ○自然数の2乗の和や3乗の和の公式を導こうとする意欲がある。 | |
| 6 | 5. 階差数列 | | <ul style="list-style-type: none"> ○階差数列について理解し、それを利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ○数列の和と第n項の関係を理解し、数列の一般項が求められる。 | ○数列の規則性の発見に、階差数列が利用できる。 ○初項から第 n 項までの和に着目して、一般項を考察できる。 | ○数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 | |
| | 6. いろいろな数列の和 | | ○和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 | ○ $f(k+1) - f(k)$ を用いる和の求め方を理解し、具体的な問題に活用することができる。 | ○群数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。 | |
| 7 | 7. 漸化式と数列 | | <ul style="list-style-type: none"> ○漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 ○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○漸化式を適切に変形して、数列の特徴を考察することができる。 ○与えられた条件からa_nとa_{n+1}の間に成り立つ漸化式を求めて考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について考察しようとする。 ○確率の問題に漸化式が利用できることに興味、関心をもち、問題解決に利用しようとする。 | |
| 2 | 9 | 8. 数学的帰納法 | <ul style="list-style-type: none"> ○数学的帰納法を用いて、等式を証明できる。 ○数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。 ○数学的帰納法を用いて、不等式を証明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解し、活用することができる。 ○数列の一般項を推測し、それが正しいことの証明に数学的帰納法を活用することができる。 ○数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらを比較するなど、多面的に考察することができる。 | ○数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。 | |
| | 10 | 1. 確率変数と確率分布 | 38 | <ul style="list-style-type: none"> ○確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ○簡単な試行について、確率変数の確率分布を求 | | ○確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする |

| | | | | | |
|----|---|-------------------|--|--|--|
| | | | めることができる。 | | る。 |
| | | 2. 確率変数の期待値と分散 | ○確率変数の期待値, 分散, 標準偏差が求められる。 | ○確率変数の期待値, 分散, 標準偏差などを用いて, 確率分布の特徴を考察することができる。 | ○確率変数の期待値, 分散, 標準偏差の意味を理解し, 進んで確率分布の特徴を調べようとする。 ○確率変数の期待値, 分散に関する公式を, その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 |
| | | 3. 確率変数の変換 | ○確率変数の変換公式を理解し, それを利用して, 期待値, 分散, 標準偏差を求めることができる。 | | ○確率変数の変換公式を, 期待値, 分散, 標準偏差の定義式から導こうとする。 |
| 11 | | 4. 確率変数の和と期待値 | ○同時分布の意味を理解し, 2つの確率変数の同時分布表を求めることができる。 ○確率変数の和の期待値などを, 公式を利用して求められる。 | | ○確率変数の同時分布, 和の期待値の計算に積極的に取り組もうとする。 |
| | | 5. 独立な確率変数と期待値・分散 | ○確率変数の独立について理解し, 等式を用いて表すことができる。 ○事象の独立・従属について理解し, 条件付き確率や乗法定理の計算から事象の独立・従属を導くことができる。 ○独立な確率変数の積の期待値, 和の分散が求められる。 | ○確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係が捉えられている。 | ○独立・従属の観点で事象を考察することに関心をもち, 乗法定理を事象の独立・従属の観点から考えようとする。 |
| 12 | | 6. 二項分布 | ○反復試行の結果を, 二項分布を用いて表すことができる。 ○二項分布に従う確率変数の期待値, 分散, 標準偏差を求めることができる。 | ○反復試行の結果を, 二項分布を用いて考察することができる。 | ○二項分布に興味, 関心をもち, さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。 |
| 3 | 1 | 7. 正規分布 | ○連続的な確率変数について理解し, 期待値と分散が求められる。 ○標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率が求められる。 ○正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換して確率が求められる。 ○二項分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 | ○正規分布の特徴を理解し, さまざまな視点から捉えられる。 ○日常の身近な問題を統計的に処理するのに正規分布を利用できる。 | ○連続的な確率変数である正規分布に興味をもち, 正規分布について積極的に考察しようとする。 |
| | | 8. 母集団と標本 | ○母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布 | ○無作為抽出の方法について, 具体的に考察する | ○実際に行われているさまざまな調査に興味を |

| | | | | | |
|--------|--------------|----|--|---------------------------------------|--|
| | | | が一致することを理解し、母平均、母標準偏差が求められる。 | ことができる。 | もち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。 |
| 2 | 9. 標本平均とその分布 | | <ul style="list-style-type: none"> ○母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められる。 ○標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ○大数の法則について理解している。 | ○母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 | ○大数の法則に興味をもち、標本の大きさ n が大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。 |
| | 10. 推定 | | <ul style="list-style-type: none"> ○推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ○信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。 | ○推定や信頼区間の考え方がわかる。 | ○母平均や母比率の推定に関心を示す。 |
| 3 | 11. 仮説検定 | | <ul style="list-style-type: none"> ○仮説検定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ○仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。 ○母平均に対する仮説検定ができる。 | ○片側検定と両側検定の違いを理解し、適切に活用することができる。 | ○仮説検定によってさまざまな判断ができることに興味をもち、現実の問題の解説に役立てようとする。 |
| 年間授業時数 | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 数学C> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|---|
| 単位数 | 1 単位 | 目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学C | |
| 使用補助教材 | サクシード 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] チャート式 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] ※いずれも、数研出版 | |

| 評価の観点と方法・材料 | |
|--|--|
| <p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。</p> | |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|-------------|----|--|----------|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 1. 平面上のベクトル | 35 | <ul style="list-style-type: none"> ○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ○ベクトルの向き，相等について理解している。 | | ○平面上の図形の移動，力，速度など身近な例からベクトルで表されるものを見つけようとする。 |
| | 5 | 2. ベクトルの演算 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの演算の仕組みを理解し，ベクトルについて，加法，減法，実数倍を考察することができる。 ○ベクトルの平行条件を理解し，1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現して利用できる。 ○ベクトルの分解について理解し，ベクトルを2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの演算において成り立つ法則について，考察することができる。 ○和や差における逆ベクトルや零ベクトルの役割を理解している。 |

| | | | | | |
|---|----|------------|--|---|---|
| 2 | 6 | 3. ベクトルの成分 | <ul style="list-style-type: none"> ○成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算ができる。 ○成分表示されたベクトルを, 2 つのベクトルの 1 次結合の形に表現できる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの平行条件を, 成分表示されたベクトルにも適用し, 成分を求めることができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を, 座標平面上の図形の問題に活用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルと座標平面を関連させ, ベクトルが成分で表現できることに興味, 関心をもつ。 ○座標平面上の図形の問題について, ベクトルを活用して解く解法を知り, ベクトルを用いない場合の解法と比較して考察しようとする。 |
| | | 4. ベクトルの内積 | <ul style="list-style-type: none"> ○内積は実数であることを理解している。 ○大きさとなす角でベクトルの内積を計算することができる。また, 成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。 ○ベクトルのなす角を, 内積を利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し, 計算に利用できる。 ○内積の性質を理解し, 計算に利用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる ○内積の性質を用いて, ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの内積のもつ図形的意味を探ろうとする態度がある。 ○三角形の面積が内積で表せることに興味, 関心を持ち, 問題解決に利用しようとする。 |
| | 7 | 5. 位置ベクトル | <ul style="list-style-type: none"> ○点の位置を, 基準となる点と 1 つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ○線分の内分点, 外分点, 三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○位置ベクトルを活用して, 図形の性質が考察できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○線分 AB を $m:n$ に外分する点の位置ベクトルを表す式が, m と n の大小関係に関わらず同じであることを興味を持ち, 確かめようとする。 |
| | 9 | 6. ベクトルと図形 | <ul style="list-style-type: none"> ○3 点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 ○線分上の点を, 線分を $s:(1-s)$ に内分する点として処理できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 ○ベクトルの分解の一意性を理解し, 計算に利用できる。 ○垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○位置ベクトルを用いて, 平面図形についての命題を証明しようとする。 |
| | | 7. ベクトル方程式 | <ul style="list-style-type: none"> ○直線のベクトル方程式について, 媒介変数を用いて表すことができる。 ○通る 1 点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。 ○ベクトルを用いて 2 直線のなす角を求めることができる。 ○円や円の接線のベクトル方程式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○直線上の点を位置ベクトルで考察し, 直線のベクトル方程式と関連付けることができる。 ○点が線分 AB 上に存在する条件を活用して, 点 P の存在範囲を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。 ○点と直線の距離の公式が, ベクトルを利用して導けることに興味を持ち, 公式を証明しようとする。 |
| | 10 | 1. 空間の座標 | <ul style="list-style-type: none"> ○空間における図形を, 座標を利用して示すことが | | <ul style="list-style-type: none"> ○既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張 |

| | | | | | |
|---|----|------------|--|---|--|
| 3 | 11 | | <p>できる。</p> <p>○座標空間において，点の座標，2点間の距離などが求められる。</p> | | しようとする。 |
| | | 2. 空間のベクトル | <p>○空間図形において，ベクトルの和や差を考えることができる。</p> <p>○空間のベクトルを，3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。</p> | <p>○空間のベクトルを，平面上のベクトルの拡張として捉えることができ，平面上のベクトルで成り立つ性質が，空間においても同様に成り立つことを理解している。</p> | <p>○空間のベクトルと平面上のベクトルを比較して考察しようとする。</p> |
| | | 3. ベクトルの成分 | <p>○成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。</p> <p>○成分表示されたベクトルを，3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。</p> <p>○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。</p> | <p>○空間のベクトルの成分表示を，平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。</p> | <p>○空間のベクトルの成分表示と平面上のベクトルの成分表示を比較して考察しようとする。</p> |
| | 12 | 4. ベクトルの内積 | <p>○立体図形におけるベクトルの内積を，適切な方法で計算できる。</p> <p>○ベクトルのなす角を，内積を利用して求めることができる。</p> <p>○ベクトルの垂直条件を理解し，計算に利用できる。</p> | <p>○空間のベクトルの内積を，平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。</p> <p>○座標空間の3点で定まる三角形の角の大きさを，ベクトルを利用して求めることができる。</p> <p>○ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。</p> | <p>○空間のベクトルの内積と平面上のベクトルの内積を比較して考察しようとする。</p> <p>○成分表示されたベクトルの内積の公式を，平面の場合の拡張として導こうとする。</p> |
| | | 1 | 5. 位置ベクトル | <p>○位置ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して，それらを利用できる。</p> | <p>○位置ベクトルの一意性を理解し，図形の性質を証明できる。</p> |
| | 2 | 6. ベクトルと図形 | <p>○空間において3点が一直線上にあるための条件を理解している。</p> <p>○ベクトルの分解の一意性を理解し，計算に利用できる。</p> <p>○ある点が3点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し，それを利用することができる。</p> | <p>○3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。</p> <p>○3点で定まる平面上に点Pがあることを，ベクトルで表現して利用できる。</p> <p>○線分の長さ，垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。</p> <p>○内積を利用して，直線に垂線を下ろしたときの交点の座標を求めることができる。</p> | <p>○3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し，その結果を利用しようとする。</p> |

| | | | | |
|--------|---------------|--|--|--|
| 3 | 7. 座標空間における図形 | <p>○座標空間における線分の内分点・外分点などの座標が求められる。</p> <p>○座標軸に垂直な平面の方程式，球面の方程式について理解している。</p> | <p>○空間ベクトルを利用して，線分の分点の座標などを考察できる。</p> <p>○球面と平面が交わってできる図形を，連立方程式の解の集合として捉えることができる。</p> | <p>○球面の方程式に興味をもち，考察しようとする。</p> <p>○座標空間における平面の方程式，直線の方程式に興味をもち，考察しようとする。</p> |
| 年間授業時数 | | 35 | | |

令和8年度 <6学年 数学I演習> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学I、数学A |
| 使用補助教材 | 数研出版 サクシード数学I+A 東京書籍 攻略!共通テスト Pick Up 数学I+A, II+B+C |

| |
|---|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・数学I、数学Aの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、大学入試における得点力向上を図る。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストや各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。(関心・意欲・態度) [授業時の学習態度、提出ノートの内容] ・1つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。(数学的な見方や考え方) [定期考査、小テスト] ・数学I、数学Aの全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。(数学的な技能) [定期考査、小テスト] ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。(知識・理解) [定期考査、小テスト] |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 |
|--------|----|---|----|--|
| 1 | 4 | <2次関数> 最大・最小問題 方程式・不等式への応用 平行移動 | 6 | ・文字係数を含む2次関数について、頂点の座標を求め、グラフの平行移動について考察することや、定義域における関数の最大最小問題を解決することができる。さらに、方程式・不等式の問題についてグラフを利用して考察することができる。 |
| | 5 | <場合の数と確率> 順列・組合せ 確率の計算 条件付き確率 | 6 | ・公式を用いて順列・組合せの数を求めることや、樹形図などを利用して場合の数を求めることができる。確率について、基本計算や連続試行の確率、条件付き確率など典型パターンについての計算法を理解し、これらを利用して計算することができる。 |
| | 6 | <平面図形と図形の計量> 三角比 正弦定理、余弦定理 | 6 | ・三角比を用いて、角度や長さを計算することや円に内接する四角形に関する問題の解法について習熟する。 |
| | 7 | <整数問題> 約数・倍数の問題 剰余類・不定方程式 | 6 | ・整数を扱った入試問題の典型的パターンを学習し、これらを用いて問題解決することができる。 |
| 2 | 9 | <平面図形の性質> <データの分析> 箱ひげ図、散布図、平均、分散、 標準偏差、共分散、相関係数 | 6 | ・チェバの定理、メネラウスの定理や方べきの定理を理解し、これらを用いた典型問題を解決することができる。 ・データ分析の手法を理解し、統計の図式の解読を通して、統計量について考察することができる。与えられたデータから統計量を計算することや2種類のデータの相関について考察することができる。 |
| | 10 | ・総合問題演習 (問題導入部における判断力の強化) | 8 | ・共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問の前半部分の解答方針が即座に立てられるかに指導の重点を置く。 |
| | 11 | ・総合問題演習 (問題中間部における解決力の強化) | 8 | ・総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問題の中盤から後半にかけて、粘り強く解答する応用力の養成を目指す。 |
| | 12 | ・総合問題演習 (問題全体を通じた総合解決力の強化) | 6 | ・総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。試験時間内に全問題を解き切り、更に見直しをするなど、時間配分にも配慮した解答力の養成を目指す。 |
| 3 | 1 | ・総合問題演習 (私大対策演習) | 6 | ・大学入試問題による演習 個別試験に向けた弱点補強 |
| | 2 | ・総合問題演習 (国公立大対策演習) | 6 | ・大学入試問題による演習 個別試験に向けた弱点補強 |
| | 3 | ・総合問題演習 (後期日程対策演習) | 6 | ・大学入試問題による演習 個別試験に向けた弱点補強 |
| 年間授業時数 | | | 70 | |

令和8年度 <6学年 数学Ⅱ演習> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学Ⅱ、数学B、数学C |
| 使用補助教材 | 数研出版 サクシード数学Ⅱ+B C 東京書籍 攻略! 共通テスト Pick Up 数学I+A,Ⅱ+B+C |

| |
|---|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱ、B、C（ベクトル）の全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、共通テストにおける得点力向上を目指す。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【知識・技能】 ・数学Ⅱ、数学B、数学C（ベクトル）の全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。 [定期考査、小テスト]</p> <p>【思考・判断・表現】 ・1つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。 ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。[定期考査、小テスト]</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・与えられた課題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・授業内での演習を通して、取り扱った問題の解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ・国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。 [予習課題、提出ノートの内容、過去問演習等]</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|------------|--|----|---|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 | 1章 方程式・式と証明 ○実数の性質 ○複素数 ○2次方程式と解と係数の関係、3次方程式 ○多項式の剰余 ○3次方程式の解とその個数 2章 図形と方程式 ○2直線の平行・垂直 ○軌跡と領域 ○弦の長さや領域内の点 ○連動点の軌跡 ○領域と最大・最小 3章 三角関数 ○三角関数のグラフ ○加法定理 ○三角関数の合成と最大・最小 ○三角関数を含む方程式・不等式 ○三角関数を含む方程式の解の個数 ○三角関数の図形への応用 ○ $\sin \theta$, $\cos \theta$ の2次式の最大・最小 | 24 | <ul style="list-style-type: none"> ・方程式・式と証明について、基礎的な知識を身につけている。 ・図形と方程式について、基礎的な知識を身につけている。 ・三角関数について、基礎的な知識を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・方程式・式と証明について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 ・図形と方程式について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 ・三角関数について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストにおける諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して、取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|--|
| 6 | <p>4章 指数関数・対数関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対数不等式，指数関数の最大・最小 ○常用対数と N^m の桁数 ○指数方程式の解の存在範囲 ○$t=a^x+a^{-x}$ とおく方程式 ○対数関数の最大・最小 <p>5章 微分と積分</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3次関数の極値，接線の方程式 ○3次関数のグラフと3次方程式の実数解 ○2つの放物線で囲まれた図形の面積 ○定積分を含む関数 ○極値からの3次関数の決定と接線の本数 ○3次関数の最大・最小の応用 ○x軸と曲線で囲まれた図形の面積 ○2つの放物線とその共通接線で囲まれた図形の面積 ○絶対値記号を含む関数のグラフと面積(1) ○2つの放物線で囲まれた図形の面積の最大・最小 ○3次関数のグラフとその接線で囲まれた図形の面積 ○面積の和の最大・最小 ○絶対値記号を含む関数のグラフと面積(2) | <p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指数関数・対数関数について、基礎的な知識を身につけている。 ・微分と積分について、基礎的な知識を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・三角関数について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 ・微分と積分について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 | |
| 2 | <p>9</p> <p>6章 数列</p> <ul style="list-style-type: none"> ○等差数列・等比数列とその和(1) ○分数で表された数列，共通する項の数列 ○階差数列，和が与えられた数列 ○漸化式と数学的帰納法 ○等差数列・等比数列とその和(2) ○余りの数列 ○漸化式と数列 ○群数列 <p>10</p> <p>7章 統計的な推測</p> <ul style="list-style-type: none"> ○独立な確率変数の平均・分散・標準偏差 ○二項分布とその平均・分散 ○連続型確率変数と確率密度関数 ○正規分布の標準化 ○母平均の仮説検定 ○二項分布の正規分布による近似 | <p>22</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数列について、基礎的な知識を身につけている。 ・統計的な推測について、基礎的な知識を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数列について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 ・統計的な推測について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストにおける諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して、取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。 |

| | | | | | | |
|--------|-----|--|----|---|---|--|
| | 11 | <ul style="list-style-type: none"> ○母比率の推定 ○母比率の仮説検定 <p>8章 ベクトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベクトルの和・差・実数倍と内積 ○交点の位置ベクトルと面積比 ○直線のベクトル方程式 ○直線と平面の交点 ○角の二等分線・辺の垂直二等分線 ○ベクトル方程式が表す図形とその面積 ○空間における交点の位置ベクトル ○空間座標と空間ベクトル ○空間図形とベクトル ○平行六面体とベクトル | | <ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルについて、基礎的な知識を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルについて、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身につけている。 | |
| | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた総合問題演習 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率 80%を目指し、試験時間内に全問題を解き切ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率 80%を目指し、時間内に解き切り、更に見直しを行えるよう解答方針を検討し、時間短縮を図ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストにおいて、目標点を取るために、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。 |
| 3 | 1~3 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試対策演習 | 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト受験に向けた直前演習 ・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強 | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 数学Ⅱ応用> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学Ⅰ、数学A 数学Ⅱ、数学B、数学C |
| 使用補助教材 | 数研出版 サクシード数学Ⅰ+A Ⅱ+B C 数研出版 メジアン数学演習ⅠⅡ・ABC 受験編 |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ、A、Ⅱ、B、C（ベクトル）の全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、大学入試における得点力向上を目指す。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【知識・技能】・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C（ベクトル）の全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。[定期考査、小テスト]</p> <p>【思考・判断・表現】・1つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。[定期考査、小テスト] <p>【主体的に学習に取り組む態度】・与えられた課題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での演習を通して、取り扱った問題の解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ・国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。[予習課題、提出ノートの内容、過去問演習等] |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|------------------|--|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | <数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cの復習> ・関数と方程式・不等式 ・式と証明、論理 ・整数の性質 ・図形の性質 ・図形と方程式 ・ベクトル | 24 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式の計算、式の証明を処理することができる。 ・図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身につけている。 ・各関数の基本性質を理解するとともに、最大最小問題の解決力を高める。 ・位置ベクトルを利用して図形の位置関係（平行、垂直）や内分比や外分比を求めることができる。ベクトル方程式を理解し、問題解決の場面でこれを利用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グラフを活用して方程式・不等式の問題を考察することができる。 ・円の方程式や円周上の点における接線の方程式などを利用すること、点と直線の公式を理解し、円と直線の位置関係の考察などに応用し、解決できる。 ・整数問題を多角的に考察し、解決することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試における諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して、取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。 |
| 2 | 9 10 11 | <数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cの復習> ・場合の数・確率 ・三角・指数・対数関数 ・数列 ・データの分析 ・統計的な推測 ・微分法の応用 ・積分法の応用 | 22 | <ul style="list-style-type: none"> ・和の法則や積の法則、順列・組合せの考えを理解して、場合の数を求め、それから確率を求めるための知識を身に付けている。 ・数列の諸公式や漸化式の基本パターンについて理解し利用できる。 ・データを用いて事象を表現し、処理する仕方や傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数列の確率の問題への応用など、一つ分野のみならず、他分野との融合問題について、問題を解決する手段を考察することができる。 ・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試における諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して、取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。 |
| | 12 | ・総合問題演習（問題全体を通じた総合解決力の強化） | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、解法で扱われる数学的知識や公式を用いることができる。 ・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率80%を目指し、試験時間内に全問題を解き切ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、各大問の解答方針を立てることができる。 ・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率80%を目指し、時間内に解き切り、更に見直しを行えるよう解答方針を検討し、時間短縮を図ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。 |
| 3 | 1~3 | ・大学入試対策演習 | 18 | ・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強 | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 数学Ⅲ> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 数研出版 数学Ⅲ |
| 使用補助教材 | サクシード 数学Ⅲ チャート式 数学Ⅲ ※いずれも、数研出版 |

| |
|---|
| 目標 |
| 微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【知識・技能】微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】数列や関数の値の変化に着目し、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p><評価の方法と材料> 出席状況、定期考査、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|----------------------|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | <微分法> 1. 微分係数と導関数 | 24 | ○微分係数の定義と、その図形的意味を理解している。 ○微分可能性と連続性の関係を理解し、連続ではあるが微分可能でないことを示せる。 ○導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分できる。 | ○微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察できる。 ○導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。 | ○微分係数の図形的意味を考察しようとする。 ○微分可能性と連続性の関係について、興味、関心をもつ。 |
| | | 2. 導関数の計算 | | ○導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を利用して、種々の導関数を求めることができる。 | ○導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を定義に基づいて証明できる。 | ○さまざまな導関数の性質や公式に興味をもち、定義に基づいて証明しようとする。 ○ $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$ において、 α の範囲を自然数、整数、有理数と拡張していく考え方に興味をもち、考察しようとする。 |

| | | | | | |
|---|---------------------------------------|----|--|---|--|
| | 3. いろいろな関数の導関数 | | <p>○三角関数, 対数関数, 指数関数の導関数を理解し, 三角関数, 対数関数, 指数関数を含む種々の関数の導関数を求めることができる。</p> <p>○αが実数のとき, $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$が成立することを理解している。</p> <p>○対数微分法を利用して, 複雑な関数を微分できる。</p> | <p>○三角関数, 対数関数, 指数関数を含む関数を合成関数とみて, 合成関数の微分法を利用することができる。</p> <p>○自然対数の底 e を考える有用性を理解している。</p> | <p>○関数の極限としての値 e (自然対数の底) について興味をもち, 考察しようとする。</p> <p>○αが実数のとき $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$が成り立つことの証明に対数微分法が利用できることに興味をもち, 考察しようとする。</p> |
| | 4. 第 n 次導関数 | | <p>○第 n 次導関数の定義とその表現方法を理解し, 種々の関数の第 n 次関数が求められる。</p> | <p>○第 2 次導関数, 第 3 次導関数を求めることで, 一般の第 n 次導関数を予想し, 求めることができる。</p> | |
| | 5. 関数のいろいろな表し方と導関数 | | <p>○方程式 $F(x, y) = 0$ を関数とみて, 合成関数の導関数を利用して微分できる。</p> <p>○曲線の媒介変数表示を理解し, 媒介変数で表された関数の導関数が求められる。</p> | <p>○方程式 $F(x, y) = 0$ を陰関数とみる考え方を理解している。</p> <p>○1 つの曲線がいろいろな式で表されることを理解し, その導関数について考察することができる。</p> | <p>○陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について, その簡便さを理解し, 積極的に利用しようとする。</p> |
| 5 | <p><微分法の応用></p> <p>1. 接線と法線</p> | 26 | <p>○微分係数の意味を理解しており, 接線の方程式が求められる。</p> <p>○公式を利用して, 法線の方程式が求められる。</p> <p>○$F(x, y) = 0$ で表された曲線の接線の方程式を, 陰関数の微分法を利用して求められる。</p> | <p>○接線に直交する条件と, 直線の方程式の公式から, 法線の方程式の公式を考えることができる。</p> <p>○曲線外の定点 C から曲線に接線を引くとき, 接点 A における接線が点 C を通ると読み替えて, 接線の方程式を求めることができる。</p> <p>○共通な接線をもつ条件を理解し, 問題の解決に利用できる。</p> | <p>○方程式の重解と微分の関係についての証明に関心をもち, 考察しようとする。</p> |
| | 2. 平均値の定理 | | <p>○平均値の定理と, その図形的意味を理解し, 具体的に c の値を求めることができる。</p> | <p>○平均値の定理を利用して, 不等式を証明できる。</p> | <p>○平均値の定理に興味をもち, 図形的意味を考察しようとする。</p> <p>○平均値の定理の証明に興味をもち, 考察しようとする。</p> |

| | | | | |
|---|----------------|---|--|--|
| | 3. 関数の値の変化 | <p>○導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減や極値が調べられる。</p> <p>○$f(x)$が$x = a$で微分可能な場合にも、増減表から$f(a)$が極値になるかどうかを判定できる。</p> <p>○関数の極値に関する条件から、関数を決定することができる。</p> | <p>○平均値の定理を利用して導関数の符号と関数の増減の関係を証明する方法を理解している。</p> <p>○$f'(a) = 0$は、$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。</p> <p>○関数の極値に関する条件から関数を決定する際に、必要十分条件に注意している。</p> | <p>○関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。</p> |
| | 4. 関数の最大と最小 | <p>○導関数を利用して増減表をかくことができ、関数の最大値・最小値が求められる。</p> | <p>○最大・最小の応用問題で、変数のとり方、定義域に注意している。</p> | <p>○身近にある最大値・最小値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。</p> |
| | 5. 関数のグラフ | <p>○曲線の凹凸の定義を理解し、第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。また変曲点が求められる。</p> <p>○導関数、第2次導関数を利用して、増減、凹凸、変曲点、漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができる。</p> <p>○第2次導関数を利用し、増減表をかかなくても極値が求められる。</p> | <p>○関数の定義されていないところや、$x \rightarrow \pm\infty$のときの状態を調べて、関数のグラフをかくことができる。</p> | <p>○関数のグラフのさまざまな形に興味をもち、これまで学んだことを利用して調べようとする。</p> |
| 6 | 6. 方程式、不等式への応用 | <p>○導関数を利用して、不等式の証明問題、方程式の実数解の個数問題を解くことができる。</p> | <p>○不等式を、関数の値に関する条件式に読み替えて考察できる。</p> <p>○方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸に平行な直線との共有点の個数に読み替えて考察できる。</p> | <p>○方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。</p> |
| | 7. 速度と加速度 | <p>○ベクトルの成分を微分することによって、速度ベクトル、加速度ベクトルが求められることを理解し、実際に求めることができる。</p> <p>○等速円運動、角速度の定義を理解し、等速円運動をしている点の速度、加速度の関係が調べられる。</p> | <p>○導関数の意味から、点の位置を表す関数の導関数が点の速度、第2次導関数が点の加速度を表すことを理解できる。</p> <p>○速度、加速度を調べることで、等速円運動やサイクロイド運動の特徴を考察できる。</p> | <p>○直線上を運動する点の速度、加速度を基にして、平面上を運動する点の速度、加速度を考察しようとする。</p> |

| | | | | | |
|---|-----------------------------|----|---|---|---|
| | 8. 近似式 | | ○微分係数の意味を考 えることで、関数の近 似式を考察できる。 ○関数の1次の近似 式を作ることができる。 | ○関数の近似式を活 用して、数の近似値 を求めることができる。 | ○積分法が微分法の 逆演算であることか ら、不定積分を求め ようとする。 |
| 7 | <積分法> 1. 不定積分とその 基本性質 | 24 | ○不定積分の計算で は、積分定数を書き 漏らさずに示すこと ができる。 ○不定積分の定義や 基本性質を理解し、 それを利用して、種 々の関数の不定積分 が求められる。 | ○不定積分の基本性 質が利用できるよう に、式を適切に変形 することができる。 | ○積分法が微分法の 逆演算であることか ら、不定積分を求め ようとする。 |
| | 2. 置換積分法 | | ○置換積分法を理 解し、それを利用し て複雑な関数の不定 積分が求められる。 | ○合成関数の微分 の逆演算として、置 換積分法を理解して いる。 | ○簡単に不定積分 の計算ができないと きに、変数の置換を どのようにすればよ いかを考え、置換積 分を利用しようとし る。 |
| | 3. 部分積分法 | | ○部分積分法を理 解し、それを利用し て複雑な関数の不定 積分が求められる。 | ○積の微分の逆演 算として、部分積分 法を理解している。 | ○簡単に不定積分 の計算ができないと きに、被積分関数の 特徴を見て部分積分 を利用しようとし る。 |
| | 4. いろいろな関数の 不定積分 | | ○分数式を部分分 数に分解する方法を 理解している。 | ○被積分関数を適 切に変形することで、 不定積分を求めるこ とができる。 | ○三角関数の積を 和や積に変形する公 式に興味をもち、自 ら証明しようとし る。 |
| | 5. 定積分とその 基本性質 | | ○定積分の定義や 性質を理解し、それ を利用して種々の関 数の定積分の計算方 法を理解している。 | ○絶対値を含む関 数の定積分を、積分 区間を分けて求める ことができる。 | |
| | 6. 定積分の置換 積分法 | | ○定積分の置換積 分法では、積分区間 の変換に注意して定 積分を計算できる。 ○偶関数、奇関数の 定積分の性質を理 解し、それを利用し て定積分を計算でき る。 | ○ $\sqrt{a^2-x^2}$ の定積 分を、円の面積と関 連付けて考察できる。 円の面積の公式は、 定積分を利用して初 めて数学的にきちん と証明されたことな ることを理解して いる。 | ○簡単には定積分 が求められない関数 について、置換積分 を用いて計算しよ うとする。 |
| | 7. 定積分の部 分積分法 | | ○定積分の部分積 分法を理解し、それ を利用して複雑な関 数の定積分を計算 できる。 | ○ $(\sin x)^n$ の定積 分に部分積分法を用 いて漸化式を導き、 考察することができる。 ○ $e^x \sin x$, $e^x \cos x$ の定積分をそれぞれ I, Jと置いて求める 方法を知り、考察す ることができる。 | ○簡単には定積分 が求められない関数 について、部分積分 を用いて計算しよ うとする。 |

| | | | | | | |
|----------|-----------------------------------|--|---|---|---|--|
| | | 8. 定積分の種々の問題 | | <p>○上端, 下端に変数 x を含む定積分を, x で微分することができる。</p> <p>○上端, 下端がともに定数である定積分を含む関数を, 定積分を定数とおくことで求められる。</p> <p>○数列の和を長方形の面積の和として捉え, その極限を, 適当な関数の定積分で表して求められる。</p> <p>○関数の大小とその関数の定積分の大小との関係を理解している。</p> | <p>○上端が x である定積分を, x の関数とみることができる。</p> <p>○曲線で囲まれた部分の面積を, 微小な長方形の面積の和の極限として捉えられる。</p> <p>○不等式に現れる式の図形的意味を長方形の面積と結び付けて捉え考えることで, 定積分を利用した不等式の証明について考察できる。</p> | <p>○曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形の和で近似する積分の基本的な考え方に興味, 関心をもつ。</p> <p>○不定積分が求められない関数があることや, 微分積分学の基本定理に興味をもち, 調べようとする。</p> |
| 2 | 9 | <積分法の応用> | 26 | | | |
| | | 1. 面積 | | <p>○直線や曲線で囲まれた部分の面積を, 定積分で表して求められる。</p> <p>○$F(x, y) = 0$ で表される曲線で囲まれた図形の面積を求められる。</p> <p>○媒介変数表示された曲線や直線で囲まれた部分の面積を, 置換積分を利用して求めることができる。</p> | <p>○$\sqrt{a^2 - x^2}$ の定積分を, 円の面積と捉えて計算することができる。</p> <p>○面積を求めるとき, 図形の対称性に着目して, 効率的に計算できる。</p> | <p>○グラフの上下関係, 積分範囲などを図にかいて考察して, 種々の曲線や直線で囲まれた部分の面積を求めようとする。</p> |
| | | 2. 体積 | | <p>○立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し, 体積を求めることができる。</p> <p>○回転体の体積を求める方法を理解し, 回転体の体積が求められる。</p> <p>○媒介変数表示された曲線を回転させてできる立体の体積を, 置換積分の考えで求めることができる。</p> | <p>○球を円の回転体と捉え, 球の体積を円 $x^2 + y^2 = 1$ で囲まれた部分を x 軸の周りに1回転させた立体の体積として求めることができる。</p> | <p>○体積 $V(x)$ が断面積 $S(x)$ の1つの不定積分であることに興味, 関心をもち, 考察しようとする。</p> <p>○回転体の体積を, 定積分を用いて求めようとする。</p> <p>○一般の回転体の体積に興味を示し, 具体的に理解しようとする。</p> |
| 3. 曲線の長さ | <p>○定積分を用いて, 曲線の長さを求めることができる。</p> | <p>○面積や体積と同様な考え方で, 曲線の長さが定積分で求められることを理解している。</p> | <p>○曲線の方程式が媒介変数表示や, $y = f(x)$ の形で与えられているとき, 曲線の長さを, 定積分を用いて求めようとする。</p> | | | |
| | | 4. 速度と道のり | | <p>○数直線上を運動する点の位置の変化量や道のりを, 定積分を用いて求めることができる。</p> <p>○座標平面上の点が動く</p> | <p>○座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき, 点が動く道のりは, その点が描く曲線の長さに等しいことを理解し</p> | <p>○数直線上を運動する点の座標, 位置の変化量, 道のりの違いを理解し, 定積分を用いて求めようとする。</p> |

| | | | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-----|--|---|---|
| | | | | 道のりを，定積分を用いて求めることができる。 | ている。 | |
| 2 3 | 10 11 12 1 2 3 | 総合問題演習 | 40 | ○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、解法で扱われる数学的知識や公式を用いることができる。 | ○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、各大問の解答方針を立てることができる。 | ○国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <6学年 数学C> 年間指導計画

| | | |
|--------|--------------------------------------|---|
| 単位数 | 2単位 | <p style="text-align: center;">目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |
| 使用教科書 | 数研出版 数学C | |
| 使用補助教材 | サクシード 数学C チャート式 数学C ※いずれも、数研出版 | |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--------------------------------|----|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | <p>〈複素数平面〉</p> <p>1. 複素数平面</p> | 15 | <p>○複素数平面の定義を理解し、複素数を表す点を複素数平面上に記すことができる。</p> <p>○複素数の実数倍、加法、減法の、複素数平面における図形的意味を理解している。</p> <p>○複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解している。</p> | <p>○共役な複素数の図形的意味とその性質を理解し、証明することができる。</p> | <p>○複素数平面を考えることにより、複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。</p> |
| | | <p>2. 複素数の極形式と乗法、除法</p> | | <p>○極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表すことができる。</p> <p>○極形式を利用して、複素数の積、商を求めることができる。</p> <p>○複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、求めることができる。</p> | | |

| | | | | |
|---|------------------|--|--|---|
| 5 | 3. ド・モアブルの定理 | <ul style="list-style-type: none"> ○ド・モアブルの定理を利用して、複素数の n 乗を求めることができる。 ○複素数の n 乗根の定義と図形的意味を理解し、極形式を利用して n 乗根を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを、極形式を用いて考察することができる。 ○1 の n 乗根の求め方とともに、一般の複素数の n 乗根を求めることができる。 ○複素数 z について等式 $z^n=1$ が成り立つことを利用して、複素数の複雑な式の値が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ド・モアブルの定理の有用性を理解し、活用しようとする。 ○z^n-1 の因数分解の形に興味をもち、考察しようとする。 |
| | 4. 複素数と図形 | <ul style="list-style-type: none"> ○線分の内分点・外分点や、複素数の方程式で表される図形を求めることができる。 ○一般の点を中心とする点の回転について成り立つ複素数の関係式を理解し、回転した点を表す複素数を求めることができる。 ○複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○点 z と連動して動く点 w が描く図形について、その式の意味も含めて考察したり、説明したりできる。 ○複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して、三角形の形状などについて考察できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 |
| 6 | 〈式と曲線〉 1. 放物線 | 20 <ul style="list-style-type: none"> ○放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ○放物線の方程式から、焦点、準線が求められる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点が y 軸上にある放物線の方程式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ○放物線の方程式から、焦点、準線が求められる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点が y 軸上にある放物線の方程式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。 |
| | 2. 楕円 | <ul style="list-style-type: none"> ○楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○楕円の方程式から、焦点などが求められる。また、条件から楕円の方程式を求めることができる。 ○焦点が y 軸上にある楕円の方程式を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○軌跡の考え方を利用して、楕円の方程式を導くことができる。 ○楕円の焦点が x 軸上にあるか、y 軸上にあるか、その方程式から考察ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○条件を満たす軌跡について、条件を変えたときに軌跡がどのように変わるか検討しようとする。 |
| | 3. 双曲線 | <ul style="list-style-type: none"> ○双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○双曲線の方程式から、頂点、焦点、漸近線が求め | <ul style="list-style-type: none"> ○軌跡の考えを利用して、双曲線の方程式を導くことができる。 ○双曲線の焦点が x 軸上にあるか、y 軸上にあるか、その方程式から考察が | <ul style="list-style-type: none"> ○2次曲線が円錐と平面との交線であることに興味、関心をもち、考察しようとする。 |

| | | | | | |
|---|--------------|---|--|--|---|
| 7 | | <p>られる。また、条件から双曲線の方程式を求むることができる。</p> <p>○焦点がy軸上にある双曲線の方程式を理解している。</p> | <p>できる。</p> <p>○2次曲線を、円錐を平面で切った切り口の曲線として捉えられる。</p> | | |
| | 4. 2次曲線の平行移動 | <p>○曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は、曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。</p> <p>○x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を求めることができる。</p> | <p>○複雑な方程式で表された2次曲線を、平行移動を利用して考察することができる。</p> | <p>○直角双曲線 $xy=1$ に関心をもち、考察しようとする。</p> | |
| 2 | 9 | 5. 2次曲線と面積 | <p>○2次曲線と直線の交点や弦の midpoint を2次方程式の実数解を利用して求められる。</p> <p>○2次曲線の接線の方程式を、2次方程式の解(重解)を利用して求められる。</p> <p>○2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。</p> | <p>○2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察することができる。</p> <p>○放物線の接線や焦点の性質について、式を使って考察することができる。</p> | <p>○2次曲線と直線の位置関係について、2次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。</p> <p>○2次曲線の焦点の性質に関心をもち、考察しようとする。</p> |
| | | 6. 2次曲線の性質 | <p>○楕円や双曲線の方程式を、離心率eをもとに求められる。</p> | <p>○放物線、楕円、双曲線を離心率eと1との大小関係で統一的に取り扱うことができる。</p> | <p>○2次曲線と直線の位置関係について、2次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。</p> <p>○2次曲線の焦点の性質に関心をもち、考察しようとする。</p> |
| | 7. 曲線の媒介変数表示 | <p>○曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。</p> <p>○放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求められる。</p> <p>○2次曲線や円を、媒介変数を用いて表すことができる。</p> <p>○媒介変数表示の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求められる。</p> | <p>○媒介変数表示の曲線の平行移動を一般的に取り扱うことができる。</p> <p>○x, y についての方程式では表しにくい曲線を、媒介変数表示を用いて考察することができる。</p> | <p>○曲線の方程式の媒介変数表示に興味、関心をもち、媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。</p> <p>○サイクロイドなど媒介変数表示でないと表しにくい曲線を進んで考察しようとする。</p> | |
| | 8. 極座標と方程式 | <p>○極座標で表された点の位置を表示できる。</p> <p>○点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。</p> <p>○円や直線を極方程式で表すことができる。</p> <p>○曲線の方程式について、</p> | <p>○曲線を極座標を用いて表すと簡潔に表せ、その性質の考察が容易になることがあることに気づく。</p> <p>○2次曲線の極座標表示を、離心率eを用いて統一的に考察することが</p> | <p>○平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味、関心をもち、</p> <p>○2次曲線を極方程式で表すと、離心率を用いて簡潔に表されることに興味、関心をもち、考察し</p> | |

| | | | | | | |
|--------|-------------------------------|---------------------------|----|--|---|---|
| 3 | | | | 直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○2次曲線を、離心率 e を用いて極方程式で表すことができる。 | できる。 | ようとする。 |
| | | 9. コンピュータといろいろな曲線 | | ○いろいろな曲線をコンピュータで描画し、その性質を考察できる。 | | ○媒介変数表示や極方程式で表された曲線をコンピュータで描き、それらを考察することに興味、関心をもつ。 |
| | 10 11 12 1 2 3 | 数学 I・A・II・B・C の復習, 総合問題演習 | 35 | ○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、解法で扱われる数学的知識や公式を用いることができる。 ○共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率80%を目指し、試験時間内に全問題を解き切ることができる。 | ○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、各大問の解答方針を立てることができる。 ○共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率80%を目指し、時間内に解き切り、更に見直しを行えるよう解答方針を検討し、時間短縮を図ることができる。 | ○国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 化学基礎> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版「化学基礎」 |
| 使用補助教材 | 浜島書店「ニューステージ新化学図表 第一学習社「セミナー化学基礎」 |

| |
|--|
| 目標 |
| 年間を通して、生徒実験や演示実験を多く取り入れ、生徒が化学への興味を持ちながら学習を継続し、学力をつけることを目標とする。また、問題演習などを通して、主体的に学習する姿勢を身につける。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点>学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察しようとする力があるか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テスト、授業および実験への参加姿勢などを加味した総合評価とする。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | | | | |
|--------|----|-------------------------------------|----|---|---|--|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 | | | |
| 1 | 4 | ・物質の探求 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質の種類と性質、分離方法を理解できる。 ・イオン結合でできた物質の性質を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果を分析・考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事に疑問をもち、化学の探究の進め方に興味をもつ。 | | | |
| | 5 | ・物質の構成粒子 ・イオンとイオン結合 | | | | | | | |
| | 6 | ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・金属と金属結合 | | | | | | | |
| | 7 | ・物質質量と化学反応式 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・各結合でできた物質や性質を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各結合でできた物質や性質を説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各結合でできた物質に関心をもつ。 |
| 2 | 9 | ・物質質量と化学反応式 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学変化における量的関係を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質質量の計算ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質質量の概念について興味をもち、質量や体積など、それぞれの関係について説明できる。 | | | |
| | 10 | ・化学反応式と量的関係 ・硫酸銅(II)の水和水 | | | | | | | |
| | 11 | ・酸と塩基 ・滴定曲線 ・中和滴定 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・酸・塩基の性質・反応を理解し、中和における酸塩基の量的関係を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて、pHを求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。 |
| | 12 | ・酸化還元反応 ・酸化数 ・半反応式 ・酸化還元滴定 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元の見、酸化数を理解できる。 ・酸化剤・還元剤を反応式で表すことができる | <ul style="list-style-type: none"> ・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・酸素を受け取ることが酸化、酸素を失うことが還元であることに気づく。 |
| 3 | 1 | ・イオン化傾向 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・電池の原理を理解している。 ・電気分解の各極での反応を理解できる。 ・電気量と生成物の関係を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電池や金属の製錬が酸化還元反応を利用したものであることに気づく。 ・身近にある電池の構造や応用のしくみに興味を示す。 | | | |
| | 2 | ・電池 ・電気分解 | | | | | | | |
| | 3 | ・ファラデーの法則 | | | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | | | | |

令和8年度 <4学年 生物基礎> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 104 数研 生基 707 生物基礎 |
| 使用補助教材 | ○新編アクセス 総合生物（生物基礎+生物） 【浜島書店】 ○新課程 フォトサイエンス生物図録 【数研出版】 ○Navi&トレーニング 生物基礎 新訂版 【啓林館】 |

| |
|---|
| 目標 |
| ○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 |
| ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 |
| ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 【観点】 生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 |
| 【方法・材料】 定期考査を中心として、その他にも各種課題（演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---------------------|---|----|---|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | ○生物の特徴 ・多様性と共通性 ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 ○遺伝子とそのはたらき ・遺伝情報とDNA ・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現 | 26 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、さらにはそれらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報に関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報に関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。 |
| 2 | 9 10 11 12 | ○体内環境の維持 ・体内での情報伝達 ・体内での各種調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき | 28 | ○体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、さらにはそれらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。 | ○体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達に関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。 | ○体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達に関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。 |

| | | | | | | |
|--------|-------------|--|----|--|--|---|
| 3 | 1 2 3 | <p>○生物の多様性と生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全 | 16 | <p>○生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全、さらにはそれらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。</p> | <p>○生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全に関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。</p> | <p>○生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全に関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。</p> |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 物理基礎> 年間指導計画

| | |
|--------|-----------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版「707 物理基礎」 |
| 使用補助教材 | 数研出版「リードα 物理基礎」 |

| 目標 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・実験や対話的な学び合いを通じて、日常生活の中の物理現象を正しく理解し、そこに潜む法則性を検証、理解する。 ・ICT 機器などを活用した実験を通じて物理の面白さを体感し、論理的思考力を養い、考える力を身につける。 ・難関大学入試問題に対応できる応用力を身につける。 |

| 評価の観点と方法・材料 |
|--|
| <p><評価の観点>物理現象に対する正しい概念を身につけ、自然現象を物理的に考察することができるかどうか。自然現象に対して数式などを用いた正しい方法で表現して第三者に伝え、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テストや提出物等を加味した総合評価とする。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 運動の表し方 速度 加速度 落体の運動 【実験】重力加速度の測定 | 4 | 速度、加速度の概念を理解し、等加速度運動のグラフから様々な物理量を求めることができる。 | 物体の運動を、時間の関数グラフで表現できる。 ICT 機器を活用して身近な加速度運動を測定し、グラフで表現できる。 つりあいの力と作用反作用の力との違いを区別できる。 力と加速度の関係性を見出すことができる。 | 物体の運動に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | | | 8 | 力を受ける物体に対して運動方程式を立て、物理量を計算できる。 運動方程式を導き、簡単な使い方をマスターする。 | | |
| | 5 | 運動の3法則 力 運動の法則 摩擦力 【実験】運動の法則の測定 運動方程式の使い方 | 8 | | | |
| | | | 6 | | | |
| 2 | 9 | 仕事と力学的エネルギー 仕事と仕事率 エネルギーの保存則 | 5 | 仕事量、仕事率を計算できる。 | 身近な仕事の実験から仕事の原理を理解できる。 エネルギー保存則が成り立つ現象を解析し、物理式を用いて表現できる。 熱力学第一法則を用いて身近な熱機関の仕組みを説明することができる。 ウェーブマシン、身近な波動現象を観察し、その仕組みを説明することができる。 | 様々なエネルギーに疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 波動現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | | | 8 | 力学的エネルギー保存や仕事とエネルギーの関係式を用いて、様々な物理量を計算できる。 | | |
| | 10 | エネルギーと仕事の関係 【実験】力学的エネルギー保存則の検証 | 8 | 熱力学第一法則を理解できる。 | | |
| | | | 6 | 波の基本的性質を理解し、波動現象に関する物理量を求めることができる。 | | |
| 3 | 1 | 音 振動と共振・共鳴 【実験】音の観測実験 | 8 | 管楽器、弦楽器の固有振動数の計算ができる。 オームの法則、交流発電機、変圧器のしくみ、電磁波の性質を理解し、説明することができる。 | 管・弦楽器の倍音の関係が理解できる。 様々な回路における電流や電圧の大きさを、物理式で推測し、実験によって検証することができる。 実験によって電磁誘導の仕組みを説明することができる。 | 楽器の音がでるしくみを探究できる。 電磁気的現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | | | 6 | 身の回りでエネルギーが様々な形態で変換していることを理解できる。 | | |
| | 2 | 物質と電気 電流と電気抵抗 電気とエネルギー | 4 | | | |
| | | | 3 | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 地学基礎> 年間指導計画

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 啓林館「703 高等学校 地学基礎」 |
| 使用補助教材 | 啓林館「センサー 地学基礎」 浜島書店「ニューステージ地学図表」 |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・実験や対話的な学び合いを通じて、日常生活の中の地学現象を、多様な時間・空間スケールで理解し、その法則性を見出す力を身につける。 ・ICT 機器などを活用した実験を通じて、地学現象の観測、データ処理、表現手法などを身につける。 ・大学入学共通テストに対応できる応用力を身につける。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点>地学現象に対する正しい概念を身に着け、自然現象を物理的に考察することができるかどうか。自然現象に対して数式などを用いた正しい方法で表現して第三者に伝えることや、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テストや提出物等を加味した総合評価とする。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|--------|--|--------|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ○地球 ・地球の概観 【実験】地球の大きさの測定 ・地球の内部構造 | 4 | ○地球の姿がどのように明らかになったのかを理解できる。 | ○ICT 機器を用いて、地球の大きさを推定できる。 | ○地球や地球内部で起こる現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | 5 | ○活動する地球 ・プレートテクトニクスと地球の活動 ・地震 | 8 | ○地球の内部構造について知り、その推定方法について理解できる。 ○プレートテクトニクスの完成の背景を理解することができる。 | ○地球内部構造のモデルを作成し、その仕組みについて具体的な数値を用いて表現することができる。 ○プレートテクトニクスによって地球で起こる地殻変動を推測することができる。 | |
| | 6 7 | 【実験】液化化実験 ・火山活動と火成岩の形成 【実験】石膏を用いた噴火実験 | 8 5 | ○プレートテクトニクスの観点から、日本に地震が多く発生する理由を理解できる。 ○プレートテクトニクスの観点から、日本に火山が存在する理由を理解できる。 | ○緊急地震速報の仕組みを活用して、地震波から、その自信の特徴について推測することができる。 ○様々な火成岩を観察し、その構造の違いから火成岩を分類して表でまとめることができる。 | |
| 2 | 9 | ○大気の種類 ・大気圏 ・水と気象 | 5 | ○気温の鉛直分布から大気の種類について理解できる。 | ○身の回りの雲を観察し、大気の状態について推測することができる。 | ○地球表面で起こる現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | 10 | ○太陽放射と大気・海水の運動 ・地球のエネルギー収支 ・大気の大循環 ・海水の循環 | 8 | ○温室効果について理解し、地球温暖化が起こっている理由について説明できる。 ○大気や海洋の大循環を知り、地球のエネルギー輸送について説明できる。 | ○地球温暖化と気候変動の関係性について、世界で起こっている自然災害の事例を調べ、パワーポイント等を活用して表現することができる。 | |
| | 11 | ○日本の天気 ・日本の位置 ・冬から春の天気 ・夏から秋の天気 | 8 | ○日本周辺の大気の種類について理解し、日本の天気の移り変わりを、科学的な視点から説明できる。 | ○身近な天気図から日本周辺の気象現象について簡単な予報をすることができる。 | |

| | | | | | | |
|--------|---|--|----|---|--|--|
| | | <p>【実験】身近な気象観測</p> <p>○地球の誕生 ・宇宙の誕生 ・太陽系の誕生</p> | 6 | <p>○宇宙、銀河、太陽系などの階層構造を知り、その歴史について理解できる。 ○惑星としての地球の特徴について、太陽系の他の惑星と比較して理解できる。</p> | <p>○観測した気象データを活用して、大気の状態についてグラフで表現することができる。 ○地球の生命が誕生した理由について、宇宙空間と地球との位置づけから説明することができる。</p> | |
| 3 | 1 | <p>○地球と生命の進化 ・先カンブリア時代 ・顕生代</p> | 8 | <p>○地球の生命と地球環境との関係について理解し、生命誕生と進化の必然性を説明できる。</p> | <p>○現在の地球環境の移り変わりから、今後の地球環境や生命進化について推測することができる。</p> | <p>○地球の歴史やその推定方法について疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> |
| | 2 | <p>○自然との共生 ・地球環境と人類 ・地震災害・火山災害 ・気象災害</p> | 6 | <p>○日本で起こっている自然災害を知り、その原因や防災対策について理解できる。</p> | <p>○身近な自然環境や災害について、地学的な見方・考え方やSDGsの観点を踏まえて、パワーポイント等を用いて表現することができる。</p> | <p>○地球環境と人間生活の関りについて疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> |
| | 3 | <p>・災害と社会 ・人間生活と地球環境の変化</p> | 4 | <p>日本人の自然災害との向き合い方・共生を知り、これからの地球環境との向き合い方を考えることができる。</p> | <p>○災害時の図上シミュレーションから、人間生活と自然との共生について、自らの考えを表現することができる。</p> | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 化学> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版「化学」 |
| 使用補助教材 | 第一学習社「新課程版 セミナー化学」 浜島書店「ニューステージ新化学図表」 |

| |
|--|
| 目標 |
| (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身に付けるようにする。 |
| (2) 化学的な事物・現象を科学的に探究する力を養う。 |
| (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点></p> <p>「知識・技能」の評価…知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができているか。</p> <p>「思考・判断・表現」の評価…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につけ、その過程において、自ら学習を調整しようとしているか。</p> <p><評価の方法と材料></p> <p>出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--------------------------|---|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 物質の状態 ・ 固体の構造 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 単格子や配位数の意味について理解する。 ・ 金属の結晶格子の名称や配位数，単格子中の原子の数，充填率について理解をしている。 ・ 有機化合物の分類について，炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。 ・ 有機化合物中の成分元素の検出について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 結晶質と非晶質の構造の違いを説明できる。 ・ 金属の結晶格子の名称や配位数，単格子中の原子の数，充填率を説明できる。 ・ 有機化合物を炭素骨格や官能基の違いに基づいて分類することができる。 ・ 与えられ実験結果から，元素分析を行い，有機化合物の組成式や分子式を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な物質でアモルファスに分類されるものは何があるか興味をもつ。 ・ 金属の結晶格子における原子の配列の仕方に興味をもつ。 ・ 有機化合物の特徴や分類について興味をもつ。 ・ 元素分析を中心とした有機化合物の分析について興味をもつ。 |
| | 5 | 有機化合物 ・ 有機化合物の分類と分析方法 | | | | |
| | 6 | 物質の状態 ・ 物質の状態変化 | | | | |
| 7 | 6 | 有機化合物 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 気体分子の熱運動と運動エネルギー，温度の関係について理解する。 ・ 物質を構成する粒子間にはたらく力の大小について理解する。 ・ 気液平衡の考え方を理解する。 ・ 脂肪族炭化水素の立体構造や構造異性体について理解する。 ・ 不飽和炭化水素であるアルケンやアルキンの分子式とその名称について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡散を熱運動に関連づけて説明できる。 ・ 蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断することができる。 ・ 与えられた分子式から構造異性体やその名称を書き出すことができる。 ・ アルケンやアルキンの反応について，反応物や生成物の構造式やその名称を答えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 粒子の熱運動に興味をもつ。 ・ 大気圧や蒸気圧，状態図について興味をもつ。 ・ 脂肪族炭化水素の特徴や構造，反応性について興味をもつ。 ・ アルケンやアルキンの特徴やその構造，反応性について興味をもつ。 | |
| | 7 | ・ 脂肪族炭化水素 | | | | |

| | | | | | | |
|--------|-----------------------|-----------------------|----|--|---|---|
| 2 | 9 | 物質の状態 ・気体 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則を理解し，それらの式を用いることができる。 ・気体には状態方程式が成り立つことを理解する。 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。 ・アルコールの一般式や構造式，名称，分類について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則をそれぞれ適切に使い，気体の圧力や体積，温度を求めることができる。 ・状態方程式から気体の分子量や密度を求めることができる。 ・理想気体と実在気体の違いに基づき，実在気体を理想気体に近づける条件を判断することができる。 ・アルコールやエーテルについて，その構造式や名称を答えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・気体の体積や圧力，絶対温度の関係性について興味をもつ。 ・気体の体積，圧力，温度，物質質量にはそれぞれどのような関係が成り立つのかを，状態方程式をもとに興味をもつ。 ・実在気体について興味をもつ。 ・物質を電解質や非電解質に分けることができる。 ・アルコールやエーテルの特徴やその構造，反応性について興味をもつ。 |
| | 10 | 有機化合物 ・アルコールと関連化合物 | | | | |
| | 11 | 物質の状態 ・溶液 | | | | |
| 12 | 有機化合物 ・アルコールと関連化合物 | | | | | |
| 3 | 1 | 物質の変化 ・化学反応とエネルギー | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応に伴って放出または吸収する熱量をエンタルピー変化を用いて表すことを理解する。 ・ヘスの法則を理解する。 ・ベンゼン環の構造とその特徴について理解する。 ・フェノール類の性質について，アルコールとの差異を確認しながら理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応エンタルピーの種類を判断することで，エンタルピー変化を付した反応式を書いたり，反応エンタルピーを求めたりすることができる。 ・ベンゼンの置換反応や付加反応，酸化反応を構造式を用いた化学反応式で示すことができる。 ・フェノール類や芳香族カルボン酸が関係する反応の化学反応式を示すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応に関わるエンタルピー変化に興味をもつ。 ・ヘスの法則およびその利用について興味をもつ。 ・ベンゼンや芳香族炭化水素の特徴や構造，反応性について興味をもつ。 ・フェノール類や芳香族カルボン酸の特徴や構造，反応性について興味をもつ。 |
| | 2 | 有機化合物 ・芳香族化合物 | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 物理> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 数研出版「707 総合物理1」 数研出版「708 総合物理2」 |
| 使用補助教材 | 数研出版「リードα物理」 ラーズ「共通テスト対策 実力完成直前演習 2026 共通テスト物理」 |

| |
|---|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・理系進学者に対して、体系的に物理の学習の完成をめざす。 ・広範囲に及ぶ物理現象を解析、理解し、物理学の魅力を伝える。 ・受験に対応できる学力を養成することを目標とする。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点>物理現象に対する正しい概念を身に着け、自然現象を物理的に考察することができるかどうか。自然現象に対して数式などを用いた正しい方法で表現して第三者に伝え、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、単元小テストを加味した総合評価とする。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | | |
|--------|---|---|--------|---------------------------|---|--|---------------------------------|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 | |
| 1 | 4 | 運動量の保存 | 4 | 運動量の保存の式をたてられる。 | 衝突現象では、衝突後の運動が解析されることを理解する。 | 実験に主体的に参加し、物理現象を探究的に考えることができる。 物体の運動に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |
| | | 等速円運動 単振動 | 16 | 等速円運動、単振動、万有引力を体系的に説明できる。 | 等速円運動、単振動の運動方程式をたてられる。 | | |
| | 5 | 万有引力 | 8 | 熱力学第一法則から状態変化を理解できる。 | 気体分子の運動を分子運動論から説明できる。 | | |
| | | 気体のエネルギーと状態変化 | | 波の性質 | 波の性質が理解でき、基本的な性質が理解できる。 | | 光の回折・干渉の各現象について説明ができる。 |
| | 6 | ・音 ・光 | 電場 | 10 | 電場と電位、コンデンサーについて理解できる。 | | 電場に関する基礎的事項を説明できる。 |
| | | | | | | | |
| | 2 | 9 | 電流 | 18 | 直流回路について説明ができる。 | | 電磁気の法則を理解し、電氣的現象を総合的に考えることができる。 |
| 磁場 | | | 18 | 電流がつくる磁場、電磁誘導が理解できる。 | 光電効果、X線、コンプトン効果について説明できる。 | | |
| 10 | | 交流回路 | | 10 | 交流回路の概念が理解できる。 | ボーア模型の方程式を立て、エネルギー準位が求められる。 | |
| 11 | | 電子と光 | 10 | 光・粒子の二重性が理解できる。 | 共通テストに対応できる知識が身についている。 | | |
| | | 12 | 原子と原子核 | 10 | | | |
| 3 | 1 | 過去問題や予想問題を解き、理解した学習内容を活用して大学入試テストのレベルの問題を解答することができる | 36 | 力学、電磁気、波動、原子分野の物理概念を理解する。 | 物理法則を使って、計算問題への応用ができる。各分野を超えた複合問題にも対応できる。 | 受験問題においても興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |
| | 2 | | | | | | |
| | 3 | | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | | |

令和8年度 <6学年 物理演習> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 数研出版「707 総合物理1」 数研出版「708 総合物理2」 |
| 使用補助教材 | 数研出版「2026 物理重要問題集 物理基礎・物理」 河合塾「良問の風」 |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> 理系進学者に対して系統的な物理の学習をめざす。 広範囲に及ぶ物理現象を解析し、物理学の見方・考え方を深め、難関大学受験に対応できる学力を養成することを目標とする。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p><評価の観点>物理の内容を踏まえ、学習内容を理解し、理解した内容を活用して大学入試問題を解答する能力が備わっているか。</p> <p><評価の方法と材料>定期考査の他に、毎回の小テストの結果、演習への参加姿勢などを加味した総合評価とする。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--------------------------------|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 等加速度運動 力とつりあい 運動の法則 | 8 | 力学の概念を理解し、式で表わせ、基本的な公式を理解し、様々な物理量を求めることができる。 気体分子の運動に関する熱力学の概念を理解している。波動の基本概念を理解し、特に音波、光波について説明ができる。 | 物体が受ける力を図示でき、つりあいの式や運動方程式をたてることで、複雑な運動における様々な物理量を求めることができる。 気体分子の状態変化への理解ができていてグラフからの読みとりもできる。 | 物体の運動、気体分子の運動、波の性質に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | 5 | 運動量の保存 円運動・万有引力 単振動・単振り子 | 6 | | | |
| | 6 | 温度と熱量 気体分子の運動と状態変化 | 4 | | | |
| | 7 | 波の性質 ・音波 ・光波 | 6 | | | |
| 2 | 9 | 静電気と電場 コンデンサー | 8 | 電磁気学の概念を理解し、基本的な公式がわかり、様々な物理量を求めることができる。 原子分野に関する概念を理解している。20世紀の物理の発展について説明できる。 | 電場と電位、コンデンサー、直流回路、電流と磁場の典型的な問題を理解し、物理量を求めることができる。 粒子の波動性、光の粒子性を理解し、物理公式を使い計算できる。 | 電場と電位、コンデンサー、磁場、回路に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |
| | 10 | 直流回路 電流と磁場 | 8 | | | |
| | 11 | 電磁誘導 交流回路 | 6 | | | |
| | 12 | 電子と光 原子と原子核 | 6 | | | |
| 3 | 1 | 力学、電磁気、波動、原子分野の復習と応用 | 18 | 物理の全範囲を理解し、広い分野で総合的な理解ができています。 | 力学、電磁気、波動、原子分野の物理概念を理解し、計算問題への応用ができる。 | 各分野を超えた複合問題などに対応できる。 |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 発展化学> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 数研出版 「化学」 |
| 使用補助教材 | 第一学習社 「新課程版 セミナー化学」 浜島書店 「ニューステージ新化学図表」 |

| |
|--|
| 目標 |
| (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身に付けるようにする。 |
| (2) 化学的な事物・現象を科学的に探究する力を養う。 |
| (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【知識・技能】知識の習得や知識を概念的に理解しているか、実験操作の基本的技術の習得状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テスト・レポート・ワークシート提出物・問題演習への取組等 <p>【思・判・表】課題を解決するにあたり、既学習事項を活用して解決する、思考力・判断力・表現力などが身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テスト・レポート・ワークシート提出物・問題演習への取組等 <p>【主体的】興味関心をもとに、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組む姿勢、自ら学習を調整する姿勢等を表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テスト・レポート・ワークシート提出物・問題演習への取組等 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---------------------|---|---|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 物質の変化 電池と電気分解 | 55 | <ul style="list-style-type: none"> ・電池のしくみに基づいてダニエル電池、鉛蓄電池、燃料電池の構造や両極で起こる反応式について理解する。 ・水溶液の電気分解において陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電池の両極での反応式を用いて、物質質量などの量的な計算ができる。 ・ある電解液を電気分解した際に陽極および陰極で反応する物質や発生する物質を判断できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電池について、その構造や両極で起こる反応、現象に興味をもつ。 ・電気分解およびその工業的な利用について興味をもつ。 ・反応速度について興味をもつ。 |
| | 5 | 化学反応の速さとしくみ 化学平衡 | | <ul style="list-style-type: none"> ・化学における反応速度の定義を理解する。・反応速度式のモル濃度の指数は実験によって決まることを理解する。 ・実験結果から、速度定数を求める方法を理解する。 ・活性化エネルギーについて理解する。 ・化学平衡の法則を理解し、与えられた反応の平衡定数を濃度を用いて記述することができる。 ・濃度、圧力、温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか理解する。 ・電離度や電離定数を用いて、水素イオン濃度やpHを求める方法を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を処理し反応速度を求めることができる。 ・反応速度式を用いて実験結果の処理などを行い、反応速度や速度定数を求めることができる。 ・触媒を用いた際に反応エンタルピーがどのようになるか判断できる。 ・平衡定数を用い、化学平衡における量的関係を求めることができる。 ・濃度、圧力、温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか、ルシャトリエの原理に基づいて判断できる。 ・電離度や電離定数を用いて量的計算を行い、水素イオン濃度やpHを求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度に関わる反応条件について興味をもつ。 ・化学反応のしくみと活性化エネルギーを用いた考え方に興味をもつ。 ・化学平衡とその考え方に興味をもつ。 ・化学平衡とその考え方に興味をもつ。 ・電離平衡およびそれに関わるさまざまな現象について興味をもつ。 |
| | 6 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から、速度定数を求める方法を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度式を用いて実験結果の処理などを行い、反応速度や速度定数を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度に関わる反応条件について興味をもつ。 |
| | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・活性化エネルギーについて理解する。 ・化学平衡の法則を理解し、与えられた反応の平衡定数を濃度を用いて記述することができる。 ・濃度、圧力、温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか理解する。 ・電離度や電離定数を用いて、水素イオン濃度やpHを求める方法を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・触媒を用いた際に反応エンタルピーがどのようになるか判断できる。 ・平衡定数を用い、化学平衡における量的関係を求めることができる。 ・濃度、圧力、温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか、ルシャトリエの原理に基づいて判断できる。 ・電離度や電離定数を用いて量的計算を行い、水素イオン濃度やpHを求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学平衡とその考え方に興味をもつ。 ・化学平衡とその考え方に興味をもつ。 ・電離平衡およびそれに関わるさまざまな現象について興味をもつ。 | |

| | | | | | | |
|--------|---------------------|---|-----|---|---|--|
| 2 | 9 10 11 12 | 天然高分子化合物 アミノ酸・ポリペプチド ・糖 共通テストおよび大学入 試基礎問題演習 | 55 | <ul style="list-style-type: none"> ・単糖，二糖，多糖に分類されるそれぞれの糖類の化学式と構造，名称，反応性について理解する。 ・α-アミノ酸の示性式や特徴，検出方法，反応性について理解する。 ・双性イオンと等電点の考え方を理解する。 ・DNA と RNA の構造やその違いについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の重合の方法や分子量，特徴について判断することができる。 ・化学式や名称，構造，性質に基づいて糖類を分類することができる。 ・アミノ酸の構造式を書くことができる。 ・DNA や RNA を構成する塩基や糖の種類を判断することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の性質や構造について興味をもつ。 ・糖類の特徴やその構造，反応性，利用例について興味をもつ。 ・アミノ酸やタンパク質の特徴やその構造，反応性について興味をもつ。 ・核酸の特徴やその構造について興味をもつ。 |
| 3 | 1 2 3 | 合成高分子化合物 プラスチック ゴム | 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・合成高分子化合物の分類について理解する。 ・熱可塑性樹脂および熱硬化性樹脂の名称や単量体，利用例，性質を理解する。 ・天然ゴムの構造の特徴について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・構造式に基づいて，合成繊維に関する量的計算を行うことができる。 ・フェノール樹脂の合成において，反応条件と中間生成物を関連付けて判断することができる。 ・構造式や反応式に基づいて，量的計算を行うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・合成繊維の特徴やその重合方法，構造，利用例について興味をもつ。 ・合成樹脂の特徴やその重合方法，構造，利用例について興味をもつ。 ・天然ゴムや合成ゴムの特徴や構造，利用例，性質について興味をもつ。 |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <6学年 生物> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | 104 数研 生物 704 生物 |
| 使用補助教材 | ○ニューグローバル 生物基礎+生物 【東京書籍】 ○スクエア最新図説生物 新課程二訂版 【第一学習社】 ○アクセスノート 生物 【実教出版】 ○チェック&演習 生物 【数研出版】 ○共通テスト対策 実力完成直前演習 生物 【ベネッセコーポレーション】 |

| |
|---|
| 目標 |
| ○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 ○大学共通テストおよび個別試験での問題解答力を身につける。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 【観点】 生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 |
| 【方法・材料】 定期考査を中心として、その他にも各種課題（演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|------------------|---|----|---|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | ○生物の進化 ・生命の起源 ・生物の変遷 ・進化のしくみ ・系統と進化 ・系統と分類 ○生命現象と物質 ・生体物質と細胞 ・タンパク質 ・代謝とエネルギー ○遺伝情報の発現と発生 ・DNAの構造と複製 ・遺伝情報の発現と調節 ・発生と遺伝子発現 ・バイオテクノロジー | 52 | ○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。 | ○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。 | ○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。 |
| 2 | 9 10 | ○動物の反応と行動 ・刺激の受容 ・体内での情報統合 | 56 | ○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の | ○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種 | ○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、 |

| | | | | | | |
|--------|-------------|--|-----|--|--|--|
| | 11 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 刺激への反応 ・ 動物の行動 ○植物の反応と行動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物ホルモン ・ 植物の環境応答 ・ 配偶子形成と受精 ○生物群集と生態系 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個体群 ・ 物質生産と物質循環 | | <p>行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。</p> | <p>環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。</p> | <p>植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。</p> |
| 3 | 1 2 3 | <p>●生物および生物基礎の全範囲について、演習の実践</p> | 32 | <p>○各単元内容について、さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>○各単元内容について、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>○各単元内容に関する演習・課題について、主体的に取り組むことができる。</p> |
| 年間授業時数 | | | 140 | | | |

令和8年度 <6学年 生物基礎演習> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 単位 |
| 使用教科書 | 104 数研 生基 707 生物基礎 |
| 使用補助教材 | ○ニューグローバル生物基礎+生物(東京書籍) ○フォトサイエンス生物図録(数研出版) ○チェック&演習 生物基礎(数研出版) ○共通テスト対策 実力完成直前演習 生物基礎(ベネッセコーポレーション) |

| |
|---|
| 目標 |
| ○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 ○大学共通テスト(および個別試験)での問題解答力を身につける。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 【観点】 生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 |
| 【方法・材料】 定期考査、授業時間内の模擬試験を中心として、その他にも各種課題(演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの)の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|------------------|---|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | ○生物の特徴 ・多様性と共通性 ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 ○遺伝子とそのはたらき ・遺伝情報とDNA ・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現 ○体内環境の維持 ・体内での情報伝達 ・体内での各種調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき ○生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全 | 26 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。 |
| 2 | 9 | ○生物の特徴 ・多様性と共通性 | 28 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネ | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、 | ○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー |

| | | | | |
|----------------|--|--|--|---|
| 10 11 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 ○遺伝子とそのはたらき ・遺伝情報と DNA ・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現 ○体内環境の維持 ・体内での情報伝達 ・体内での各種調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき ○生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全 | <p>ルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>ギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。</p> |
| 3 | <p>1 ●生物基礎の全範囲について、演習の実践</p> <p>2</p> <p>3</p> | <p>16</p> <p>○全範囲について、さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>○全範囲について、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>○全範囲に関する演習・課題について、主体的に取り組むことができる。</p> |
| 年間授業時数 | | 70 | | |

令和8年度 <6学年 生物演習> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|---|
| 単位数 | 4単位 | 目標 |
| 使用教科書 | 104 数研 生物 704 生物 | |
| 使用補助教材 | ○ニューグローバル 生物基礎+生物 【東京書籍】 ○スクエア最新図説生物 新課程二訂版 【第一学習社】 ○アクセスノート 生物 【実教出版】 ○チェック&演習 生物 【数研出版】 ○共通テスト対策 実力完成直前演習 生物 【ベネッセコーポレーション】 | ○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 ○大学共通テストおよび個別試験での問題解答力を身につける。 |

| | |
|-------------|--|
| 評価の観点と方法・材料 | |
| 【観点】 | 生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 |
| 【方法・材料】 | 各種課題（テストや演習プリント等、授業などで実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|------------------|---|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | ○生物の進化 ・生命の起源 ・生物の変遷 ・進化のしくみ ・系統と進化 ・系統と分類 ○生命現象と物質 ・生体物質と細胞 ・タンパク質 ・代謝とエネルギー ○遺伝情報の発現と発生 ・DNAの構造と複製 ・遺伝情報の発現と調節 ・発生と遺伝子発現 ・バイオテクノロジー | 26 | ○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。 | ○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。 | ○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。 |
| 2 | 9 10 | ○動物の反応と行動 ・刺激の受容 ・体内での情報統合 | 28 | ○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の | ○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種 | ○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、 |

| | | | | | | |
|--------|-------------|--|----|---|--|--|
| | 11 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 刺激への反応 ・ 動物の行動 ○植物の反応と行動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物ホルモン ・ 植物の環境応答 ・ 配偶子形成と受精 ○生物群集と生態系 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個体群 ・ 物質生産と物質循環 | | <p>行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。</p> |
| 3 | 1 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ●生物および生物基礎の全範囲について、演習の実践 | 16 | <p>○各単元内容について、さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>○各単元内容について、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。</p> | <p>○各単元内容に関する演習・課題について、主体的に取り組むことができる。</p> |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 音楽I> 年間指導計画

| | |
|--------|---------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 高校生の音楽1 |
| 使用補助教材 | The Basics of Music |

| |
|---|
| 目標 |
| (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 |
| (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 |
| (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、音楽文化に親しむことができる。 |

| |
|------------------------------------|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 【知識・技能】小テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題、音楽理論 |
| 【思考・判断・表現】実技テスト、レポート課題、実技課題等 |
| 【主体的に学習に取り組む態度】提出物、学習態度、リフレクション等 |

| 学期 | 月 | 題材と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | | |
|--------|----|--|----|--|---|--|----|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 | |
| 1 | 4 | 合唱曲とパートの役割 ・混声4部合唱 ・パートの役割 | 4 | ・歌唱に必要な楽典の知識（音・拍子）や音楽用語を理解し、発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。 | ・曲にふさわしい表現で歌唱している。 ・音楽の特徴と曲想の関わりを捉え、根拠をもって作品を評価している。 | ・学習に対して課題意識をもち、パート練習や全体練習などの学習に主体的に取り組もうとしている。 | |
| | 5 | | | | | | |
| | 6 | 合唱の響きと表現④ ・歌詞の内容と曲想の関わり ・旋律の重なり方 | 12 | ・演奏に必要な楽典の知識（音程・調性）や用語を理解し、まとまりのある表現で歌唱するため技能を習得している。 | ・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。 | ・学習に対して課題意識をもち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。 | |
| | 7 | | | | | | |
| 2 | 9 | 器楽作品の演奏⑥ ・ギター | 10 | ・演奏に必要な楽典の知識や音楽用語を理解している。 ・自己のイメージをもって表現を工夫するため技能を習得している。 | ・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、音楽表現を工夫している。 | ・自己やグループの学習状況に対して課題意識をもち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。 | |
| | | | | | | | 10 |
| | 11 | 器楽作品の演奏⑦ ・リズムアンサンブル | 10 | リズムの特性を理解し、演奏の基礎的な技能を身に付けている。 | ・全体の響きや他パートの音を聴き、曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって演奏している。 | ・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。 | |
| | 12 | | | | | | |
| 3 | 1 | 独唱曲⑥ ・日本歌曲 | 4 | ・表現を工夫するために必要な発音や発音の技能を習得している。 | ・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、音楽表現を工夫している。 | ・学習に対して課題意識をもち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。 | |
| | | | | | | | 2 |
| 3 | 2 | 作品と音楽史・鑑賞② ・ロマン派作品の鑑賞 | 4 | ・音楽の特徴の働きや作品の背景を理解している。 ・曲や演奏に対して、根拠を示しながら評価することができる。 | ・ロマン派作品の特徴を捉え、音楽の特徴や感じ取ったことに関わりについて考えている。 | ・音楽のよさや美しさを感じ取り、聴き取り方や感じ方を深める活動に主体的に取り組んでいる。 | |
| | | | | | | | 3 |
| | | | | | | | 1 |
| 3 | 2 | 歌唱まとめ ・独唱曲 ・重唱作品 | 6 | ・演奏に必要な楽典の知識や音楽用語を理解している。 ・表現を工夫するため技能を習得している。 | ・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、工夫して表現に結び付けている。 | ・歌唱の学習に課題意識をもち、主体的に取り組もうとしている。 | |
| | | | | | | | 3 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | | |

令和8年度 <4学年 美術科> 年間指導計画

| | |
|--------|-------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 高校の美術1 (日文) |
| 使用補助教材 | |

| |
|--|
| 目標 |
| ・美術を愛好する心情と、自由な表現や鑑賞のための能力の育成を目指す。 美術に対する感性を育てるとともに、技術、技能を伸ばし、豊かな情操を養う。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【知識・技能】他の学習や生活の中でも活用できるように概念を理解し、技能を生かせるように身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】芸術的知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身についている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】制作状況を把握し、表現方法について試行錯誤するなど、調整力をもって造形活動できている。</p> <p>評価材料：制作過程、活動状況、作品、行事やクラスでの美術的な活動、ワークシート</p> <p>※個人内評価：上記以外に含まれないもの（よい点、可能性、進捗状況）</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--|-------------------------------|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・オリテーション ・地面風景画 ・校舎のある風景 合評会 | 2 | ・形や色彩、光などの性質やそれらがもたらす効果、造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 | ・遠近感の表現方法を生かし、形態や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 | ・高校美術1の内容と目標について理解している。 ・校内の風景に関心を持ち、主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 |
| | 4 | | | | | |
| | 5 | 12 | ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 | ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や糸と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 | ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の見方や感じ方を深める鑑賞の造形活動に取り組もうとしている。 | |
| 6 | 4 | | | | | |
| | 7 | ・鑑賞 美術館での作品鑑賞 (夏休み中) | | | | |
| 2 | 9 | ・チョーク彫刻 ・木彫カトラリー 鑑賞 日本美術史、西洋美術の違いのビジュアルサマリー (冬休み中) | 2 | ・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・制作方法を踏まえ、意図に応じて、材料や道具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的に表している。 | ・使う人の願いや、心情、生活環境などから心豊かな発想をしている。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。 | ・主体的に工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 |
| | 10 | | 24 | | | |
| | 11 | | | | | |
| | 12 | | 2 | | | |
| 3 | 1 | ・陶芸 手びねり 板づくり 紐づくり <u>※窯の具合により2学期と入れ替わることや、陶芸でなく別課題になることあり</u> | 16 | ・陶芸の施策工程を理解し田上で、造形の要素の働きも理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・制作方法を踏まえ、意図に応じて、材料や道具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的に表している。 | ・使う人の願いや、心情、生活環境などから生活を心豊かに演出する陶芸作品の発想をしている。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。 | ・主体的に工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 |
| | 2 | | 4 | | | |
| | 3 | ・鑑賞 | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 美術演習> 年間指導計画

| | |
|--------|-----|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | |
| 使用補助教材 | |

| |
|--|
| 目標 |
| ・美術を愛好する心情と、自由な表現や鑑賞のための能力の育成を目指す。美術に対する感性を育てるとともに、技術、技能を伸ばし、豊かな情操を養う。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【知識・技能】他の学習や生活の中でも活用できるように概念を理解し、技能を生かせるように身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】芸術的知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身についている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】制作状況を把握し、表現方法について試行錯誤するなど、調整力をもって造形活動できている。</p> <p>評価材料：制作過程、活動状況、作品、行事やクラスでの美術的な活動、ワークシート</p> <p>※個人内評価：上記以外に含まれないもの（よい点、可能性、進捗状況）</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|---|----|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリテーション (西洋美術史 全8巻) ・個人作品制作 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・造形の要素の働きを理科している。 ・造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 ・表現形式の特徴を生かし、形態や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や糸と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に絵画や・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 |
| | 5 | | 4 | | | |
| 2 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人作品制作 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・制作方法を踏まえ、意図に応じて、材料や道具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的に表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・使う人の願いや、心情、生活環境などから心豊かな発想をしている。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 |
| | 10 | | 24 | | | |
| | 11 | | | | | |
| | 12 | | 2 | | | |
| 3 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動とは | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・造形の要素の働きを理解している。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・将来も主体的に創造活動に取り組もうとしている。 |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 54 | | | |

令和8年度 <4学年 書道I> 年間指導計画

| | |
|--------|-------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 東書 「書道I」 |
| 使用補助教材 | 教育図書「書道資料集」 |

| |
|---|
| 目標 |
| 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 観点：ア知識・技能 イ判断・表現 ウ主体的に取り組む態度 |
| 方法・材料：観察、書道ノート（学習の成果、自己評価、記録、ワークシート、調べ学習、振り返り）創作作品 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|--|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・書道の学習目標 ・用具・用材の知識 漢字の書 | 22 | ・書写との相違とともに書道学習の目標を理解し、用具、用材の知識を理解している ・書体の変遷について関心を高め、理解している ・基本線の用筆・運筆法を身につけている ・線筆、字形や構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している ・楷書古典に基づく線質、字形や構成を生かした表現を身につけている | ・楷書古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている ・楷書古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体構成について理解し、その知識や技能を表現に生かすことを構想し、工夫している | ・楷書の基本的な知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた取り組みに対し、粘り強く取り組んでいる ・学習過程の中で自らの改善点に気づき、調整しようとしている |
| | 5 | ・書体の変遷 ・執筆法、基本線質と用筆法 ・楷書古典の鑑賞と表現 | | | | |
| | 6 | ・創作(イメージ書) ・展示の為の名票作成 | | | | |
| | 7 | | | | | |
| 2 | 9 | ・文化祭展示作品の鑑賞 ・行書の基本線質 ・行書古典の鑑賞と表現 | 28 | ・行書の特徴を理解し、その表現法を身につけている ・行書古典に基づく表現の多様性を理解している ・仮名の歴史と種類、用具、用材の取り扱いについて理解している ・運筆のリズムや連綿の技法を理解し、身につけている ・古筆の流動美、余白美、立体美、変体仮名の効用について理解し、その表現法を身につけている | ・行書古典の価値とその影響について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている ・行書の用筆・運筆、筆脈の流れについて理解し、その知識や技能を表現に生かすことを構想し、工夫している ・仮名古筆の価値とその意義について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている ・仮名の運筆のリズムや連綿法、変体仮名の使用法を理解し、その知識や技能を表現に生かすことを構想し、工夫している | ・行書の基本的な知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた取り組みに対し、粘り強く取り組んでいる ・仮名の基本的な知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた取り組みに対し、粘り強く取り組んでいる ・学習過程の中で自らの改善点に気づき、調整しようとしている |
| | 10 | 仮名の書 ・仮名の成立と種類 ・用具、用材の取扱い | | | | |
| | 11 | ・基本線質、単体と連綿 連綿法とリズム ・古筆鑑賞と変体仮名の効用 | | | | |
| | 12 | ・創作(自選俳句) | | | | |
| 3 | 1 | 漢字仮名交じりの書 ・現代書の鑑賞と創作法 ・言葉の決定 | 20 | ・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につけている ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技法を身につけている | ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいて構想し、工夫している ・これまでの学習を生かした表現について構想し工夫している | ・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている ・互評会で得た改善点について、より良い表現の実現に向け、粘り強く取り組んでいる |
| | 2 | ・作品のねらいと構成、書風の決定 ・試書→批評→改善→互評 | | | | |
| | 3 | 会→完成 学習の振り返り | | | | |
| | | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 体育> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館） |
| 使用補助教材 | ステップアップ高校スポーツ（大修館） |

| |
|---|
| 目標 |
| 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <評価の観点> 知識技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度 |
| <評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|----|-------------------------|----|--|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ・オリエンテーション | 24 | <p>（体づくり運動）、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。</p> <p>（陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>（水泳）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。</p> <p>（球技）勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動</p> | <p>（体づくり運動）自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>（陸上競技、水泳、）自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>（球技）攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>（体育理論）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> | <p>（体づくり運動）体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなどや、健康・安全を確保している。</p> <p>（陸上競技、水泳）自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保している。</p> <p>（球技）球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレ</p> |
| | 5 | （スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展） | | | | |
| | 6 | ・ハンドボール | | | | |
| | 7 | ・バレーボール | | | | |
| 2 | 9 | ・水泳 | 28 | <p>（陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>（水泳）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。</p> <p>（球技）勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動</p> | <p>（体づくり運動）自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>（陸上競技、水泳、）自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>（球技）攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>（体育理論）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> | <p>（体づくり運動）体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなどや、健康・安全を確保している。</p> <p>（陸上競技、水泳）自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保している。</p> <p>（球技）球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレ</p> |
| | 10 | ・陸上競技 （短距離走、リレー） | | | | |
| | 11 | （スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展） | | | | |
| | 12 | ・バスケットボール ・サッカー | | | | |

| | | | | | | |
|--------|---|-----------------------|----|--|--|---|
| 3 | 1 | ・陸上競技（長距離） ニュースポーツ | 18 | <p>観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>（球技：ゴール型）安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>（球技：ネット型）役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を行うことができる。</p> <p>（体育理論）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。</p> | | <p>イなどを大切にしようとする こと、互いに助け合い教え合 おうとすることなどや、健 康・安全を確保している。</p> <p>（体育理論）スポーツの文化 的的特性や現代のスポーツの発 展について、課題を発見し、 その解決を目指した活動を通 して、自主的に取り組んでい る。</p> |
| | 2 | ・バドミントン | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 保健> 年間指導計画

| | |
|--------|-------------------|
| 単位数 | 1 単位 |
| 使用教科書 | 改訂版 現代高等保健体育（大修館） |
| 使用補助教材 | 図説現代高等保健（大修館） |

| |
|--|
| 目標 |
| 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を養う。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <評価の観点> 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度 |
| <評価の方法と材料> 定期考査、出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|---------------------|---|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養、睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わることを言ったり書き出したりしている。 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを言ったり書き出したりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。 生活習慣病やがんなどの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会と健康、安全な社会生活について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 生活習慣病、運動、食事、休養、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 2 | 9 10 11 12 | <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症、エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり | 14 | <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の予防と回復には運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられることを言ったり、書き出したりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 | <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の予防と回復や感染症について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 3 | 1 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> 事故の現状と発生要因 安全な社会形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> 安全な社会づくりには環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを言ったり書き出したりしている。 応急手当は正しい手順や方法があることを理解し心肺蘇生法などの応急手当の技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避方法を考え、それらを表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会と健康、安全な社会生活について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 35 | | | |

令和8年度 <5学年 体育> 年間指導計画

| | |
|--------|------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館） |
| 使用補助教材 | ステップアップスポーツ（大修館） |

| |
|---|
| 目標 |
| 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <評価の観点> 知識技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度 |
| <評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | | | | | |
|----|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 | | | | |
| 1 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・体づくり運動 ・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方） | 24 | （体づくり運動）体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。 （水泳）記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができる。 | （体づくり運動）生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 （水泳）生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 （球技）生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 | （体づくり運動）体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保している。 （水泳）水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保している。 | | | | |
| | 5 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー ・バレーボール ・水泳 | （陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 |
| | 6 | | | | | | | | | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・陸上競技（短距離走、リレー） ・バドミントン ・ソフトボール ・テニス ・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方） | 28 | （陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 | | | | | |
| 2 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・陸上競技（短距離走、リレー） ・バドミントン ・ソフトボール ・テニス ・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方） | 28 | （陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 | | | | |
| | 10 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン ・ソフトボール ・テニス ・体育理論 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 | |
| | 11 | | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・テニス ・卓球 ・バスケットボール |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・テニス ・卓球 ・バスケットボール | 18 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 | | | | | | |
| 3 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・テニス ・卓球 ・バスケットボール | 18 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 | | | | |
| | 2 | | | | | | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | （球技）主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。 | |
| | 3 | | | | | | | | | （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 |

| | | | | |
|--|--|--------|---|--|
| | | | <p>侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>(球技：ネット型) 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。</p> <p>(球技：ベースボール型) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃, 安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。</p> <p>(体育理論) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について, 課題を発見し, その解決を目指した活動を通して, 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。</p> | |
| | | 年間授業時数 | 70 | |

令和8年度 <5学年 保健> 年間指導計画

| | |
|--------|---------------|
| 単位数 | 1 単位 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館） |
| 使用補助教材 | 図説現代高等保健（大修館） |

| |
|--|
| 目標 |
| 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <評価の観点> 知識技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度を総合的に評価する。 |
| <評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|---------------------|---|----|---|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを言ったり書き出したりしている | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。生涯を通じる健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 2 | 9 10 11 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康に関わる対策 ・ごみ処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生に関わる活動 | 14 | <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変わってきたこと、労働災害を防止するには、過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であること、環境や食品について、理解したことを言ったり書いたりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康について、健康管理や安全管理に関わる取組を整理し、個人生活や社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見している。労働災害と健康について、習得した知識を基に労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理しているとともに、筋道を立てて説明している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康、働く人の健康の保持増進、環境、食品の安全性について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 3 | 1 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参画 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。健康を支える環境づくりについて課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 35 | | | |

令和8年度 <6学年 体育> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------|
| 単位数 | 1単位 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館） |
| 使用補助教材 | ステップアップ高校スポーツ（大修館） |

| |
|--|
| 目標 |
| 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <評価の観点> 技能、態度、知識、思考・判断 |
| <評価の方法と材料> 出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|---------------------|--|----|--|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 5 6 7 | ・体づくり運動 ・体育理論 ・水泳 ・種目選択（下記から3種目選択）バスケ・テニス・ニュースポ・バレー・サッカー・ハンド・ソフト バドミントン・卓球 | 36 | ・運動や健康・安全についての知識を身につけ、理解している。 ・運動の特性と合理的な運動の仕方を理解し、知識として身に付け生涯の豊かなスポーツライフの実践につなげることができる。 | ・既習の知識や技能を活用し、運動を継続していくために必要な課題を改善し、生涯スポーツの実践につなげることができる。 | ・主体的に活動する態度を身に付けることができる。 ・ルールやマナーを大切に、公正・協力への意志を持てる。 ・生涯にわたり、豊かなスポーツライフを継続するために、技能をさらに向上させ、新たな技術を習得し、攻防や動きの様相を高め、記録や技に挑戦することができる。 |
| 2 | 9 10 11 12 | ・陸上競技 ・種目選択（下記から3種目選択）卓球・バドミントン・バスケ・サッカー・ソフト・ニュースポ・フットサル・バレー | 39 | ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 | ・主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保することができる。 |
| 3 | 1 2 3 | ・種目選択（下記から3種目選択） テニス・バスケ・ニュースポーツ バドミントン・サッカー・ソフト 卓球・バレー | 30 | ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 | ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 | ・主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保することができる。 |
| 年間授業時数 | | | | | | |

令和8年度 <4学年 情報I> 年間指導計画

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 日本文教出版 情報I |
| 使用補助教材 | 情報 最新トピック集 2026 高校版 進研 WINSTEP 情報I |

| |
|---|
| 目標 |
| 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。 |

| |
|---|
| 評価の観点と方法・材料 |
| <p>【評価の観点】</p> <p>(知識・技能) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。</p> <p>(思考・判断・表現) 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。</p> <p>【評価の方法・材料】 授業に取り組む姿勢や小テスト・課題、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---|--|---|---|------------|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | <p>第1章第1節 なぜ情報について学ぶのか</p> <p>(1) 情報について学ぶ意義</p> <p>(2) 問題を発見、解決していくために</p> <p>第2節 「情報I」で学ぶこと</p> <p>(1) 情報社会の問題解決</p> <p>(2) コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>(3) コンピュータとプログラミング</p> <p>(4) 情報通信ネットワークとデータの活用</p> <p>第3節 学習の前に確認</p> <p>(1) 情報の技術</p> <p>(2) 情報セキュリティと情報モラル</p> <p>第2章第1節 情報の特性</p> <p>(1) 情報とは</p> <p>(2) 情報の特性</p> <p>第2節 メディアの特性</p> | <p>・情報について学ぶ意義を理解している。</p> <p>・「情報I」で学ぶ内容を理解している。</p> <p>・「情報社会の問題解決」の考え方が、「コミュニケーションと情報デザイン」、「コンピュータとプログラミング」、「情報通信ネットワークとデータの活用」の学習に生かされることを理解している。</p> <p>・コンピュータの基本的な扱い、情報セキュリティ、情報モラルに関する既習事項について理解している。</p> <p>・基礎的なセキュリティ対策ができる技能を身につけている。</p> <p>・メディアの3つの特性とそれぞれのメリット・デメリットについて理解している。</p> <p>・メディアが人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。</p> <p>・メディアの3つの特性とそれぞれのメリット・デメリットについて理解している。</p> | <p>・問題解決に役立つ情報や情報技術の利用例を考えることができる。</p> <p>・社会の状況を踏まえて、各学習テーマに対応した問題の例を考えることができる。</p> <p>・教科書のチェックリストを利用して、既習事項に対する到達度を自己評価できる。</p> <p>・現在の自分の知識や技能のうち不足しているところを補う方法を考えることができる。</p> <p>・情報の特性を観点に分けて考えることができる。</p> <p>・具体的な特性を理由とともに説明できる。</p> <p>・目的や状況に応じて、適切なメディアを選択することができる。</p> | <p>・社会における問題解決と情報について学ぶ意義を関連づけて考えようとしている。</p> <p>・「情報I」で学ぶ学習内容と社会における問題解決を関連づけて捉えようとしている。</p> <p>・既習事項の到達度を踏まえて、すべての項目において自信が持てるようになろうとしている。</p> <p>・情報の特性が果たす意義や、留意点に気づき、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</p> <p>・メディアの特性が果たす意義や、留意点に気づき、情報と情</p> | |

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
| 5 | <p>(1) メディアの特性 (2) メディアの受け取り方とメディア・リテラシー</p> <p>第3節 問題解決の考え方 (1) 問題解決とは (2) 問題の明確化 (3) 問題解決の流れと評価・改善 (4) よい問題解決とは</p> <p>第4節 法の重要性と意義—著作権 法の重要性と意義—著作権 (1) 知的財産権 (2) 産業財産権 (3) 著作権 (4) 著作物 (5) 著作者が持つ権利 (6) 著作隣接権 (7) 著作物の保護と活用</p> <p>第5節 法の重要性と意義—個人情報 (1) 個人情報保護法</p> <p>第6節 情報社会と情報セキュリティ サイバー犯罪について考える</p> <p>第7節 情報技術の発展によ</p> | <p>・メディアが人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。</p> <p>・問題解決の流れについて理解している。</p> <p>・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。</p> <p>・知的財産権、産業財産権、著作権について理解している。</p> <p>・著作物と著作権について理解している。</p> <p>・著作権者の権利を守りながら著作物を利用するための方法について理解している。</p> <p>・個人情報について理解している。</p> <p>・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。</p> <p>・個人情報の保護に関する法律について理解している。</p> <p>・サイバー犯罪の分類について理解している。</p> <p>・情報セキュリティの確保の重要性について理解している。</p> <p>・情報通信技術を悪用したさまざまな犯罪について理解している。</p> <p>・ソーシャルメディアがわたしたちの生活に与える影響について理解している。</p> <p>・ソーシャルメディアの利用にあたってわたしたちが果たす</p> | <p>きる。</p> <p>・理由とともにメディアの捉え方を説明することができる。</p> <p>・目的や状況に応じて、情報を適切に活用して問題を発見し、解決のためのアイデアについて考えることができる。</p> <p>・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。</p> <p>・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。</p> <p>・目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。</p> <p>・情報に関する法規や制度の重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。</p> <p>・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。</p> <p>・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。</p> <p>・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。</p> | <p>報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</p> <p>・情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。</p> <p>・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>・情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。</p> <p>・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>・情報社会の問題解決を通して、望ましい情報社会の構築に</p> |
|---|--|---|---|---|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | <p>る生活の変化 (1) ソーシャルメディアとわたしたち (2) ソーシャルメディアの望ましい利用</p> <p>第8節 情報技術の発展による社会の変化 (1) Society 5.0 の到来 (2) 情報社会の未来と問題解決</p> <p>第8節 情報技術の発展による社会の変化 (1) Society 5.0 の到来 (2) 情報社会の未来と問題解決</p> <p>6 第1節 メディアとコミュニケーション</p> <p>1 コミュニケーションとメディアの活用 (1) メディアとコミュニケーションの変遷 (2) メディアの活用で生じる課題 (3) メディアを活用して問題を解決するために</p> <p>2 コミュニケーション手段の特性 (1) コミュニケーションの形態 (2) インターネット上でのコミュニケーションの特性 (3) 伝達可能な表現 (4) 適切なメディアの使い分け</p> <p>3 インターネットの発展 (1) 情報社会を支える技術の発展 (2) ARPANET の開発 (3) インターネットの登場 (4) ブロードバンドの普及 (5) インターネットと情報格差</p> <p>4 情報機器のパーソナリ化とソーシャルメディア</p> | <p>べき役割について理解している。</p> <p>・情報技術の発展による社会の変化について理解している。 ・情報社会が抱える問題と、それらの問題を解決していくことの重要性について理解している。</p> <p>・情報技術の発展による社会の変化について理解している。 ・情報社会が抱える問題と、それらの問題を解決していくことの重要性について理解している。</p> <p>・コミュニケーションの手段の発達について理解している。 ・メディアの発達により生じる課題の原因を理解している。 ・メディア・リテラシーの必要性について理解している。</p> <p>・コミュニケーションの形態について理解している。 ・インターネットの特性について理解している。 ・メディアによって伝えることができる表現の種類が異なることを理解している。</p> <p>・パケット通信技術について理解している。 ・ブロードバンド、携帯電話網の無線通信技術の発展について理解している。 ・インターネットが普及したことにより情報格差が生まれたことについて理解している。</p> <p>・ソーシャルメディアのしくみについて理解している。 ・公開範囲の設定を限定公開に変更する方法について理解している。 ・無料でサービスを利用できる理由について理解している。 ・アナログとデジタルの違いに</p> | <p>・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。</p> <p>・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。</p> <p>・メディアが発達したことにより、便利になったことと課題について考えることができる。</p> <p>・インターネットの特性を踏まえ、情報発信時に誹謗中傷や人権に配慮できているかを判断できる。 ・情報の信憑性を判断し、内容が正しいか見極めることができる。 ・目的に応じたメディアの選択ができる。</p> <p>・通信が高速化したことにより、どのようなことができるようになったか考えることができる。 ・情報格差の問題点について考えることができる。</p> <p>・自分の発信する情報がどこまで影響があるかを考え、適切に発信することができる。</p> | <p>寄与しようとしている。</p> <p>・情報社会の問題解決を通して、望ましい情報社会の構築に寄与しようとしている。</p> <p>・情報社会の問題解決を通して、望ましい情報社会の構築に寄与しようとしている。</p> <p>・メディアの種類を振り返り、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>・メディアが発達したことにより、生じた課題について主体的に考えようとしている。</p> <p>・普段使っているコミュニケーションの手段について、その特性を積極的に考えようとしている。</p> <p>・実際に起こった事例を積極的に調べ、考えを深めようとしている。</p> <p>・5G が普及することで実現されるサービスの調査に粘り強く取り組み、考えを深めようとしている。</p> <p>・情報格差の問題点、解消するアイデアについて考えようとしている。</p> |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| | <p>(1) 情報機器のパーソナル化</p> <p>(2) ソーシャルメディア</p> <p>第2節 情報のデジタル化</p> <p>1 コンピュータとデジタルデータ</p> <p>(1) アナログとデジタル</p> <p>(2) コンピュータとデジタル</p> <p>(3) コンピュータで用いられる数の表現</p> <p>2 文字のデジタル表現</p> <p>(1) 文字コード</p> <p>(2) さまざまな文字コード体系と Unicode</p> <p>(3) 文字の表示と印刷</p> <p>3 データの圧縮</p> <p>(1) データ圧縮と圧縮率</p> <p>(2) 可逆圧縮の利用</p> <p>(3) 可逆圧縮のしくみ</p> <p>4 音のデジタル化</p> <p>(1) 音のデジタル化</p> <p>(2) サンプリング周波数と量子化ビット数</p> <p>(3) 音声データのファイル形式</p> <p>5 画像のデジタル化</p> <p>(1) 画像のデジタル化</p> <p>(2) 解像度と色の表現</p> <p>(3) ビットマップ画像のデータ量</p> <p>(4) 画像処理ソフトウェア</p> <p>(5) 画像データのファイル形式</p> <p>6 動画のデジタル化</p> <p>(1) 動画のしくみ</p> <p>(2) 動画のデジタル化と圧縮</p> <p>(3) 動画の圧縮技術と動画データのファイル形式</p> <p>7 情報のデジタル化とデータ量</p> <p>(1) 音のデータ量</p> <p>(2) 画像のデータ量</p> <p>(3) 動画のデータ量</p> | <p>について理解している。</p> <p>・2進法・10進法・16進法の相互変換について理解している。</p> <p>・文字コードのエンコーディングについて理解している。</p> <p>・ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いを理解している。</p> <p>・ランレングス圧縮とハフマンの符号化の圧縮について理解している。</p> <p>・可逆圧縮と非可逆圧縮について理解している。</p> <p>・音のデジタル化のA/D変換について理解している。</p> <p>・画像のデジタル化のA/D変換について理解している。</p> <p>・動画のデジタル化のしくみを理解している。</p> <p>・音、画像、動画のデータ量を求める計算について理解している。</p> <p>・情報デザインの意味について理解している。</p> | <p>・アナログとデジタルのそれぞれの利点と欠点について考えることができる。</p> <p>・ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いについて考えることができる。</p> <p>・自分でつくったデータを圧縮し、他者がつくった圧縮データを展開することができる。</p> <p>・サンプリング周波数や量子化ビット数が変化すると、音がどうなるか説明することができる。</p> <p>・解像度を変えると、何がどのように変わったか説明することができる。</p> <p>・フレーム内圧縮とフレーム間圧縮のデータ量の違いを説明することができる。</p> <p>・フレームレートが増えると見え方がどう変わるか説明できる。</p> <p>・これまで学んだデジタル化や圧縮のしくみを説明できる。</p> <p>・音、画像、動画のデータの特徴に応じた適切な計算式を判断できる。</p> <p>・アートと情報デザインの違い</p> | <p>・スマートフォンなどの利用について考え、理解を深めようとしている。</p> <p>・ソーシャルメディアの公開設定を確認し、理解しようとしている。</p> <p>・身近なアナログとデジタルのデータを扱っているものを積極的に探し、理解を深めようとしている。</p> <p>・文字のエンコーディングやデコーディングについて、興味を持って課題に取り組みようとしている。</p> <p>・圧縮と展開の活動に積極的に取り組み、理解しようとしている。</p> <p>・自分のコンピュータやスマートフォンに入っている音を積極的に探し理解を深めようとしている。</p> <p>・ディスプレイがどのようなしくみで画像を表示しているか、積極的に調べようとしている。</p> <p>・撮影した写真を連続して表示し、その内容から動画のしくみを理解しようとしている。</p> <p>・データを求める計算に積極的に取り組み、理解を深めようとしている。</p> |
|--|--|--|---|---|

| | | | | | |
|---|---|--|--|---|--|
| | | <p>第3節 情報デザイン</p> <p>1 情報デザインとは</p> <p>(1) 情報デザインとは</p> <p>(2) 情報デザインで使われる手法</p> <p>2 情報デザインのプロセスと問題の発見</p> <p>(1) 情報デザインの作業手順</p> <p>(2) デザイン対象の発見</p> <p>3 デザインの要件と設計・試作</p> <p>(1) 解決策の立案</p> <p>(2) 試作</p> <p>4 評価と改善・運用</p> <p>(1) 評価</p> <p>(2) 改善・運用</p> | <p>・情報デザインの作業手順について理解している。</p> <p>・問題発見の重要性を理解している。</p> <p>・デザインの要件に必要な事項を理解している。</p> <p>・試作を作成するためのソフトウェア操作の技能を身につけている。</p> <p>・評価の手法の種類や得られる情報について理解している。</p> | <p>を考慮することができる。</p> <p>・情報デザインの考えをもとに伝えたい情報を表現することができる。</p> <p>・身近な問題を考え、表現することができる。</p> <p>・情報デザインにより解決できそうな問題を選ぶことができる。</p> <p>・メディアにあった表現を表現することができる。</p> <p>・要件に基づいてラフ・試作品を表現できる。</p> <p>・適切な評価の手法を選択できる。</p> <p>・評価の結果から、試作品の改善点を考えることができる。</p> <p>・改善点を実際のデザインとして表現できる。</p> | <p>・情報デザインの力で問題解決に取り組もうとしている。</p> <p>・グループの話し合いに積極的に関与しようとしている。</p> <p>・問題を自分事として考えようとしている。</p> <p>・要件の定義を話し合う活動に積極的に関与しようとしている。</p> <p>・ラフをつくるときに、積極的にアイディアを出し、他者の意見を尊重しながら問題を解決しようとしている。</p> <p>・評価、改善の取り組みの重要性を理解し、より良いものをつくろうとしている。</p> <p>・実際の運用に積極的に関わろうとしている。</p> |
| 2 | 9 | <p>第1節 コンピュータのしくみ</p> <p>1 コンピュータの基本的な構成</p> <p>(1) コンピュータの構成要素</p> <p>(2) コンピュータ内部の動作のしくみ</p> <p>(3) コンピュータと周辺機器の接続</p> <p>2 ソフトウェアとOS</p> <p>(1) ソフトウェアの種類</p> <p>(2) OSのおもな役割、機能</p> <p>3 CPUとメモリ</p> <p>(1) CPUの構成と動作のしくみ</p> <p>(2) メインメモリ</p> <p>(3) CPUのビット数とメインメモリのアドレス</p> <p>(4) 処理の高速化の工夫</p> <p>4 CPUによる演算のしくみ</p> | <p>・コンピュータの構成要素やデータの制御・データの流れを理解している。</p> <p>・ソフトウェアの種類と、OSの役割について理解している。</p> <p>・CPUのしくみとその役割について理解している。</p> <p>・メインメモリの役割について理解している。</p> <p>・各論理回路のしくみについて</p> | <p>・コンピュータを構成する各装置とデータの流れと制御の流れを表現し、説明することができる。</p> <p>・ハードウェアの3つの要素がどのような働きをするか説明できる。</p> <p>・OSの役割について、イラストを描き、説明することができる。</p> <p>・GUIとCUIの操作を通して、それぞれのメリットとデメリットを説明できる。</p> <p>・コンピュータやスマートフォンの製品ページを見て、ハードウェアの比較ができる。</p> <p>・より良い性能の製品を選ぶことができる。</p> | <p>・スマートフォンの内部をインターネットで調べる活動や、インタフェースを確認する活動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・OSの種類を探る活動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・コンピュータのスペックを調べる課題に積極的に取り組もうとしている。</p> |

| | | | | |
|----|--|--|---|--|
| | <p>(1) CPU と論理回路 (2) 加算の回路</p> <p>5 2進法による計算 (1) データ (数) の扱い (2) 浮動小数点数 (3) 計算の誤差</p> <p>第2節 アルゴリズムとプログラム</p> <p>1 アルゴリズム (1) アルゴリズム (2) アルゴリズムの効率性</p> <p>2 アルゴリズムの基本と表現方法 (1) アルゴリズムの基本構造 (2) アルゴリズムの表現方法</p> <p>3 プログラムの構成要素 ① (1) プログラムとは (2) プログラムの構成要素 ・変数・データ型・演算</p> <p>4 プログラムの構成要素 ② ・関数・ライブラリ・API</p> <p>5 データの扱い (1) プログラムとデータ (2) データ構造 (3) 配列</p> <p>6 アプリケーションの開発① 例題</p> <p>8 アプリケーションの開発② 例題2 ・データの入れ替え法</p> <p>第3節 モデル化とシミュレーション</p> | <p>理解している。</p> <p>・論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成する技能を身につけている。</p> <p>・2進法の表現方法について理解している。</p> <p>・2の補数の考え方について理解している。</p> <p>・浮動小数点数の考え方について理解している。</p> <p>・アルゴリズムの意味やプログラムとの関係を理解している。</p> <p>・アルゴリズムの効率性の意味を理解している。</p> <p>・アルゴリズムの基本構造について理解している。</p> <p>・アルゴリズムを表現する図や表について理解している。</p> <p>・プログラムの構成要素である変数、データ型、演算の意味や種類を理解している。</p> <p>・プログラムの構成要素である関数、ライブラリ、APIについて理解している。</p> <p>・プログラムとデータの関係について理解している。</p> <p>・データ構造、配列について理解している。</p> <p>・プログラミングによってコンピュータを活用する技能を身につけている。</p> <p>・乱数について理解している。</p> <p>・データの入れ替え方法について理解している。</p> <p>・データの並べ替え方法について理解している。</p> <p>・ユーザ定義関数について理解している。</p> | <p>・論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成できる。</p> <p>・2の補数を表現できる。</p> <p>・浮動小数点数を表現できる。</p> <p>・どのような場合に誤差が生じるか考えることができる。</p> <p>・簡単な事例について、コンピュータに処理させる手順を文章化できる。</p> <p>・ある処理について、複数のアルゴリズムを考え、効率の高いものを判断できる。</p> <p>・基本構造を組み合わせて、アルゴリズムを構造化することができる。</p> <p>・アルゴリズムを図や表で表現し、アルゴリズムを可視化できる。</p> <p>・演算例をもとにして、プログラミングの構成要素について考え、正しい結果を出力することができる。</p> <p>・関数、ライブラリ、APIの具体例から効果的な利用法を考えることができる。</p> <p>・プログラムの中のデータ (配列) を表現したり、自分でアレンジしたりすることができる。</p> <p>・プログラムをフローチャートで表現することができる。</p> <p>・プログラムの中身を理解し、目的に応じて自分でアレンジすることができる。</p> <p>・プログラムの中身を理解し、目的に応じて自分でアレンジすることができる。</p> | <p>・自ら真理値表を考え作成しようとしている。</p> <p>・理解を深めるために、2進法のさまざまな計算に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・身のまわりにあるコンピュータで処理できるような事例を自ら考え、理解を深めようとしている。</p> <p>・処理対象を自分で考え、アルゴリズムを構造化、可視化しようとしている。</p> <p>・対象を自分で考え、既存のプログラムを改良することで、プログラミングの理解を深めようとしている。</p> <p>・学んだ知識をもとにして、具体的な事例を自分で探し、問題を解決しようとしている。</p> <p>・身近な問題の解決にプログラムを積極的に活用しようとしている。</p> <p>・プログラムの結果をもとに試行錯誤しながら改善しようとしている。</p> <p>・プログラムの結果をもとに試行錯誤しながら改善しようとしている。</p> <p>・プログラムの過程・結果を粘り強く評価、改善し、理解を深めようとしている。</p> |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |

| | | | | |
|----|--|--|---|---|
| | <p>1 モデルとは</p> <p>(1) モデルとモデル化</p> <p>(2) モデルの分類</p> <p>(3) 図的モデル</p> <p>(4) 数式モデル</p> <p>2 モデル化とシミュレーション</p> <p>(1) モデル化とシミュレーション</p> <p>(2) モデル化の手順</p> <p>(3) シミュレーションの手順</p> <p>3 コンピュータを利用したシミュレーション①</p> <p>(1) 売り上げのシミュレーション</p> <p>(2) モデル化</p> <p>(3) シミュレーション</p> <p>4 コンピュータを利用したシミュレーション②</p> <p>(1) 待ち行列</p> <p>(2) モデル化</p> <p>(3) シミュレーション</p> <p>章末実習</p> <p>感染モデルのシミュレーション</p> <p>第1節 情報通信ネットワークのしくみ</p> <p>1 コンピュータネットワーク</p> <p>(1) 情報通信ネットワークとは</p> <p>(2) コンピュータネットワークの分類</p> <p>(3) コンピュータネットワークの構成要素</p> <p>2 ネットワークの接続</p> <p>(1) コンピュータネットワークの接続形態</p> <p>3 プロトコル—プロトコルと IP</p> | <p>・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法について理解している。</p> <p>・モデル化とシミュレーションの手順について理解している。</p> <p>・モデル化とシミュレーションの手順について理解し、モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。</p> <p>・モデル化とシミュレーションの手順について理解し、モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。</p> <p>・シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。</p> <p>・機器同士を情報通信ネットワークで接続するしくみを理解している。</p> <p>・情報通信ネットワークを構成する要素とその役割を理解している。</p> <p>・無線 LAN と有線 LAN の接続形態について理解している。</p> <p>・情報通信におけるプロトコルの重要性やしくみについて理解している。</p> <p>・パケット通信のしくみについて理解している。</p> | <p>・問題解決の場面に応じて、適切なモデルを選択し表現することができる。</p> <p>・目的に応じたモデルを表現することができる。</p> <p>・プログラムによるシミュレーションのメリットとデメリットについて説明することができる。</p> <p>・プログラムを用いて、目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、その過程を評価し改善することができる。</p> <p>・プログラムを用いて、目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、その過程を評価し改善することができる。</p> <p>・身のまわりの事象をモデルとして表現することができる。</p> <p>・モデルをプログラムで表現し、シミュレーションを行うことができる。</p> <p>・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける構成要素を選択することができる。</p> <p>・有線 LAN と無線 LAN を状況によって使い分け、小規模なネットワークを設計することができる。</p> <p>・コンピュータネットワークでどのように情報がやり取りされているか説明することがで</p> | <p>・身近な問題を解決するためのモデル化に、積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。</p> <p>・シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。</p> <p>・シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。</p> <p>・シミュレーションの結果をもとに、モデルを修正する改善を繰り返し、より良い検証結果を得ようとしている。</p> <p>・情報通信ネットワークに興味を持ち、主体的に活用しようとしている。</p> <p>・情報通信ネットワークを適切かつ効果的に活用しようとしている。</p> |
| 12 | | | | |

| | | | | | |
|---|---|--|--|--|---|
| | | <p>(1) プロトコル</p> <p>(2) TCP/IP における通信の流れ</p> <p>(3) IP の役割</p> <p>(4) IP アドレス</p> <p>4 プロトコルーデータ転送のしくみ</p> <p>(1) TCP と UDP の役割</p> <p>(2) HTTP の役割</p> <p>(3) ドメイン名と DNS</p> <p>(4) 電子メールのプロトコル</p> <p>5 情報セキュリティの確保と対策</p> <p>(1) 情報セキュリティに求められる3つの要素</p> <p>(2) 認証技術</p> <p>(3) ファイアウォール</p> <p>(4) OS やアプリケーションソフトウェアの更新</p> <p>(5) ウイルス対策ソフトウェア</p> | <p>・IP の役割と IP アドレスについて理解している。</p> <p>・TCP と UDP, HTTP の役割について理解している。</p> <p>・ドメイン名と DNS, 電子メールのプロトコルについて理解している。</p> <p>・情報セキュリティに求められる3つの要素について理解している。</p> <p>・認証技術, OS やアプリのアップデートの必要性を理解し, 適切に使用・実行する技能を身につけている。</p> | <p>きる。</p> <p>・URL やメールアドレスをただで、どのような組織なのか判断できる。</p> <p>・HTTP を用いた Web ブラウザと Web サーバのやり取りを説明できる。</p> <p>・電子メールでメッセージをやり取りするしくみを説明できる。</p> <p>・認証技術のしくみを知り, 適切な使用を判断できる。</p> <p>・ファイアウォールにおけるパケットフィルタリングの機能について説明できる。</p> | <p>・情報の科学的な見方・考え方を働かせて, 情報通信ネットワークのしくみを理解しようとしている。</p> <p>・情報通信ネットワークを使うときに, 目的や方法に応じて使用されているプロトコルやドメイン名を理解しながら活用しようとしている。</p> <p>・パソコンやスマートフォンの OS やアプリを最新の状態に保ち, 安全に使用しようとしている。</p> |
| 3 | 1 | <p>6 暗号化のしくみ</p> <p>(1) 情報の暗号化</p> <p>(2) 共通鍵暗号方式</p> <p>(3) 公開鍵暗号方式</p> <p>7 暗号化と認証技術</p> <p>(1) 電子署名</p> <p>(2) 無線 LAN のセキュリティ技術</p> <p>(3) SSL/TLS</p> <p>第2節 情報システムとデータベース</p> <p>1 情報システム</p> <p>(1) 情報システムとは</p> <p>(2) さまざまな情報システム</p> <p>2 情報システムにおけるデータベース</p> <p>(1) 情報システムとデータベース</p> <p>(2) 情報システムにおけるデータの流れ</p> | <p>・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について理解している。</p> <p>・デジタル署名やデジタル証明書, 通信されるデータを暗号化するプロトコルのしくみとその必要性について理解している。</p> <p>・身のまわりにある情報システムについて理解している。</p> <p>・データベースについて理解している。</p> <p>・情報システムとデータベースの関係について理解している。</p> <p>・データがどのように活用されているか理解している。</p> <p>・DBMS の役割とその必要性に</p> | <p>・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違いや, それぞれのしくみを説明することができる。</p> <p>・公衆無線 LAN や Web ブラウザの危険を予測でき, 安全・安心に利用する, 場合によっては利用しない選択ができる。</p> <p>・情報システムを構成する技術が各種分野でも利用されていることが考えられる。</p> <p>・未来の情報システムについて具体的にイメージできる。</p> <p>・各情報システムから得られる情報について調査し, どのような分野に応用されるか考えることができる。</p> <p>・調査内容を発表できる。</p> <p>・データモデルの違いを考え,</p> | <p>・情報セキュリティの科学的な理解に努め, 情報通信ネットワークを適切に活用しようとしている。</p> <p>・情報セキュリティに配慮して, 情報社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>・現状, 活用している情報システムを知ることで, 普段気づいていない情報システムについても主体的に調べようとしている。</p> <p>・未来の情報システムを想像しようとしている。</p> <p>・POS システムなどの情報システムで収集されるデータにはどのようなものがあるかを, 主体的に調べようとしている。</p> |

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
| | <p>(3) データの分析と活用</p> <p>3 データベース管理システムとデータモデル</p> <p>(1) データベース管理システムとは</p> <p>(2) データモデル</p> <p>(3) さまざまなデータベース管理システム</p> | <p>ついて理解している。</p> <p>・NoSQLについて理解している。</p> | <p>データモデルの種類に応じて設計できる。</p> <p>・DBMSの種類について長所・短所を整理することができる。</p> <p>・非構造化データが実際に利用されている例を説明することができる。</p> | <p>・情報システムでDBMSが利用されている活用例を主体的に調べ、理解を深めようとしている。</p> |
| 2 | <p>第3節 データの活用</p> <p>1 データの収集と整理</p> <p>(1) データの活用</p> <p>(2) データ分析の流れ</p> <p>(3) データの収集</p> <p>(4) データの整理</p> | <p>・データ分析の手順について理解している。</p> <p>・データの収集についてさまざまな方法があることを理解している。</p> | <p>・データ収集方法によるメリット、デメリットを判断し、適切な方法で実習のためのデータ収集ができる。</p> <p>・データ分析に必要なオープンデータをインターネットから取得し、データ分析が行いやすいようデータの整理ができる。</p> <p>・身のまわりのデータを分類することができる。</p> <p>・表計算ソフトウェアを利用して数値データの分析・表現することができる。</p> | <p>・データの収集や整理に粘り強く取り組み、試行錯誤を通じて改善しようとしている。</p> |
| | <p>2 数値データの分析</p> <p>(1) 数値データ</p> <p>(2) 時系列で分析する</p> <p>(3) 度数分布で分析する</p> <p>(4) 割合で分析する</p> <p>(5) 2つのデータの関係性を分析する</p> | <p>・量的データ、質的データの違いについて理解している。</p> <p>・数値データの分析手法について理解している。</p> | <p>・適切な処理結果を得るため、どのようにデータクレンジングすればよいか考えることができる。</p> | <p>・数値データの分析は身のまわりのどのような場面で活用されているか、観察しようとしている。</p> |
| | <p>3 テキストデータの分析</p> <p>(1) テキストデータ</p> <p>(2) テキストマイニングによる分析</p> <p>(3) 自由記述の分類と集計</p> | <p>・テキストデータの処理方法について理解している。</p> <p>・Webサービスを利用しないテキストデータを分析する方法について理解している。</p> | <p>・テキストマイニングの結果からデータの特徴を抽出できる。</p> <p>・データ分析の結果から読み取れる情報を判断できる。</p> | <p>・因果関係や相関関係のあるデータに注目し、そのような関係性がなぜ導き出されるのか考えようとしている。</p> <p>・実際のテキストデータから特徴を抽出しようと試行錯誤し、改善しようとしている。</p> |
| 3 | <p>章末実習</p> <p>地域の問題を解決する</p> | <p>・オープンデータを取得し、データ分析しやすいよう加工する技能を身につけている。</p> | <p>・解決策を発表し合い、お互いの意見を盛り込んだ内容に改善できる。</p> | <p>・地域の問題にはどのようなものがあるか現状を分析しようとしている。</p> |
| | 年間授業時数 | 70 | | |

令和8年度 <5学年 家庭基礎> 年間指導計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍) |
| 使用補助教材 | 生活学 Navi 資料+成分表+ICT 2026(実況出版) |

| |
|--|
| 目標 |
| 生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 |

| |
|--|
| 評価の観点と方法・材料 |
| 基本的な知識を身につけ、課題に対する思考力や表現力が養われているかを定期考査、レポート等提出物、ホームプロジェクトの活動、グループでの話し合い・発表等を通して評価する。 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---------------------|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 家庭基礎の学び方 | 1 | ホームプロジェクト及び学校 | 自己の家庭生活や地域の生活 | ・様々な人々と協働し、課題の解決のための過程を組み立てることができる。 |
| | | ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 | 1 | 家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 | から課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている。 | |
| | 5 | 第1章 生涯を見通す | 2 | 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 | 男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| | | 第2章 人生をつくる | 5 | 家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 | | |
| 6 | 6 | 第3章 子どもと共に育つ | 9 | 乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 親の役割と保育について理解している。 子育て支援について理解している。 | 親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| | | 第4章 超高齢社会を共に生きる | 6 | 高齢期の心身の特徴について理解している。 高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 | 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組む、振り返って改善して自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている |

| | | | | | | |
|--------|----------|----------------------|----|--|---|---|
| 2 | 9 | 第5章 共に生き、共に支える | 3 | 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 | 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| | | 第9章 経済生活を営む | 8 | 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題について理解している。 家計の構造や家計管理について理解している。 | 生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について問題を見いだし課題を設定し、考察したことを根拠に基づき論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 |
| | 10 11 | 第6章 食生活をつくる | 17 | ライフステージに応じた栄養の特徴、食品の栄養的特質及び食品の調理上の性質について理解している。 目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 | 食品の調理上の性質及び食の安全について問題を見いだし課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| | 12 | 第7章 衣生活をつくる | 10 | ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 被服材料・被服構成・被服衛生について理解している。 健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 | 被服の機能性や快適性について問題を見いだし課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| 3 | 1 | 第8章 住生活をつくる | 5 | ライフステージに応じた住生活の特徴及び防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 | 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| | 2 | 第10章 持続可能な生活を営む | 2 | 持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 | 安全で安心な生活と消費について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 持続可能な生活と環境について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善して、実践しようとしている。 |
| | 3 | 第11章 これからの生活を創造する | 1 | 情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことについて理解を深めている。 | 生涯を見通した家庭生活及び職業生活について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善して、実践しようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 英語コミュニケーション I > 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 3単位 |
| 使用教科書 | ELEMENT 1(啓林館) |
| 使用補助教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ELEMENT 1 ワークブック アドバンスト ・英単語 LEAP/ 定着ノート Vol.1~3 ・Listening Essentials 1/1.5 ・Cutting Edge Green ・Move Up Basic ・Switch Training Stage 2/3 |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 ・英検2級程度の英語を読んだり (WPM 110 程度)、聞いたりして内容を理解することができるようにする。 ・生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。 (紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする) ・さらに、ALT・JET による毎時間の授業や各学期に行うインタビューテスト、レシテーション、スキット、劇などの英語発表、それに向けての練習を通じて、実践的コミュニケーション力を育む。 |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|---------------|---------------|-----------------|-------------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| □語彙・表現 | <読む力> | <書く力> | □粘り強く学習に取り組む態度 |
| ⇒評価場面 | □Reading | □Writing | ⇒評価場面 |
| ・単語テスト (LEAP) | ⇒評価場面 | ⇒評価場面 | ・単語テスト (Stockテスト) |
| ・定期考査 | ・課題等 | ・パフォーマンスタスク | ・リスニングプラクティス |
| ・リスニングプラクティス | ・定期考査 | <聞く力> | ・課題等 |
| □文型・文法 | <話す力> (IN/SP) | □Listening | □自ら学習を調整しようとする態度 |
| ⇒評価場面 | □Speaking | ⇒評価場面 | ⇒評価場面 |
| ・課題等 | ⇒評価場面 | ・定期考査 | ⇒評価場面 |
| ・定期考査 | ・パフォーマンステスト | □文化 (自国理解・海外文化) | ・課題等 |
| | ・音読テスト | ・パフォーマンスタスク | |
| | | ・パフォーマンステスト | |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|-------------------------------------|----|--|---|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Lesson 1 Turning Over a New Leaf | 10 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章を読んで理解することができる。 | 読んだり聞いたりした英文の内容について自分の意見を形成し、それを相手に伝えることができる。 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章から情報を得て、それを活用しようとしている。 |
| | 5 | Lesson 2 Love beyond Species | 10 | | | |
| | 6 | Lesson 4 Messages for World Peace | 10 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いて文章を聞いて理解することができる。 | 読んだり聞いたりした英文の内容の情報を取捨選択して、重要な内容を相手に伝えることができる。 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章を用いて、自分なりの意見や考えを構成しようとしている。 |
| | 7 | Lesson 3 Contributing to Our Planet | 10 | | | |
| | | | | 読んだり聞いたりした英文の内容から自国理解や海外文化の理解を深めることができる。 | | |

| | | | | | | |
|--------|----|--|--------|--------------------------------------|---|--|
| 2 | 9 | Lesson 5 Fashion and Sustainability | 10 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章を読んで理解することができる。 | 読んだり聞いたりした英文の内容について自分の意見を形成し、それを相手に伝えることができる。 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章から情報を得て、それを活用しようとしている。 |
| | 10 | Lesson 6 Reaching Out to Others | 10 | | | |
| | 11 | Lesson 8 Passing down Cultural Treasures | 10 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いて文章を聞いて理解することができる。 | 読んだり聞いたりした英文の内容の情報を取捨選択して、重要な内容を相手に伝えることができる。 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章を用いて、自分なりの意見や考えを構成しようとしている。 |
| | 12 | Lesson 7 The Wonders of Language | 10 | | 読んだり聞いたりした英文の内容から自国理解や海外文化の理解を深めることができる。 | |
| 3 | 1 | Lesson 9 Technology and Discoveries | 10 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章を読んで理解することができる。 | 読んだり聞いたりした英文の内容について自分の意見を形成し、それを相手に伝えることができる。 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章から情報を得て、それを活用しようとしている。 |
| | 2 | Lesson 10 Standing Up for Human Rights | 10 | | | |
| | 3 | [CE] Lesson 1 [CE] Lesson 2 | 3 2 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いて文章を聞いて理解することができる。 | 読んだり聞いたりした英文の内容の情報を取捨選択して、重要な内容を相手に伝えることができる。 読んだり聞いたりした英文の内容から自国理解や海外文化の理解を深めることができる。 | 学習した語彙・表現、文型・文法を用いた文章を用いて、自分なりの意見や考えを構成しようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 105 | | | |

令和8年度 <4学年 論理・表現 I> 年間指導計画

| | | |
|--------|--|--|
| 単位数 | 単位 | 目標 |
| 使用教科書 | ・ be Smart English Logic and Expression I | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。 (紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする) さらに、ALT・JETによる授業や各学期に行う Performance Test 等を通じて、実践的コミュニケーション力を育む。 表現活動を通して、生徒が主体的に適切な文法を使用したり調べたりし、知識を身に付けることができる。 |
| 使用補助教材 | <ul style="list-style-type: none"> Vision Quest 総合英語 Ultimate 3rd Edition Vision Quest New English Grammar47 WORKBOOK For 4th Edition 英語のハノン 初級編 英熟語ターゲット 1000 5訂版 ライティングメソッド Standard プラン B SPRINT 3 英語総合問題集 改訂版 | |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|--|--|--|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| <言語についての知識・理解> <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・熟語テスト (ターゲット 1000) ・定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・単元テスト ・定期考査 <input type="checkbox"/> 文化 (自国文化・国際理解) ・Debate ・Speech | <話す力> <input type="checkbox"/> Speaking (Interaction, Presentation) ⇒評価場面 ・Performance Test <書く力> <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・定期考査 ・Performance Assignment | <聞く力> <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・定期考査 ・課題 <読む力> <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・定期考査 ・課題 | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・熟語テスト (ターゲット 1000) ・課題 <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・Performance Test ・提 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---|----|--------------------------------|--|--------------------------------------|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | [be]Lesson 1 [be]Lesson 2 | 4 | 学習した基本的な文法、文構造を理解している。 | 相手と即興でやり取りをすることができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 |
| | 5 | [be]Lesson 3 [be]Lesson 4 [be]Lesson 5 | 6 | 学習した基本的な文法、文構造を使って英文を作ることができる。 | 自分の考えや意見等のまとまりのある内容を伝えることができる。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 |
| | 6 | [be] Performance Test [be]Lesson 6 [be]Lesson 7 | 6 | | 英語のニュースや記事等についての意見を読んで、自分の考えを形成してまとまりのある文章を書くことができる。 | 自身の学習について考え、学習の改善を図ることができる。 |
| | 7 | [be]Lesson 8 [be]Lesson 9 [be]Lesson 10 | 6 | | | 表現活動を通して、自分に不足している知識や技能を身につけようとしている。 |

| | | | | | | |
|--------|----|---|----|--------------------------------|--|--|
| 2 | 9 | [be]Lesson 11 [be]Lesson 12 [be]Lesson 13 [be]Lesson 14 | 8 | 学習した基本的な文法、文構造を理解している。 | 相手と即興でやり取りをすることができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 |
| | 10 | [be]Lesson 15 [be]Performance Test [be]Lesson 16 [be]Lesson 17 | 8 | 学習した基本的な文法、文構造を使って英文を作ることができる。 | 自分の考えや意見等のまとまりのある内容を伝えることができる。 英語のニュースや記事等についての意見を読んで、自分の考えを形成してまとまりのある文章を書くことができる。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 自身の学習について考え、学習の改善を図ることができる。 |
| | 11 | [be]Lesson 18 [be]Lesson 19 [be]Lesson 20 [be]Lesson 21 | 8 | | | 表現活動を通して、自分に不足している知識や技能を身付けようとしている。 |
| | 12 | [be]Lesson 22 [be]Lesson 23 [VQ]Lesson 3[発展] | 6 | | | |
| 3 | 1 | [VQ]Lesson 5[発展] [VQ]Lesson 7[発展] [VQ]Lesson 10[発展] [VQ]Lesson 12[発展] | 6 | 学習した基本的な文法、文構造を理解している。 | 相手と即興でやり取りをすることができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 |
| | 2 | [VQ]Lesson 15[発展] [VQ]Lesson 16[発展] [VQ]Lesson 17[発展] [VQ]Lesson 20[発展] [VQ]Lesson 23[発展] | 8 | 学習した基本的な文法、文構造を使って英文を作ることができる。 | 自分の考えや意見等のまとまりのある内容を伝えることができる。 英語のニュースや記事等についての意見を読んで、自分の考えを形成してまとまりのある文章を書くことができる。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 自身の学習について考え、学習の改善を図ることができる。 |
| | 3 | [VQ]Lesson 24[発展] [VQ]Lesson 27[発展] [VQ]Lesson 29[発展] | 4 | | | 表現活動を通して、自分に不足している知識や技能を身につけようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 英語コミュニケーションⅡ> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 4 単位 |
| 使用教科書 | ELEMENT English Communication II |
| 使用補助教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ELEMENT English Communication II WORKBOOK ADVANCE ・ Focus on Listening Pre-Advanced 2 ・ 四訂版 大学入学共通テスト対策・オリジナル問題 共通テスト 10 分リスニングプレノート ・ 共通テストドリル英語リーディング 10minutes 改訂第4版 ・ Cutting Edge Green ・ Cutting Edge Blue ・ SPRINT4 英語総合問題集改訂版 ・ SKYWARD 3rd Edition CLOUDS ・ 英単語 STOCK4500 |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 ・ 英検 2 級～準 1 級程度の英語を読んだり (WPM 130 程度)、聞いたりして内容を理解することができるようにする。 ・ 生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。(紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする) |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|---|--|--|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| 【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・ 単語テスト (STOCK4500 テスト) ・ 定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・ 基本文テスト ・ 定期考査 <input type="checkbox"/> 文化 (自国文化・国際理解) ・ Debate ・ Speech | 【読む力 (音読)】 <input type="checkbox"/> Reading (教科書の音読) ⇒評価場面 ・ 共通テストドリル英語リーディング 10minutes ・ パフォーマンステスト 【話す力】 <input type="checkbox"/> Speech, Retelling ⇒評価場面 ・ ペアワーク ・ Speech ・ Debate 【書く力】 <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・ スピーチ原稿 ・ Rewriting ・ 定期考査, 課題 | 【聞く力】 <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・ Listening Test (Focus on Listening Pre-Advanced) (共通テスト 10 分リスニングプレノート) ・ 授業内テスト 【読む力】 <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・ 共通テストドリル英語リーディング 10minutes ・ Cutting Edge ・ 単元ごとに確認 Q&A T/F ・ 定期考査 | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・ 単語テスト (STOCK4500 テスト) ・ 定期考査 ・ 提出物 SPRINT4 英語総合問題集 SKYWARD 3rd Edition CLOUDS ・ Debate ・ Speech <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・ レポート ・ 定期考査 ・ 提出物 SPRINT4 英語総合問題集 SKYWARD 3rd Edition CLOUDS |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--|----|---|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Lesson 1 Cultures around the World 形式目的語の it, 対応する能動態を持たない受動態を用いた文 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 | 14 | [知識] 文章を読み取るために必要となる形式目的語の it, 対応する能動態を持たない受動態を用いた文に関する事項を理解している。 [技能] The Culture Map を読んで概要や詳細を理 | The Culture Map を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | The Culture Map を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |

| | | | | | | |
|---|----|--|----|--|---|--|
| | | ☆Cutting Edge Green Chapter 8,9 | | 解し、情報を事実と意見に整理する。 | | |
| | 5 | Lesson 2 Power of Words 複合関係代名詞, be 動詞+to 不定詞 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 ☆Cutting Edge Green Chapter 10,11 【中間考査】 ☆Cutting Edge Green Chapter 12,13 | 14 | [知識] 文章を読み取るために必要となる複合関係代名詞, be 動詞+to 不定詞を用いた文に関する事項を理解している。 [技能] Stay Hungry, Stay Foolish を読み取る技能を身に付けている。 | Stay Hungry, Stay Foolish を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | Stay Hungry, Stay Foolish を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 6 | Lesson 3 Preconception 付帯状況の with, the+比較級~, the+比較級…を用いた文 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 ☆Cutting Edge Green Chapter 14,15 Further Reading 1 The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh | 14 | [知識] 文章を読み取るために必要となる付帯状況の with, the+比較級~, the+比較級…を用いた文に関する事項を理解している。 [技能] How Did Pink Become a “Girl’ s Color” in America? を読み取る技能を身に付けている。 | How Did Pink Become a “Girl’ s Color” in America? を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | How Did Pink Become a “Girl’ s Color” in America? を読んで必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 7 | Lesson 4 The Century of War さまざまな分詞構文, 完了形の分詞構文 【期末考査】 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 | 14 | [知識] 文章を読み取るために必要となるさまざまな分詞構文, 完了形の分詞構文に関する事項を理解している。 [技能] Life in a Jar を読み取る技能を身に付けている。 | Life in a Jar を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | Life in a Jar を読んで必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| 2 | 9 | Lesson 5 How Our Minds Work it を用いた強調構文, 助動詞+have+過去分詞を用いた文 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 ☆SKYWARD CLOUDS | 14 | [知識] 文章を読み取るために必要となる it を用いた強調構文, 助動詞+have+過去分詞を用いた文に関する事項を理解している。 [技能] Predictably Irrational を読み取る技能を身に付けている。 | Predictably Irrational を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握している。 | Predictably Irrational を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。 |
| | 10 | Lesson 6 IT and Life 倒置, 関係副詞の非限定用法を用いた文 【中間考査】 | 14 | [知識] 倒置, 関係副詞の非限定用法を用いた文の表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法 理解をもと | A Long Way Home を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握している。 | A Long Way Home を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。 |

| | | | | | | |
|---|----|--|-----|---|---|---|
| | | Further Reading 2 Miss Moore Thought Otherwise ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 ☆SKYWARD CLOUDS | | に、文章の内容を読み取る、技能を身につけている。 | | |
| | 11 | Lesson 7 Advances in Medical Technology that 節をとる名詞, 未来 進行形を用いた文 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 ☆SKYWARD CLOUDS | 13 | [知識] 文章を読み取るために必要となる that 節をとる名詞, 未来進行形を用いた文に関する事項を理解している。 [技能] Putting iPS Cells into Practice を読み取る技能を身に付けている。 | Putting iPS Cells into Practice を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | Putting iPS Cells into Practice を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 12 | 【期末考査】 Lesson8 A Tiny Step, a Big Impact what を用いた強調, 複合関係副詞を用いた文 ☆Focus on Listening Pre-Advanced 2 ☆SKYWARD CLOUDS | 13 | [知識] 文章を読み取るために必要となる what を用いた強調, 複合関係副詞を用いた文に関する事項を理解している。 [技能] 技術革新のつながりについての説明文を読み取る技能を身に付けている。 | 技術革新のつながりについての説明文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | 技術革新のつながりについての説明文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| 3 | 1 | Further Reading 3 Moufflon-The Dog of Florence ☆共通テスト 10 分リス ニングプレノート ☆Cutting Edge Blue Chapter1, 2, 3 | 10 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項を理解している。 [技能] 説明文や論説文、エッセイを読み取る技能を身に付けている。 | 説明文や論説文、エッセイを読み、概要や詳細を理解する。 | 説明文や論説文、エッセイを読み、概要や詳細を理解しようとしている。 |
| | 2 | ☆Cutting Edge Blue Chapter4, 5, 6 ☆共通テスト 10 分リス ニングプレノート | 10 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項を理解している。 [技能] 説明文や論説文、エッセイを読み取る技能を身に付けている。 | 説明文や論説文、エッセイを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | 説明文や論説文、エッセイを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 3 | 【学年末考査】 ☆Cutting Edge Blue Chapter7, 8 ☆共通テスト 10 分リス ニングプレノート 5年のまとめ | 10 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項を理解している。 [技能] 説明文や論説文、エッセイを読み取る技能を身に付けている。 | 説明文や論説文、エッセイを読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握している。 | 説明文や論説文、エッセイを読み取り、文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握している。 |
| | | 年間授業時数 | 140 | | | |

令和8年度 <5学年 論理・表現Ⅱ> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 2 単位 |
| 使用教科書 | Vision Quest English Logic and Expression II |
| 使用補助教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Vision Quest 論理・表現Ⅱ Ace WORKBOOK ・ Vision Quest Insight 英文法・語法・熟語問題集 ・ Vision Quest New English Grammar47 ・ 新演習 950 英文法・語法問題 ・ 新演習 950 英文法・語法問題スタディポイント ・ REPS 英文法・語法問題集 ・ 速読英熟語 改訂版 ・ POWER STAGE ・ POWER STAGE トレーニングブック ・ スマートレクチャーコレクション ライティングメソッド Advanced |

| |
|--|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 ・生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。(紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする) ・表現活動を通して、生徒が主体的に適切な文法を使用したり調べたりし、知識を身に付けることができる。 |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|---|--|--|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| 【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・ 熟語テスト (速読英熟語) ・ 定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・ 基本文テスト (新・英語の構文 150) ・ 定期考査 <input type="checkbox"/> 文化 (自国文化・国際理解) ・ Speech ・ Debate | 【話す力】 <input type="checkbox"/> Speech, Retelling ⇒評価場面 ・ ペアワーク ・ Speech ・ Discussion 【書く力】 <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・ スマレク ライティングメソッド ・ Writing 試験 ・ 定期考査, 課題 | 【聞く力】 <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・ Listening Test ・ 定期考査 【読む力】 <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・ 定期考査 | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・ 熟語テスト (速読英熟語) ・ 基本文テスト (構文 150) ・ 定期考査 (解きなおし) ・ 提出物 ・ スマレク ライティングメソッド <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・ スマレク ・ 定期考査 (解きなおし) ・ 提出物 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---------------------------------------|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Lesson 1 What is your future goal? | 5 | [知識] There 構文や無生物主語の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。 | 文法理解をもとに、適切な表現を使い行きたい国やおすすめの本について書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、行きたい国やおすすめの本について相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | Lesson 2 What school events do you have? | 5 | <p>[知識] 時制や事柄を表す名詞の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い気になるニュースやスポーツに対する自分の意見について書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、気になるニュースやスポーツに対する自分の意見について相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | Lesson 3 Who is the best athlete? | 5 | <p>[知識] 分詞/関係詞/不定詞や助動詞の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い地元の料理の紹介や悩みを抱えている人への励ましの手紙を書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、地元の料理の紹介や悩みを抱えている人への励ましの手紙を相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | Lesson 4 Is social media safe? | 5 | <p>[知識] 比較、程度の差や変化を表す構文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、自分を幸せにするもの・ことについて理由や具体例とともに書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、自分を幸せにするもの・ことについて相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| 2 | Lesson 5 How does overusing energy affect us? | 5 | <p>[知識] 時、譲歩を表す構文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、自分自身のことについて時系列で述べるパラグラフを書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、自分自身のことについて時系列で述べるパラグラフを、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | Lesson 6 What are some culture differences? | 5 | <p>[知識] 目的を表す構文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、環境問題とその解決策について原因や結果、解決策がもたらす結果について書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、環境問題とその解決策の因果関係について、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English? | 5 | <p>[知識] プレゼンテーションの書き方を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、空きスペースの有効な活用法について、具体例や視覚資料を示しながら、聴衆に伝わるようにプレゼンテーションをすることができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、空きスペースの有効な活用法について、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | Lesson 8 Is Japan open enough? | 5 | <p>[知識] デイバートの方法や論の組み立て方を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、生徒は全員部活に入るべきかについて、具体例や理由を挙げながら、討論することができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、生徒は全員部活に入るべきかについて、相手にわかりやすい表現で伝えようとし |

| | | | | | | |
|--------|---|---|----|---|--|---|
| | | | | | | ている。 |
| 3 | 1 | Lesson 9 What if you were rich? | 5 | <p>[知識] ディスカッションの方法や論の組み立て方を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、動物園の是非やエコツアーについて、具体例や理由を挙げながら、討論することができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、動物園の是非やエコツアーについて、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | 2 | Lesson 10 How might AI affect our lives? | 3 | <p>[知識] 描写文、説明文の書き方の違いを理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、未来の世代に遺したいものを、その理由や遺すための方法について3つ以上のパラグラフで書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、未来の世代に遺したいものについて、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| | 3 | Lesson 11 What is a healthy life? | 2 | <p>[知識] 描写文、説明文、議論型文の書き方の違いを理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。</p> | 文法理解をもとに、適切な表現を使い、教育についての意見を、読み手が納得するよう論拠を明確に示し、3つ以上のパラグラフで書くことができる。 | 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、教育についての意見を、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。 |
| 年間授業時数 | | | 70 | | | |

令和8年度 <5学年 文化科学Ⅲ> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 1 単位 |
| 使用教科書 | |
| 使用補助教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Cutting Edge Blue (エミル出版) ・ POWER STAGE 英文法・語法問題 New Edition (桐原書店) ・ Vantage Point (ナショナルジオグラフィックラーニング) ・ Rapid Reading Level3 (美誠社) |

| |
|---|
| 目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 人文系、社会系、自然科学系などさまざまな英文を読む機会を持つことで、教科書とは違った英文に慣れるとともに、異文化理解の一端とする。 |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|--|---|--|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| 【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・ 定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・ 定期考査 <input type="checkbox"/> 文化（自国文化・国際理解） ・ Writing | 【話す力】 <input type="checkbox"/> Retelling ⇒評価場面 ・ ペアワーク ・ Discussion 【書く力】 <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・ Writing 試験 ・ 定期考査, 課題 | 【聞く力】 <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・ Listening Test ・ 定期考査 【読む力】 <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・ 定期考査 | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・ 定期考査 ・ 提出物 ・ Discussion <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・ 定期考査 ・ 提出物 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--------------------|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Unit1 Chapter1 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 食事と CO2 について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、食事と CO2 について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | | Chapter2 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 必要水分量について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、必要水分量について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | | Chapter3 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 英語の変遷について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、英語の変遷について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | | Chapter4 【中間考査】 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 | トランスヒューマンについて書かれた文章の情報を読み取っている。またその情 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、トラン |
| | 5 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--------------------|----|---|--|--|---|---|
| 6 | | | [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 報をもとに話して、書いている。 | スヒューマンについて書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 | | |
| | Unit2 Chapter5 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 絶滅危惧種の選定について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、絶滅危惧種の選定について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 | | |
| | Chapter6 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 「嘘も方便」という文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、「嘘も方便」という文章を理解し、設問に答えようとしている。 | | |
| | Chapter7 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 火の制御とその効果について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、火の制御とその効果について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 | | |
| | Chapter8 【期末考査】 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 老人ホームへの贈り物について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、老人ホームへの贈り物について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 | | |
| | 2 | 9 | Unit3 Chapter9 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 生活賃金について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、生活賃金について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | | | Chapter10 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | アフリカのブランド商品について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、アフリカのブランド商品について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | | 10 | Chapter11 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | サンゴ礁について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、サンゴ礁について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | | | Chapter12 | 2 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、 | 緑色の血液について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、緑色の血液について書かれた文章 |

| | | | | | | |
|---|----|--------------------|----|--|--|--|
| | | | | 英文を和訳する技能を身につけている。 | | を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | 11 | Unit4 Chapter13 | 2 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>文明の隆盛について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、文明の隆盛について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | | Chapter14 | 2 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>豪華客船の沈没について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、豪華客船の沈没について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | 12 | Chapter15 | 2 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>教育と報酬について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、教育と報酬について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| 3 | 1 | Unit5 Chapter16 | 2 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>自動運転車について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、自動運転車について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | 2 | Chapter17 | 2 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>睡眠の常識について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、睡眠の常識について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | 3 | Chapter18 | 1 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>幸福感について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、幸福感について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | | 年間授業時数 | 35 | | | |

令和8年度 <6学年 英語コミュニケーションⅢ> 年間指導計画

| | |
|--------|--|
| 単位数 | 4単位 |
| 使用教科書 | ELEMENT English Communication III |
| 使用補助教材 | Cutting Edge オレンジ (エミル出版) 英語 (リーディング) 対策 R-40 (いいずな書店) 共通テスト英語 Reach Listening30 (美誠社) Reading Core for 共通テスト (啓隆社) 2025 入試用 パワーマックス (Z会) SPRINT5 (文英堂) |

| |
|---|
| 目標 |
| 英語を読む、聞く、話す、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項等を、長文読解を通じて理解し、音読等のトレーニングを行い定着させるとともに、私大や国公立二次試験の英文に対応できる能力を身に付けさせていく。 |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|---|---|---|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| 【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・単語テスト ・定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・定期考査 | 【話す力 (やり取り)】 ⇒評価場面 ・授業中の観察 【話す力 (発表)】 ⇒評価場面 ・Speech 【書く力】 <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・定期考査, 授業内課題 | 【聞く力】 <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・授業内テスト 【読む力】 <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・単元ごとに確認 ・定期考査 | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・単語テスト ・定期考査 ・提出物 <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|---|----|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Lesson 1 Numbers Don't Lie Which Is Eco-Friendly? Cutting Edge Chapter1 絶滅種と DNA Chapter2 ジョギング | 14 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 絶滅種と DNA について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 ジョギングについて書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、絶滅種と DNA について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 文法理解をもとに、ジョギングについて書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | 5 | Lesson 2 Environment or Orangutans? (Environment and Life) Cutting Edge Chapter3 ああ、私のクッキー Chapter4 言語の変化 【中間考査】 | 14 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 物語形式の文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 言語の変化について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、物語を理解し、設問に答えようとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、言語の変化について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |

| | | | | | | |
|---|----|--|----|---|--|---|
| | 6 | Lesson 3 Sleeping(Health and Life) Cutting Edge Chapter5 視覚 Chapter6 温暖化の証明 | 14 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 視覚について書かれた文章の情報を読みとっている。また、その情報をもとに話して、書いている。 温暖化の証明について書かれた文章の情報を読み取っている。また、その情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、視覚について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 文法理解をもとに、温暖化の証明について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | 7 | 【期末考査】 Lesson 4 The Digital-Era Brain: Damaged or Improved? Cutting Edge Chapter7 幸運な惑星 Chapter8 検索エンジンと記憶 | 14 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 宇宙について書かれた文章の情報を読みとっている。また、その情報をもとに話して、書いている。 視覚について書かれた文章の情報を読みとっている。また、その情報をもとに話して、書いている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、宇宙について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| 2 | 9 | Lesson 5 Emoji The language of the online World Cutting Edge Chapter9 科学界とチンパンジー社会 Chapter10 オンカロ | 14 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 進化論の理論を通してチンパンジーの進化と科学について書かれた文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 オンカロの施設と原子力発言についての文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | 進化論の理論を通してチンパンジーの進化と科学について書かれた文章を読んで必要な情報を読み取り、概要や要点詳細を捉えようとしている。 文法理解をもとに、原子力エネルギーについて書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 |
| | 10 | Lesson 6 A Class from Stanford University Cutting Edge Chapter11 駅の落書き 【中間考査】 Cutting Edge Chapter12 AI と機械学習 | 14 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 小説を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 AI と機械の発展についての文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | 文法理解をもとに、子供のころの小さな罪について書かれた小説を読んで、その内容を理解し、設問に答えようとしている。 AI について書かれた文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 11 | Lesson 7 Not All Eggs Are Created Equal Lesson 8 The Present and Future of Food Tech Cutting Edge Chapter13 17 世紀の SNS Chapter14 米国の格差 | 13 | [知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 [技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。 | 17 世紀の SNS を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 米国の格差と経済について書かれた文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 | 17 世紀の SNS の文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 文法理解をもとに、米国の格差と経済について書かれた文章を読んで、その内容を理解し、設問に答えようとしている。 |

| | | | | | | |
|---|----|--|-----|--|--|---|
| | 12 | <p>【期末考査】</p> <p>Lesson9 Praying Hands (Art and Heart)</p> <p>Lesson10 All the Good Things</p> <p>パワーマックス リーディング リスニング</p> | 13 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>共通テスト演習をしていく中で、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。</p> | <p>共通テスト演習を行うことで、その内容を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| 3 | 1 | <p>パワーマックス リーディング リスニング</p> <p>Cutting Edge Chapter15 写真のデジタル化</p> | 10 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>共通テスト演習をしていく中で、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。</p> <p>カメラがデジタル化していくことについて書かれた英文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。</p> | <p>共通テスト演習をしていく中で、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。</p> <p>文法理解をもとに、カメラがデジタル化していくことについて書かれた文章を読んで、その内容を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | 2 | <p>Chapter16 誤信のメカニズム</p> | 10 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>うわさが広まることでの誤信について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、英文を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | 3 | <p>Pleasure Reading San Fairy Ann</p> <p>An Alien Megastructure?</p> <p>Sapiens</p> | 10 | <p>[知識] 本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。</p> | <p>物語形式の文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。</p> | <p>ペアで協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>文法理解をもとに、物語形式で書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。</p> |
| | | 年間授業時数 | 140 | | | |

令和8年度 <6学年 論理・表現Ⅲ> 年間指導計画

| | | |
|--------|---|--|
| 単位数 | 2単位 | 目標 日常生活に関する表現を習得すると同時に、アウトプット活動を通して、writing力、speaking力、presentation力を養う。 文法事項を体系的に習得するとともに、文法・作文に関する大学入試傾向をふまえて演習する。 |
| 使用教科書 | Vision Quest English Logic and Expression III | |
| 使用補助教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・速読英熟語 ・The Reflex 643 (桐原書店) ・入試必携英作文 Write to the Point (数研出版) ・入試必携英作文 Write to the Point EXERCISE B 学習ノート ・ドラゴン English (講談社) | |

| 評価の観点と方法・材料 | | | |
|--|---|---|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に取り組む態度 |
| 【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・熟語テスト (解体英熟語) ・定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・小テスト ・定期考査 | 【話す力】 <input type="checkbox"/> Speech, Retelling ⇒評価場面 ・ペアワーク ・Speech・Discussion 【書く力】 <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・スピーチ原稿 ・Writing 試験 ・定期考査, 課題 | 【聞く力】 <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・定期考査 【読む力】 <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・定期考査 | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・熟語テスト (解体英熟語) ・定期考査 ・提出物 ・Speech・Debate ・Discussion <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・レポート ・定期考査 ・提出物 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|--|----|--|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Lesson 1 学習/言語 Friendship and improvement | 8 | [知識] 文法面では「時制」「助動詞」「受動態」、機能表現面では「賛成・反対」を表す表現を理解している。 [技能] 「英語以外の外国語を学習すること」という問題をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。 | 「友情」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 | 「友情の発展」をどう思うかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に回答したりしようとしている。 |
| | 5 | Lesson 2 学習/言語 Which is better, a paper or an electronic dictionary? | 8 | [知識] 文法面では「不定詞」「動名詞」「分態」、機能表現面では「例証」を表す表現を理解している。 [技能] 「紙の辞書、電子辞書」をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。 | 「紙の辞書、電子辞書」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 | 「紙の辞書、電子辞書」をどう思うかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に回答した |

| | | | | | | |
|----------|--|----|--|--|---|------------|
| | | | | | | りしようとしている。 |
| 6 7 | Lesson 3 心理 Can you change your personality? | 10 | [知識] 文法面では「仮定法」「接続詞」、機能表現面では「時間的順序」を表す表現を理解している。 [技能] ・「人格の変化」をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。 ・「人格を変えることは可能か」についての自分の意見を書き、それを発表する技能を身に付けている。 | ・「人格を変えることは可能か」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 ・「人格を変えることは可能か」について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。 | ・「人格を変えることは可能か」をどう考えるかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に回答したりしようとしている。 ・「人格を変えることは可能か」について主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。 | |
| 2 | 9 Lesson 4 心理 How do we make decisions? | 8 | [知識] 文法面では「比較」「関係詞」、機能表現面では「確信」「提案・勧誘」「伝聞」を表す表現を理解している。 [技能] 「決断するという行為」をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。 | 「決断するという行為」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 | 「決断するという行為」をどう考えるかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に回答したりしようとしている。 | |
| | 10 Lesson 5 医療／健康 Online doctor consultations | 8 | [知識] 文法面では「疑問詞」、機能表現面では「忠告・義務」「必要」「譲歩」を表す表現を理解している。 [技能] 「オンライン診断」についての自分の意見を書き、それを発表する技能を身に付けている。 | 「オンライン診断」について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。 | 「オンライン診断」について主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。 | |
| 11 12 | Lesson 6 医療／健康 Healthy lifestyle | 10 | [知識] 「否定」「比較・対照」を表す表現を理解している。 [技能] ・「健康的な生活様式」についての考えを、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、詳しく伝え、質疑応答に応じる技能を身に付けている。 ・「健康的な生活様式」についての自分の意見を書き、それを発表する技能を身に付けている。 | ・「健康的な生活様式」について、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に回答したりしている。 ・「健康的な生活様式」について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表して | 「健康的な生活様式」について、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に回答したりしようとしている。 | |

| | | | | | | |
|---|--------|--|----|--|---|---|
| | | | | | いる。 | |
| 3 | 1 | Lesson 7 異文化 What do you do after school? | 8 | [知識] 文法面では「名詞」「冠詞」、 機能表現面では「統計資料を説明す る表現」を理解している。 [技能] 「放課後の活動」の取り組み について自分の考えを書き、それ について発表する技能を身に付けてい る。 | 「放課後の活動」の取り組 みについて、論理展開に留 意し、基本的な語彙や文法 を活用して、読み手を意識 した原稿を書き、それを発 表している。 | 「放課後の活動」の取り 組みについて主体的に考 え、論理展開に留意し、 基本的な語彙や文法を活 用して、読み手を意識し た原稿を主体的に書き、 それを発表しようとして いる。 |
| | 2 3 | Lesson 8 異文化 Direct and indirect ways of communication | 10 | [知識] 文法面では「特殊構文」、機 能表現面では「因果関係」を表す表 現を理解している。 [技能] ・「コミュニケーションの取り方」に ついての考えを、やり取りの表現の 機能に留意しながら、基本的な語彙 や文法を活用して、詳しく伝え合い、 質疑応答に応じる技能を身に付けて いる。 ・「コミュニケーションの取り方」に ついて自分の考えを書き、それにつ いて発表する技能を身に付けてい る。 | ・「コミュニケーションの取 り方」について、他者の様々 な意見を参考にしながら、 自分の意見を基本的な語彙 や文法を活用して詳しく伝 えたり、相手からの質問に 応答したりしている。 ・「コミュニケーションの取 り方」について、論理展開 に留意し、基本的な語彙や 文法を活用して、読み手を 意識した原稿を書き、それ を発表している。 | ・「コミュニケーションの 取り方」について、主体 的に考え、他者の様々な 意見も参考にしながら、 自分の意見を基本的な語 彙や文法を活用して主体 的に表現して詳しく伝え ようとしていたり、相手か らの質問に応答したりし ようとしている。 ・「コミュニケーションの 取り方」について、主体 的に考え、論理展開に留 意し、基本的な語彙や文 法を活用して、読み手を 意識した原稿を主体的 に書き、それを発表しよ うとしている。 |
| | | 年間授業時数 | 70 | | | |

令和8年度 <6学年 英語コミュニケーション演習> 年間指導計画

| | |
|--------|---|
| 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | ELEMENT English Communication III |
| 使用補助教材 | ・Cutting Edge Black(エミル出版) ・Listening Essential3 (啓隆社) |

| |
|--|
| 目標 |
| 英文を読む、聞く、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項を長文読解を通じて理解し、音読等のトレーニングを行い定着させるとともに、私大や国公立二次試験の英文に対応できる力を身に付ける。 アウトプット活動を通して、writing力、speaking力を養う。 |

| 評価の観点と方法・材料 | | |
|---|---|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/> 語彙・表現 ⇒評価場面 ・定期考査 <input type="checkbox"/> 文型・文法 ⇒評価場面 ・定期考査 <input type="checkbox"/> 文化（自国文化・国際理解） ・Writing | 【話す力】 <input type="checkbox"/> Retelling ⇒評価場面 ・ペアワーク ・Discussion 【書く力】 <input type="checkbox"/> Writing ⇒評価場面 ・Writing 試験 ・定期考査, 課題 | 【聞く力】 <input type="checkbox"/> Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・定期考査 【読む力】 <input type="checkbox"/> Reading ⇒評価場面 ・定期考査 |
| | | <input type="checkbox"/> 粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物 ・writing, presentation <input type="checkbox"/> 自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物 |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|----|---|-----------------|----|--|---|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | Unit1 走力と筋肉量 | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 走力と筋肉量についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 走力と筋肉量についての考えを深めるために、研究がどう影響するかについて、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 走力と筋肉量についての考えを深めるために、研究がどう影響するかについて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。 |
| | 5 | Unit2 言語の消滅 | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 言語の消滅についての雑誌記事を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 言語の消滅について理解を深めるために、言語の消滅に関する雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 言語の消滅理解を深めるために、言語の消滅に関する雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 6 | Unit3 エッセイ | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 記憶と日常生活についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 記憶と日常生活について理解を深めるために、記憶が人々にもたらす影響に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 記憶と日常生活について、情報や考えを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えようとしている。 |

| | | | | | | |
|---|--------|--------------------|---|--|---|---|
| | 7 | Unit4 鳥の能力 | 4 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 鳥の能力についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 鳥の能力の考えを深めるために、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 鳥の能力の影響と懸念点についての考えを深めるために、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。 |
| 2 | 9 | Unit5 教育の機会 | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 教育の機会についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 教育の機会について理解を深めるために、犬と猫の歴史的な扱われ方に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 教育の機会についての考えを深めるために、研究がどう影響するかについて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。 |
| | 10 | Unit6 産業革命 | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 産業革命についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 産業革命について理解を深めるために、関する記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 産業革命について理解を深めるために、関する記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 11 | Unit7 監視資本主義 | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 監視資本主義についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 監視資本主義について理解を深めるために、人工知能技術による仕事の自動化に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 監視資本主義についてについて、情報や考えを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えようとしている。 |
| | 12 | Unit8 利他主義と利己主義 | 4 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 利他主義と利己主義についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 利他主義と利己主義についての考えを深めるために、データ分析を用いた研究結果について、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 利他主義と利己主義についての考えを深めるために、データ分析を用いた研究結果について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。 |
| 3 | 1 | Unit11 認知能力 | 6 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 [技能] 認知能力についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。 | 認知能力について理解を深めるために、スポーツやビジネスの世界での応用の仕方に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 認知能力について理解を深めるために、スポーツやビジネスの世界での応用の仕方に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 |
| | 2 3 | Unit12 人間の食性 | 8 | [知識] 文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 | 人間の食性について理解を深めるために、生死に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、 | ペアで協力して活動に取り組むことができる。 人生と時間軸の捉え方について |

| | | | | | |
|--------|--|----|---|---|---|
| | | | <p>[技能] 人間の食性についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。</p> | <p>概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。</p> | <p>て理解を深めるために、生死に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。</p> |
| 年間授業時数 | | 70 | | | |

令和8年度 <4学年 総合的な探究の時間（人間と社会）> 年間指導計画

| | |
|--------|----------------------|
| 単位数 | 1単位 |
| 使用教科書 | 「人間と社会」（東京都教育委員会） |
| 使用補助教材 | 課題研究メソッド 2nd Edition |

| 目標 |
|---|
| <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> |

| 評価の観点と方法・材料 |
|---|
| <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|----------------------------------|----|---|--|--|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ○「人間と社会」テキストを活用し「問い」を立てる練習を行う。 | 2 | ○自己の生活や周辺の事象には、それぞれの実態に応じた課題があることを、具体例に基づいて理解している。 | ○自分たちのゴールの見通しをもち、課題をつくり、仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案している。 | ○自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。 |
| | 5 | ○先行研究調べ | 2 | | | |
| | 6 | | 2 | | | |
| | 7 | ○先行研究から問いを立てる | 2 | | | |
| 2 | 9 | ○先行研究から問いを立てる | 4 | ○フィールドワーク、統計調査やアンケート調査、観察や実験などを、対象に応じた適切さで、正確に実施している。 | ○仮説の検証に向けて、最適な方法を選択しながら、原因を特定している。 | ○先行研究を調べ、自ら課題を見つけ、調査し、仮説を立て、まとめることを粘り強く実践している。 |
| | 10 | ○自ら立てた「問い」検証する。 公開添削会 | 2 | | | |
| | 11 | | 2 | | | |
| | 12 | ○個人探究 | 2 | | | |
| 3 | 1 | ○ポスター作成、プレゼンテーションの準備 | 2 | ○探究活動を通して課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 | ○探究活動によって得られた調査結果を、データの質や伝えたい内容や方法を踏まえて表現している。 | ○先行研究を調べ、自ら課題を見つけ、調査し、仮説を立て、まとめることを粘り強く実践している。 |
| | 2 | 探究発表会 | 2 | | | |
| | 3 | ○次年度に向けての準備 | 1 | | | |
| 体験活動 | | 探究フィールドワーク、防災体験、インクルーシブ体験などから実施。 | 12 | ○体験活動の仕方を身に付けている。 | ○多様な他者と協力して、体験活動に取り組んでいる。 | ○事前学習や事前調査などを活用して社会課題などについて積極的に取り組んでいる。 |
| 年間授業時数 | | | 35 | | | |

令和8年度 <5学年 総合的な探究の時間> 年間指導計画

| | |
|--------|----------------------|
| 単位数 | 1単位 |
| 使用教科書 | |
| 使用補助教材 | 課題研究メソッド 2nd Edition |

| 目標 |
|---|
| <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> |

| 評価の観点と方法・材料 |
|---|
| <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|-------------------------|----|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ○オリエンテーション ○研究テーマの設定 | 3 | ○自己の生活や周辺の事象には、それぞれの実態に応じた課題があることを、具体例に基づいて理解している。 | ○自分たちのゴールの見通しをもち、課題をつくり、仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案している。 | ○自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。 ○先行研究を調査し、社会課題などについて積極的に取り組んでいる。 |
| | 5 | ○研究テーマを解決するための「問い」を作る。 | 4 | | | |
| | 6 | ○「問い」に対する仮説・検証方法を考える。 | 3 | | | |
| | 7 | | 2 | | | |
| 2 | 9 | ○仮説の検証・実験のまとめ | 2 | ○フィールドワーク、統計調査やアンケート調査、観察や実験などを、対象に応じた適切さで、正確に実施している。 | ○仮説の検証に向けて、最適な方法を選択しながら、原因を特定している。 | ○先行研究を調べ、自ら課題を見つけ、調査し、仮説を立て、まとめることを粘り強く実践している。 |
| | 10 | ○個人探究 公開添削会 | 4 | | | |
| | 11 | ○個人探究 | 4 | | | |
| | 12 | ○ポスター作成 | 3 | | | |
| 3 | 1 | ○プレゼンテーション練習 | 4 | ○探究活動を通して課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 | ○探究活動によって得られた調査結果を、データの質や伝えたい内容や方法を踏まえて表現している。 | ○先行研究を調べ、自ら課題を見つけ、調査し、仮説を立て、まとめることを粘り強く実践している。 |
| | 2 | 探究発表会 | 3 | | | |
| | 3 | ○次年度に向けての準備 ○探究論文の作成 | 3 | | | |
| 年間授業時数 | | | 35 | | | |

令和8年度 <6学年 総合的な探究の時間> 年間指導計画

| | |
|--------|----------------------|
| 単位数 | 1単位 |
| 使用教科書 | |
| 使用補助教材 | 課題研究メソッド 2nd Edition |

| 目標 |
|--|
| <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> |

| 評価の観点と方法・材料 |
|--|
| <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p> |

| 学期 | 月 | 単元と学習内容 | 時数 | 観点の評価規準 | | |
|--------|----|---|----|---|--|---|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 1 | 4 | ○オリエンテーション ○研究テーマの再設定 | 2 | ○自己の生活や周辺の事象には、それぞれの実態に応じた課題があることを、具体例に基づいて理解している。 | ○自分たちのゴールの見通しをもち、課題をつくり、仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案している。 | ○自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。 ○先行研究を調査し、社会課題などについて積極的に取り組んでいる。 |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | | | | | |
| | 7 | ○再検討した「問い」に対する仮説・検証方法を考える。 ○仮説の検証・実験のまとめ | 4 | | | |
| | | | 3 | | | |
| 2 | 9 | ○探究論文の作成 | 13 | ○フィールドワーク、統計調査やアンケート調査、観察や実験などを、対象に応じた適切さで、正確に実施している。 | ○仮説の検証に向けて、最適な方法を選択しながら、原因を特定している。 | ○先行研究を調べ、自ら課題を見つけ、調査し、仮説を立て、まとめることを粘り強く実践している。 |
| | 10 | | | | | |
| | 11 | | | | | |
| | 12 | | | | | |
| 3 | 1 | ○探究論文構成再チェック | 10 | ○探究活動を通して課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 | ○探究活動によって得られた調査結果を、データの質や伝えたい内容や方法を踏まえて表現している。 | ○先行研究を調べ、自ら課題を見つけ、調査し、仮説を立て、まとめることを粘り強く実践している。 |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| 年間授業時数 | | | 35 | | | |

図書館・保健室より

図書館から

学校図書館は、多様な資料や検索のためのツールを用意して、皆さんのひとりひとりが自ら学ぶことができる環境を整えています。図書館に来て、棚に並ぶ本の背表紙を眺めるだけでも世界は広がります。広く豊かな本の世界を通して、理解する力や考える力、また表現する力を培ってください。この中学・高校時代に図書館を利用する習慣を身に付けることは、将来、大学生や社会人になってから、各種の図書館を活用するうえで、大きな助けになるはずです。

〈読書〉

書物は時代や空間を超えて、人の営みを伝えてきました。個人で体験できることには限りがありますが、読書することで、未知の世界に触れ、複雑な社会や人の心を理解するヒントが得られます。様々な考え方や感じ方に接し、自分自身や社会について考えることは、未来を模索することにつながっていきます。中学・高校時代に多くの本に出会うことによって、視野を広げ、ものの見方を確立し、自分の意見を表現できるよう成長してほしいと願っています。

また、くつろいだ気分で想像の世界に楽しみを発見する読書もあります。図書館には、エンターテインメント小説、趣味やスポーツの実用書や写真集など、気軽に楽しみながら読める本や雑誌もたくさんあります。時には図書館で、ひとりでできる息抜きを楽しんでください。

〈調査・研究〉

探究のサードステージでは、個人論文を完成することになります。テーマの設定や調査に、インターネットだけでなく、図書館にある資料を活用できるようになりましょう。本校図書館でも他館でも、資料の探し方や利用についてわからないことがあれば、遠慮せずに職員に質問をしてみてください。

【資料の探し方】

学校では閲覧室にある蔵書検索パソコンが利用できます。また本校の蔵書検索サイト「三鷹中等教育学校 図書館」(https://lib-finder.net/mitaka_ss/) からオンラインで検索することも可能です。検索の際は、調べたい事柄にたいして関連するキーワードを複数用意すると、より情報をみつけやすくなります(例: 節電について調べたい…省エネ、電気、発電、エネルギーなど)。そうしたキーワードが浮かばない場合は、まずは百科事典でその事柄を調べると、必要最低限の知識を得ることができます。

また、図書館には本だけでなく、新聞や雑誌もあります。そちらも調べてみましょう。

【資料の読み方】

調べものをする際は、楽しみの読書とは違い、1 ページ目から順番に読む必要はありません。見つけた資料に必要な情報があるか、内容を示している「目次(もくじ)」か、巻末にある「索引(さくいん)」から該当するページを探して確認しましょう。

また、本の巻末には「参考文献一覧」という、本を書く際に参考にした資料の一覧がついている場合があります。必要な本が一冊あれば、そこから別の本を探すことができます。

必要な情報を見つけたら、それがどの資料のどこに載っていたのかをメモしましょう。本の場合は「書名」「著者名」「出版社」「出版年」が基本です。

図書館は、みなさんの「知りたい、学びたい」を応援する場所です。おおいに活用してください。

保健室から

保健室では、みなさんが充実した学校生活を送れるように、サポートをしていきます。みなさんも自分の体調を把握し、自分で健康管理ができるようにしましょう。

<前期課程>

小学校時代に比べて、通学時間が長くなります。学習内容も難しくなり、予習・復習・宿題と勉強時間が長くなるとともに部活動の練習内容も厳しくなります。思春期は大切な成長期なので、必要に応じ身体を休息させることが大切です。

<後期課程>

後期課程は義務教育ではありませんので、決められた出席日数をこなし単位をとることが大切です。体調管理を行い、充実した学校生活を送りましょう。

<前期課程・後期課程共通の健康管理>

自分の生活リズム

睡眠時間を削っての生活は、単に疲労感や眠気を招くばかりではなく、頭痛や肩こり立ちくらみ、生理の不順、胃腸の調子が悪いといった症状を招きます。

身体の疲労が重なると「やる気が出ない」「何もしたくない」「理由はないが涙がでてくる」など心への影響がでてくることもあります。

規則正しい生活を送り、自分なりの生活リズムをつくりましょう。

睡眠と栄養

中等教育学校の6年間は身体が最も成長する時期です。睡眠と栄養と適度な運動は成長に欠かせない大切な要素です。睡眠は休息をとるという点からも、また睡眠中に成長ホルモンの分泌が促進されている点からも重要です。自分に必要な睡眠時間をつかんでください。

食生活の面では、栄養のバランスを考えて摂取しましょう。前期課程の給食は、成長に必要なエネルギー、栄養バランスを考えた献立となっています。

後期課程は、弁当を持参します。自分で弁当を作る（購入する）人もいるでしょう。パンだけ、おにぎりだけでなく野菜（サラダやジュース）・たんぱく質（チーズ等）も加えるなどバランスを考えましょう。

学校感染症について

インフルエンザなど学校感染症に罹患した場合は、速やかに学校に連絡し出席停止期間は十分に休養をしましょう。登校を再開する時には「学校感染症による欠席届」を担任に提出してください。

心の健康

中学・高校時代は精神的・身体的・社会的に大人へと成長していく時期です。

その過程で不安感や挫折感を感じることもあると思います。自分の心と向き合いひとりで考えることも大切ですが、信頼できる大人に相談することも時には必要です。

保健室でも相談に応じますし、スクールカウンセラーも来校し相談対応をしています。

6年間の学習計画

国語科 6年間の指導計画

目 標 ・文化の源となる国語教育という視点に立ち、読むこと・書くことはもちろん、話すこと・聞くことの領域においても「ことば」の働き・成り立ちに興味や関心を持ち、言語文化を深く理解し尊重する態度を養う。実社会において「ことば」の正しい、主体的な使い手となり、自分の気持ち、考えを適切に表現できる力を身につけさせる。他者を理解し、物事を論理的に思考し深化させていくことのできる言語力を養成する。

指導の特徴 ○学校設定科目…「文化科学Ⅰ」「文化科学Ⅱ」の設置。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|---|---|--|
| 読書に親しむ。漢字と言葉の正しい理解と習得。自分の意見や考えを言葉にして率直に表現する。他者の言葉を的確に受け止める。 | 意欲的に読書に取り組み、視野を広げる。文章表現の仕方を学び、文章を書き慣れる。討論・討議を通して他者を理解し、自分の論理を鍛える。 | 自ら課題を設定し、読書を行う。古今の文章を読み叡智に触れて、自分の考えを発展させる。価値判断を伴った読解力を付ける。効果的な表現方法を工夫する。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 履修科目 | 授業時数 | 三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携 | |
|------|-----------|----|--|--|--|-------------------------------|---|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | ○国語 ・楽しく読む。 ・工夫して音読・朗読・群読をし、読解力と表現力を育てる。 ・口語文法を学び、日本語の特性を知る。 ・漢字の成り立ち・故事成語・四字熟語を学んで漢字の造語力を知る。 ・古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる。 書写 ・字形・配列などを理解して楷書で書く。 ・漢字の行書の基礎。 | ○文化科学Ⅰ ・読解力、表現力の基礎を養う。 ・身の回りに材をとったスピーチや、グループでの話し合い活動を通じて、効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ・論理的な文章の構成や、資料の読み取り方を学ぶ。 ・百人一首の暗唱を行い、和歌に親しむ。 | 国語 文化科学Ⅰ | 週4時間 週1時間 | ・日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりする。 ・スピーチ「私のお気に入り」ショウ・アンド・テル |
| | | 2 | ○国語 ・正しく読む。 ・仲間や社会とのかかわりを描いた文学作品を読み、日常生活から社会全体へと視野を広げる。 ・通知文、説明文、図表などの制作を行い、情報を伝える編集方法について学ぶ。 ・熟語の構成・漢語と和語の性質を学び、日本語の豊かさを理解する。 ・文語文法・訓読のきまりの基礎を学び古典独特の表現を味わう。 ・百人一首の鑑賞とともに近現代の短歌・俳句を学び、定型詩の伝統と特色を考える。 書写 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書く。 | | 国語 | 週4時間 | ・収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く。 ・書いたものをグループで回して読み合い、良さやアドバイスを伝えあい、推敲する。 |
| | | 3 | ○国語 ・広く読む。 ・社会や世代を超えて読み継がれる物語や小説を読んで自己と社会を考える。 ・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読み、読み取ったことを簡潔にまとめた文章を書く。 ・ディベート・パネルディスカッションを行い、対話と説得の技術を身につける。 ・文語文法（用言）・訓読のきまりを体系的に学び、読解力の基礎を固める。 ・世界の様々な文字の特性と背景にある文化を知るとともに、我が国における仮名の成り立ち・特性を理解する。 書写 ・多様な文字に関心を持ち効果的に字を書く。 | | 国語 | 週4時間 | ・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。 ・報道されていることを読み取り、起こった出来事をとらえる。 |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | ○現代の国語 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 | ○言語文化 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・読書に親しみ、言語文化の担い手として言葉を通して他者や社会を理解する。 ・古典の世界に親しみ、作品や文章の歴史的、文化的背景などを理解する。 ○文化科学Ⅱ ・漢文と現代の文章をつなげ、言語文化を発展的に深め、理解する。 | 現代の国語 言語文化 文化科学Ⅱ | 2単位 2単位 1単位 | |
| | | 5 | ○文学国語 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味する。 ・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 | ○古典探究 ・古典の作品や文章の種類と特徴について理解を深める。 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増し、語彙を豊かにする。 | 文学国語 古典探究 | 2単位 3単位 | |
| | | | 6 | ○論理国語 ・読んで広げる。 ・時代や地域で異なる多様な文化を相対的にとらえ尊重するとともに、普遍的真理を追究する態度を育てる。 ・近代、現代を考えさせる小説・評論を読み、時代と人間・社会と人間について話し合って考えを深め、文章に表現する。 | ○発展古典、古典演習（選択） ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ○現代文演習（選択） ・現代文や古典の作品を通して、より深く解釈をするとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深める。 | 論理国語 発展古典 古典演習 現代文演習 | 2単位 4単位 2単位 2単位 |

社会科 6年間の指導計画

目 標 ・「思いやり・人間愛を持った社会的リーダー」として必要な、公民的資質を養う。6年間を通じ各分野の基本的な事項に関する知識・技能を確実に習得させるとともに、分野相互の関連を図り、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心と愛情を身に付けた社会的リーダーとして必要な判断力・表現力を身に付ける。

指導の特徴 5・6年次の本人の進路選択に応じた選択科目の設置。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|---|---|---|
| 社会的事象に関する基本的な知識と技能を身につける。(その際、一貫教育の特性を生かし、後期課程の理解に不可欠な部分については十分な時間を確保する)。 | 社会的事象に関する幅広い知識と技能の定着を図る。また、社会事象の原因や背景を考察したり、多面的多角的に追及したりする力を養う。 | 社会的事象を理解・分析し、課題を解決する総合的な力を身につける。また、それらを分かりやすく表現する能力を培う。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 履修科目 | 授業時数 | 三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携 | | |
|------|-----------|----|---|--|--|---|---|--------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | ○地理的分野 (1) 世界の様々な地域 (2) 日本の様々な地域 | ○歴史的分野 (1) 歴史のとらえ方 (2) 古代までの日本 (3) 中世の日本 (4) 近世の日本 (5) 近代の日本と世界 (6) 現代の日本と世界 | 社会 | 週4時間 | <地理的分野> ・地域の規模に応じた調査、身近な地域 <歴史的分野> ・歴史のとらえかた、身近な地域の歴史を調べる活動 <公民的分野> ・政治分野：地方自治 ・経済分野：政府の役割 ・地方財政 | |
| | | 2 | | | 社会 | 週3時間 | | |
| | | 3 | ○公民的分野 (1) 私たちと現代社会 (2) 私たちと経済 (3) 私たちと政治 (4) 私たちと国際社会の諸課題 | | 社会 | 週4時間 | | |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | ○地理総合(必履修) (1) 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 (2) 国際理解と国際協力 (3) 持続可能な地域づくりと私たち ○歴史総合(必履修) (1) 工業化の進展と国民国家の建設 (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 帝国主義とアジア諸国の変容 (4) 第一次世界大戦と大衆社会 (5) 経済危機と第二次世界大戦 (6) 第二次世界大戦後の世界と日本 (7) 冷戦と植民地化・第三世界の台頭 (8) 世界秩序の変容と日本 | ○公共(必履修) (1) 公共の扉 (2) 自立した主体としてよりよい社会の形成 (3) 持続可能な社会づくりの主体となる私たち | 地理総合 歴史総合 公共 | 2単位 2単位 2単位 | | |
| | | 5 | ○世界史探究(選択必修) (1) 世界史へのまなざし (2) 諸地域の歴史的特質の形成 (3) 諸地域の交流・再編 (4) 諸地域の結合・変容 (5) 地球世界の課題 | ○日本史探究(選択必修) (1) 原始・古代の日本と東アジア (2) 中世の日本と世界 (3) 近世の日本と世界 (4) 近現代の地域・日本と世界 | ○地理探究(選択必修) (1) 自然環境 (2) 資源、産業 (3) 交通・通信、観光 (4) 人口、都市・村落 (5) 生活文化、民族・宗教 (6) 現代世界の地域区分 (7) 現代世界の諸地域 (8) 持続可能な国土像の研究 | 世界史探究 日本史探究 地理探究 | 4単位 4単位 4単位 | ※1科目選択 |
| | | 6 | 【選択科目】 発展地理 地理演習 発展世界史 世界史演習 発展日本史 日本史演習 倫理 政治・経済 | | | 発展地理 地理演習 発展世界史 世界史演習 発展日本史 日本史演習 倫理 政治・経済 | 2単位 2単位 4単位 2単位 4単位 2単位 2単位 2単位 | |

数学科 6年間の指導計画

目 標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を以下のとおり3ステージ分けて育成する。

指導の特徴 ○習熟度別指導の実施…2学級3展開の授業を実施し、個々に応じたきめ細かな習熟度別指導を行う。

○継 続 的 指 導…精選した内容を系統的、体系的に指導する。

○発 展 的 指 導…中等教育学校の後期課程における指導内容の一部については、前期課程における指導内容に移行させて発展的な学習として指導する。

○学 校 設 定 科 目…「自然科学Ⅰ」を設定し、「日本の文化と幾何学」を題材に、意欲、興味関心を高める課題学習指導を行う。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|--|---|--|
| <p>○数量や図形などについての基礎的な概念や法則を理解する。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能について学ぶ。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p> | <p>○数量や図形などについての基礎的な概念や法則について理解を深める。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を伸ばす。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p> | <p>○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 関連教材 | 履修科目 | 週授業数 単位数 |
|------|-----------|----|--|---|------|-------------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | <p>○代数分野</p> <p>(1) 正の数と負の数 具体的な場面を通して正の数と負の数必要性和意味を理解し、四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。</p> <p>(2) 文字を用いた式、四則演算 文字を用いることの必要性和意味を理解し、文字を用いた式の計算ができるようにする。また、目的に応じて式を変形したり、数量や数量の関係を捉え説明したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 一元一次方程式、連立二元一次方程式 等式や方程式の必要性和意味について理解し、一元一次方程式や連立二元一次方程式を解くことができるようにするとともに、方程式を具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(4) 比例と反比例 関数関係の意味を理解するとともに、比例や反比例として捉えられる二つ数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、具体的な事象について考察し表現することができるようにする。</p> <p>(5) データの活用 ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を理解するとともに、目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断することができるようにする。</p> <p>(6) 確率 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 平面図形 基本的な作図や図形の移動について理解するとともに、扇形の弧の長さや面積の求め方について理解し、これらを具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(2) 空間図形 空間図形についての理解を深めるとともに、基本的な錐体や柱体、球の表面積や体積について理解し、これらを具体的な場面で活用できるようにする。</p> | <p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・1代数編 ・1幾何編 ・2代数編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・1代数編 ・1幾何編 ・2代数編</p> | 数学 | 4時間 |

| | | | | | |
|----------|---|--|---|--------|-----|
| | | <p>○代数分野</p> <p>(1) 式の展開と因数分解 具体的な事象の中にある数量について文字を用いた式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。</p> <p>(2) 平方根 正の数の平方根の必要性和意味について理解し、平方根を含む式の計算をすることができるようにするとともに、具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(3) 一次関数 事象の中にある一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。</p> <p>(4) データの活用 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解するとともに、これらを用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。</p> <p>(5) 確率 場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解するとともに、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 平面図形の性質 基本的な平面図形の性質を見出し、平行線と角の性質、多角形の角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができるようにする。</p> <p>(2) 図形の合同 平面図形の合同、三角形の合同条件の意味、証明の必要性和意味及びその方法について理解することができるようにする。</p> <p>(3) 三角形と四角形 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、新たな性質を見いだしたりすることができるようにする。</p> | <p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・ 2代数編 ・ 1幾何編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・ 2代数編 ・ 1幾何編</p> | 数学 | 4時間 |
| | 2 | <p>○自然科学 I 「日本の文化と幾何学」と「データの活用」</p> <p>(1) 和算や算額の歴史について理解を深めるとともに、算額作りに必要な幾何の諸定理（三平方の定理や円の性質など）を理解し、利用することができるようにする。</p> <p>(2) 幾何の諸定理を利用して算額を作ったり、仲間の作品を意欲的に鑑賞し、解きあったりすることができるようにする。</p> <p>(3) データの分析についての理解を深める。</p> | <p>体系数学 ・ 2代数編 ・ 2幾何編</p> <p>数学の泉</p> | 自然科学 I | 1時間 |
| セカンドステージ | 3 | <p>○代数分野</p> <p>(1) 二次方程式 二次方程式の必要性和意味を理解し、因数分解や平方根の考えを基にして二次方程式を解くことができるようにするとともに、具体的な場面で二次方程式活用できるようにする。</p> <p>(2) 関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができるようにするとともに、具体的な事象を捉え考察し表現することができるようにする。</p> <p>(3) 標本調査 標本調査の必要性和意味を理解するとともに、コンピュータを用いて標本調査の実験を行い、母集団の傾向を推定し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現したりすることができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 図形の相似 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解するとともに、三角形の相似条件を基にして図形の性質を論理的に考察し表現したり、新たな定理を見だしそれを活用したりすることができるようにする。 また、基本的な立体の意味を理解するとともに、相似比と面積比や体積比との関係について理解し活用することができるようにする。</p> <p>(2) 円周角と中心角 円周角と中心角の関係の意味を理解し証明ができるようにするとともに、具体的な場面で活用できるようにする。</p> <p>(3) 平面図形の探究 三角形の性質や円の性質など平面図形に関する基本的な性質や定理についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにするとともに、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。</p> | <p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・ 2代数編 ・ 2幾何編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・ 2代数編 ・ 2幾何編</p> | 数学 | 4時間 |
| | | <p>○数学 I</p> <p>(1) 数と式 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</p> | <p>数学 I</p> <p>体系数学 3 数式・関数編 論理・確率編</p> | 数学 I | 3単位 |

| | | | | | |
|---------------------------------|---|--|------------------------------------|------------|------------|
| 後 期 課 程 | 4 | <p>(2) 二次関数 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p> <p>(5) いろいろな式（数学Ⅱ） 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p> | <p>数学Ⅰ</p> <p>体系数学3 論理・確率編</p> | | |
| | | <p>○数学A (1) 場合の数と確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 数列（数学B） 簡単な数列とその和について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> | <p>数学A</p> <p>体系数学3 論理・確率編</p> | <p>数学A</p> | <p>2単位</p> |
| サ ー ド ス テ ー ジ | 5 | <p>○数学Ⅱ (1) 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) 微分・積分の考え 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> | <p>数学Ⅱ</p> <p>体系数学5</p> | <p>数学Ⅱ</p> | <p>4単位</p> |
| | | <p>○数学B (1) 数列 漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 統計的な推測 確率の理論を統計に応用し、区間推定と仮説検定の方法を理解するとともに、母集団の特徴や傾向を推測し判断できるようにする。</p> | <p>数学B</p> | <p>数学B</p> | <p>2単位</p> |
| | | <p>○数学C (1) ベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> | <p>数学C</p> | <p>数学C</p> | <p>1単位</p> |
| | 6 | <p>○数学Ⅲ（選択） (1) 極限 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 微分法 微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 積分法 積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。</p> | <p>数学Ⅲ</p> | <p>数学Ⅲ</p> | <p>4単位</p> |
| | | <p>○数学C（選択） (1) 平面上の曲線と複素数平面 平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> | <p>数学C</p> | <p>数学C</p> | <p>2単位</p> |
| | | <p>○数学Ⅰ（選択） 数学Ⅰ、数学Aの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。</p> | <p>数Ⅰ・A</p> | <p>数学Ⅰ</p> | <p>2単位</p> |
| | | <p>○数学Ⅱ（選択） 数学Ⅱ、数学Bの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。</p> | <p>数Ⅱ・B</p> | <p>数学Ⅱ</p> | <p>2単位</p> |
| | <p>○数学Ⅱ（応用）（選択） ・数学Ⅱ、数学Bの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通じて、大学入試における得点力向上を目指す。</p> | <p>数学Ⅱ・B</p> | <p>数学Ⅱ</p> | <p>2単位</p> | |

理科 6年間の指導計画

- 目 標 ・自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探究する力を身につける。
 ・「社会的リーダー」として必要な、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を身につける。

指導の特徴 ○学校設定科目…「自然科学Ⅱ」の設置。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|--|---|--|
| 身のまわりの現象に実験や観察を通して触れることで、自然に対する興味・関心を深める。 科学的探究を行うための基本的な能力や態度を育てる。 | 自然に対する疑問を持ち、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる。 自然と人との関わり合いや共生、生命の尊重を通じ、社会的リーダーとして必要な基本的人権を尊重する態度を育成する。 | 専門性の高い授業を展開するとともに、各科目間を横断的に考える力も育てる 個々の生徒の興味・関心に応じて科目を選択できるようにする。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | | | | 履修科目 | 授業時数 | 三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携 |
|------|-----------|----|--|--|--|--|-------|------|--|
| | | | 物理分野 | 化学分野 | 生物分野 | 地学分野 | | | |
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | 物理分野 身近な物理現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象 | 化学分野 物質のすがた ・いろいろな物質 ・気体の発生と性質 ・物質の状態変化 ・水溶液 | 生物分野 生物の世界 ・身近な生物の観察 ・植物のなかま ・動物のなかま | 地学分野 大地の変化 ・火山 ・地震 ・地層 ・大地の変動 | 理科 | 週3時間 | ・硬貨の密度から物質を特定する。 ・さまざまな細胞を観察し、その共通点、相違点を知る。 |
| | | 2 | 物理分野 電流とその利用 ・電流と回路 ・電流と磁界 ・電流の正体 | 化学分野 化学変化と原子、分子 ・物質の成り立ち ・いろいろな化学反応 ・化学変化と熱の出入り ・化学変化と物質の質量 | 生物分野 生物のからだのつくりとはたらき ・生物をつくる細胞 ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき | 地学分野 気象のしくみと天気の変化 ・気象観測 ・気圧と風 ・天気の変化 ・日本の気象 | 理科 | 週4時間 | ・毎日の天気予報を聞いたり、見たりして明日の天気を予報する。 |
| | セカンドステージ | 3 | 物理分野 運動とエネルギー ・力の合成と分解 ・水中の物体に加わる力 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー | 化学分野 化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・化学変化と電池 ・酸、アルカリとイオン | 生物分野 生命のつながり ・生物の成長とふえ方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化 | 地学分野 地球と宇宙 ・天体の動き ・月と惑星の運動 ・宇宙の中の地球 | 理科 | 週4時間 | ・リアモーターカーの仕組みを知る。 ・デジタルカメラを用いて、物体の運動を記録する。 |
| | | | 自然界のつながり ・生物同士のつながり ・自然界を循環する物質 地球の明るいまいたいのために ・自然環境と人間 ・科学技術と人間 ・これからの私たちの暮らし | | | | 自然科学Ⅱ | 週1時間 | |
| | | | ○自然科学Ⅱ I 理科実験の基礎 化学、生物、物理、地学・・・実験の基本操作 II 文献閲読 III その他 外部機関との連携授業 | | | | | | |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 履修科目 | 授業時数 | 三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携 | |
|------|----------|----|--|--|--|---|--|
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | <p>○化学基礎 物質の構造と化学変化を理解する</p> <p>物質の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の探求 ・物質の構成粒子 <p>物質と化学結合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 <p>物質の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質と化学反応式 ・酸と塩基 ・酸化還元反応 | <p>○生物基礎 細胞・遺伝・生体内の環境・生態系について理解する</p> <p>生物と遺伝子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の特徴 ・細胞 ・代謝 ・遺伝子とその働き <p>生物の体内環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の体内環境 <p>生物の多様性と生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生の多様性と分布 ・生態系とその保全 | 化学基礎 生物基礎 | 2単位 2単位 | |
| | | 5 | <p>○物理基礎 運動とエネルギー、その他物理現象についての理解</p> <p>物体の運動とエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の表し方 ・様々な力とその働き ・力学的エネルギー <p>様々な物理現象とエネルギーの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱 ・波動 ・電気 ・エネルギーとその利用 ・様々な物理現象 | <p>○化学 物質の状態・物質の性質と反応の理解</p> <p>物質の変化と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応とエネルギー <p>無機物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非金属元素 ・金属元素 <p>有機化合物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む脂肪族化合物 ・構造式の決定 <p>○地学基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球の構造 ・地層の形成 ・地球の環境 ・太陽系と宇宙 | 物理基礎 化学 地学基礎 | 2単位 2単位 2単位 | |
| | サードステージ | 6 | <p>○物理 様々な運動・電磁気の理解 原子構造理解</p> <p>様々な運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面運動、剛体、運動量、円運動 単振動、万有引力、気体分子運動 <p>波動</p> <p>電気と磁気</p> <p>原子の物理学</p> <p>○化学 気体・固体の性質 平衡についての理解</p> <p>物質の状態と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気体の性質 ・固体の構造 ・溶液 <p>物質の変化と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反応の速さとしくみ ・化学平衡 ・高分子化合物の性質と利用 ・天然高分子化合物 <p>○生物 生命現象・生殖・環境・進化についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化と系統 ・生命現象と物質 ・遺伝子の発現と調節 ・生殖と発生 ・生物の環境応答 ・生態と環境 | <p>○物理演習 物理全般の復習</p> <p>国公立2次、私大一般入試の問題演習</p> <p>○化学基礎演習 化学基礎全般の復習</p> <p>大学入学共通テストへの演習</p> <p>○生物演習 生物全般の復習</p> <p>国公立2次、私大一般入試の問題演習</p> <p>○生物基礎演習 生物基礎全般の復習</p> <p>国公立2次、私大一般入試の問題演習</p> | 物理 物理演習 化学 化学基礎演習 生物 生物演習 生物基礎演習 | 4単位 2単位 4単位 2単位 4単位 2単位 2単位 | |

音楽科 6年間の指導計画

- 目 標
- 様々な表現活動の練習や発表の機会を通して、音楽を愛好する心情を育て、豊かな音楽表現の力を身につける。
 - 幅広い鑑賞活動を通じて、音楽を味わい、理解し、深く感受する力を養う。
 - 様々な音楽に触れ、幅広い情操教養を身につけることで、生涯音楽に関わっていく態度を育成する。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現に必要な基礎的な力を身につける。 ・ 音楽鑑賞に必要な基礎的な能力を身につける。 ・ 合唱活動を通し、集団で音楽を作り上げる楽しさを味わわせる。 ・ 独唱や独奏発表を数多く経験させ、個人の表現力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現に必要な幅広い力を高める。 ・ 作品の背景や他の芸術とのつながりを理解し、幅広い鑑賞の力をつける。 ・ 小グループによる創作的な音楽作りや即興的演奏活動をする。 ・ アンサンブル活動を通し、集団で取り組む音楽表現の創意・工夫をする。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 留意事項 | 履修科目 | 授業時数 |
|------|-----------|----|--|------|-----------------|------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現① ・ 詩と音楽の関わり ・ 和楽器の演奏①② ・ 音楽の要素とイメージのつながり ・ 器楽作品の演奏①② ・ 日本の音楽① ・ 独唱曲① ・ 次年度の合唱に向けて① | | 音楽 | 週1時間 |
| | | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現② ・ 楽曲の形式 ・ 和楽器の演奏③ ・ 独唱曲②③ ・ 器楽作品の演奏③ ・ 絵画と音楽の結びつき ・ 日本の音楽② ・ 次年度の合唱に向けて② | | 音楽 | 週1時間 |
| | セカンドステージ | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現③ ・ 楽曲の構成 ・ 器楽作品の演奏④⑤ ・ 作者の思いや時代背景と音楽の結びつき ・ 日本の音楽③ ・ 独唱曲④ ・ 次年度の合唱に向けて③ | | 音楽 | 週1時間 |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現④ ・ 独唱曲⑤⑥ ・ 作品と音楽史・鑑賞①②③ ・ 器楽作品の演奏⑥⑦ ・ 表現・理論のまとめ ・ 歌唱まとめ | | 芸術選択 音楽 I | 2単位 |

美術科 6年間の指導計画

- 目 標 ・6年間の継続した美術の表現及び鑑賞の活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う。
- 創造する力と発想を表現へとつなげる力の伸長を目指す。
 - 豊かに発想し、表現力をつけるための技能・技術力の伸長を目指す。
 - 過去から現代にいたる日本及び世界の文化に対する知識と鑑賞力を育成する。
 - 教科外での貢献や学習や生活の中でも活用できる程度の美術の知識及び技能を、思考力・判断力・表現力をもって身に付ける。
 - 生活や社会の中で想像力や表現力を生かし、試行錯誤、調整力をもって生きていけるようにする。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|--|--|---|
| 様々な素材を扱い、対象を観察する力、発想し構成する力や基礎的技能を身につける。美術作品などについて基礎的な理解を広げる。 | 基礎的表現力、鑑賞力をもとに幅広い視野で、見通しを持ちながら表現活動を目指す。日本及び世界の文化の知識を育成し美術を通した国際理解を深める。 | より深い自己の追及により個性豊かな表現力を高める。鑑賞力の育成をめざし生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性と美意識を深める。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 留意事項 | 履修科目 | 授業時数 |
|------|-----------|----|--|----------------|-------------|------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | 1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 3. 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・色の学習・レタリング・版画・彫刻） B 鑑賞 共通事項 | ・展示発表 | 美術 | 週1時間 |
| | | 2 | 1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸） B 鑑賞 共通事項 | ・展示発表 | 美術 | 週1時間 |
| | セカンドステージ | 3 | 1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸） B 鑑賞 共通事項 | ・展示発表 | 美術 | 週1時間 |
| 後期課程 | サードステージ | 4 | 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。 2. 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 A 表現（絵画・デザイン・彫刻・映像メディア・工芸） B 鑑賞 | ・展示発表 | 芸術選択 美術Ⅰ | 2単位 |
| | 5 | | | | | |
| | サードステージ | 6 | 芸術を通し、社会人・教養人として基礎を完成させる。 ○前期（各自のテーマにそって作品制作） ○後期（卒業制作・鑑賞） | ・展示発表 ・受験対策 | 選択科目 | 2単位 |

書写・書道 6年間の指導計画

目 標 ・書写・書道の学習活動を通し、思考力、判断力、表現力を養い、生活や学習に生かす態度を育成する。また書写から書道への円滑な接続を図ることで書美への関心を高め、表現や鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統や文化を尊重する態度を身につける。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|--|---|---|
| 書写の基礎・基本の習得および書字過程を重視した学習活動を通して、思考力や判断力、表現力を養う。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる能力を育成する。 | 文字が果たす役割や文化としての意義について理解することで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養う。また、書道の幅広い活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を育成し、書の伝統や文化についての理解を深める。 | 書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する態度を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成する。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 留意事項 | 履修科目 | 授業時数 |
|------|-----------|--------|--|------------------|----------------|------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | 1. 文字の基礎的知識の理解 ・漢字や仮名の由来 2. 書写(毛筆)の基礎・基本の習得 ・執筆・姿勢 ・用具・用材 ・筆使い ・筆順 3. 文、文章の書き方 ・字形や大小の捉え方 ・漢字と仮名の調和および配列 ・硬・毛関連学習 | ・展示発表 | 書写 | 週1時間 |
| | | 2 | 1. 行書の書き方の習得 ・行書の特徴 ①速書き、筆脈 ②点画の連続 ③払い、はね、筆順の変化 ④点画の省略 2. 行書とそれに調和した仮名の書き方の理解 3. 多様な書字場面への活用 ・目的や必要に応じた筆記具や書体(楷書又は行書)の選択 | ・展示発表 | 書写 | 週1時間 |
| | セカンドステージ | 3 | 1. 文字の役割を考える ・身のまわりの多様な文字の発見 ・文字を手書き文字することの意義 ・文字の伝達性と表現性 2. 文字文化としての意義を考える ・伝統的な書式(手紙、慶弔袋等) ・文字の表現性と芸術性についての探究(毛筆による書簡や名跡・名筆等) | ・展示発表 | 書写 | 週1時間 |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | 1. 書道の学習目標の理解 ・書写と書道 ・表現と鑑賞 2. 漢字の書 ・書体の変遷 ・基本用筆の習得 ・古典の鑑賞・字形と線質の関係 ・創作(イメージ書)への活用 3. 文化祭展示 ・伝統的な表現形態の理解(裏打ち) ・展示鑑賞 4. 仮名の書 ・成立と種類 ・基本用筆の習得 ・単体と連続 ・古筆の鑑賞と変体仮名の効用 ・散らし書きと余白美 ・創作への活用 5. 漢字仮名交じりの書(共同制作) ・創作法 ・自分達の今を表す言葉を考える ・意図に基づく表現の構想と工夫 ・これまでの書の学習を生かした作品制作 | ・展示発表 (美術館鑑賞) | 芸術選択 書道 I | 2単位 |
| | サードステージ | 5 6 | 1. 篆刻 ・印の歴史と篆書 ・印の効用 ・姓名印作成 2. 多様な書の美についての探究 ・漢字の書 古典の鑑賞 ・仮名の書 古筆の鑑賞 ・書の美の諸要素と表現効果 ・生活に生かす 3. 自主研究 ・自らの興味、関心に沿ったテーマ別研究および作品制作 | ・展示発表 | 選択科目 書道 I * | 2単位 |

* 6年の選択科目は教育課程の都合上、設置しないこともある。

保健体育科 6年間の指導計画

目 標 ・健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育成する。また、健康の保持増進のための実践力を育成し、体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につける。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い運動経験 ・適切な健康管理と基礎的な体力の向上 ・積極的に運動し親しむ資質や能力の育成 ・運動や健康・安全についての理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康保持増進のための実践力育成と体力向上 ・各種運動の特性の理解と運動技能の向上 ・公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主的な計画立案と運営 ・生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上 ・継続的に運動を実践する資質や能力の育成 ・公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 留意事項 | 履修科目 | 授業時数 | |
|------|-----------|---------|--|---|---|----------|------------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・器械運動 ・武道 ・ダンス <p>各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し、親しむ資質や能力を育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様性 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防 ・心身の機能の発達と心の健康 | | 保健体育 | 週3時間 |
| | | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・器械運動 ・武道 <p>各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し、親しむ資質や能力を育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防 ・傷害の防止 | | 保健体育 | 週3時間 |
| | セカンドステージ | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・ダンス <p>健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・文化としてのスポーツの意義 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防 ・健康と環境 | | 保健体育 | 週3時間 |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康 ・安全な社会生活 | | 体育 保健 | 2単位 1単位 |
| | | サードステージ | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上を目指すと共に、継続的に運動を実践する資質や能力を育成し、運動における公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康 ・社会生活と健康 | | 体育 保健 |
| | サードステージ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>各種目について、自主的な計画立案と運営を行う態度を育成し、生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上、及び、公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 | 種目選択による授業 | 体育 | 3単位 |

技術・家庭・情報科 6年間の指導計画

目 標 【技術分野】

体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータ活用に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際の生活に活用できる能力と態度を身につける。

【家庭分野】

生活の自立に必要な衣食住などに関する基礎的な知識と技術を習得し、毎日の生活に活用できる能力と態度を身につける。生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動を充実するとともに、生活の中から問題を見出しその課題を解決する過程を重視する。この過程を通して、社会の一員として、またリーダーとして、これからの展望し持続可能な社会を構成する基礎を築く。

【情報】

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|---|-----------------------------|--|
| ○技術に関する基礎的な知識と技術の習得 | | |
| ○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。 | | ○生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力し主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。 |
| ○情報とコンピュータに関する基礎的な知識と技術の習得 | ○情報とコンピュータに関して、情報活用能力の基礎を養う | ○情報とコンピュータに関して、生活と社会に応用する知識と技術の習得 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 留意事項 | 履修科目 | 授業時数 | |
|------|-----------|----|---|---|--|-------|------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | ○技術分野 A 材料と加工に関する技術 B エネルギー変換に関する技術 C 生物育成に関する技術 D 情報に関する技術 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭分野 A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境 D 生活の課題と実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させる。 ・様々な学習で、コンピュータを活用することができるようになる。 ・セキュリティ・発達の段階に応じた情報モラルの指導 | 技術・家庭 | 週2時間 |
| | | 2 | 情報とコンピュータの基礎 情報とコンピュータと私たちの生活 | | | 技術・家庭 | 週2時間 |
| | セカンドステージ | 3 | | | | 技術・家庭 | 週1時間 |
| 後期課程 | サードステージ | 4 | ○情報社会の問題解決 ○コミュニケーションと情報デザイン ○コンピュータとプログラミング ○情報通信ネットワークとデータの活用 | セキュリティ・情報モラルの指導・プログラミング教育の推進・マルチメディアの適切な取り扱い | 情報Ⅰ | 2単位 | |
| | | 5 | ○人の一生と家族・家庭及び福祉 ○衣食住の生活の自立と設計 ○持続可能な消費生活・環境 ○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ ○情報 他教科の学習への活用 | 社会の一員としてこれからの展望し持続可能な社会の構築する姿勢を身につける。他教科との連携指導の中で情報活用能力の育成する。 | 家庭基礎 | 2単位 | |
| | | 6 | ○情報社会の進展と情報技術 ○コミュニケーションとコンテンツ ○情報とデータサイエンス ○情報システムとプログラミング ○情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 | 情報Ⅱは、情報Ⅰの基礎の上に、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力や、コンテンツを創造する力を育む。 | 情報Ⅱ | 2単位 | |

英語科 6年間の指導計画

目標・国際社会でツールとして使用できる英語力を身につける。

指導の特徴

○少人数授業の実施…基礎・基本の充実。生涯学習の観点からの学習習慣の確立

○細かい目標設定による学力の把握・・・実用英語技能検定の活用

○外国人英語指導助手の活用による運用体験・・・JET・ALT とのチーム・ティーチングの活用

○複数学年にわたる継続的指導・・・リスニング・多読等による実践的な地力の向上

○学校設定科目…「文化科学Ⅲ（原典購読）」の設置

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|
| ○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 | ○実践的能力を身につけ、異文化を理解する力を育てる。 | ○多様な意見や考えの受信・発信を通じて、世界と積極的に関わる力を育てる。 |
| ○自学自習の方法と習慣を身につける。 | | |

| 課程 | ステージ | 学年 | 学習内容 | 学校行事との関連 | 関連教材 時間数 | 英検取得目標 | GTEC による CEFRJ level 目標 |
|------|-----------|----|--|--|---|---------------|-------------------------------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | <ul style="list-style-type: none"> be 動詞、一般動詞 命令文 can を用いた文 3人称単数 疑問詞 を用いた疑問文 現在進行形 過去形 過去進行形 未来を表わす表現 | スピーチ・コンテスト 校内留学（全員） | NEW TREASURE STAGE 1 英語 週4時間 | 4級 | A1-2 (60%) |
| | | 2 | <ul style="list-style-type: none"> There is 構文 比較 助動詞 副詞節を導く接続詞 接続詞 that 文型 不定詞 動名詞 受動態 現在完了 | スキット・コンテスト 校内留学（全員） | NEW TREASURE STAGE 1・2 英語 週4時間 | 3級 | A1-3 (60%) |
| | セカンドステージ | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 名詞、不定代名詞、前置詞 後置修飾、分詞 関係代名詞 ・ 仮定法 比較表現 間接疑問文・完了形 知覚、使役動詞 関係代名詞・関係副詞 過去完了 オンライン英会話 | 日本文化のプレゼンテーション 海外研修（希望者） ディベート大会 | NEW TREASURE STAGE 2・3 英語 週4時間 | 準2級 | A2-1 (69%) |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 副詞節 ・ 名詞節 不定詞 ・ 分詞、 分詞構文 ・ 仮定法 動名詞 比較 話法 時制の一致 強調・倒置 オンライン英会話 | 英語劇発表 海外研修(希望者) | 英語コミュニケーションⅠ 3単位 論理・表現Ⅰ 2単位 | 準2級 準2級プラス | A2-2 (69%) |
| | | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ディベート より高度な4技能のトレーニング オンライン英会話 | 海外修学旅行 | 英語コミュニケーションⅡ 4単位 論理・表現Ⅱ 2単位 文化科学Ⅲ（原典購読）1単位 | 2級 | B1-1 (59%) |
| | サードステージ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> より高度な4技能のトレーニング | グローバル遠足 | 英語コミュニケーションⅢ 4単位 論理・表現Ⅲ 2単位 英語コミュニケーション演習（選択科目） 2単位 | 2級 準1級 | B1-1 (69%) |

総合的な学習の時間・総合的な探究の時間（「人間と社会」含む）・学校設定科目「探究」 6年間の指導計画

目 標 問いを立てるプロセス、仮説・検証、論文作成、プレゼンテーション、その他各活動を通して探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力を育成することで、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。

各ステージの目標

| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
|---|---|--|
| <p>○グループ探究の過程において、地域課題や社会課題などを通じて課題発見能力を養う。</p> <p>○文献調査やインタビューまた集団での対話的な学びを通して課題解決に向けた情報収集能力を養う。</p> <p>○将来の在り方・生き方を考え、社会に貢献しようとする志や使命感を持ち、取り組むことができる。</p> <p>全体目標重点項目①②</p> | <p>○探究に主体的・協働的に取り組むとともに、グループ内での発表や全校での探究発表会を通して、プレゼンテーションの能力を育成し、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことができる。</p> <p>○先行研究を題材に、自己の探究心を養い、将来自己が進む道を考え、実現に向けた取り組みを行うことできる。</p> <p>全体目標重点項目①②③</p> | <p>○自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な課題学習を行い、実社会や実生活と自己との関わりから問いを導き出すことができる。</p> <p>○自ら課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめの論文作成やポスターセッションなどを通して、自己の進路実現に向けた取り組みができる。</p> <p>全体重点項目③④</p> |

| 課程 | ステージ | 学年 | 目標と学習内容 | 留意事項 | 履修科目 | 授業時数 |
|------|-----------|----|--|---------|------|---------------|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | <p>目標：</p> <p>○身近な地元・地域を題材に、探究の基本的な見方・考え方を習得する。</p> <p>○探究のプロセスを通じて、地域の魅力・課題を発見し、今後の展望を提示できる。</p> <p>内容（グループ探究）：</p> <p>○地域活性化を目的に地元を中心とした地域探究を実施する。</p> | ・ポスター発表 | 総合探究 | 週1時間 隔週2時間 |
| | | 2 | <p>目標：</p> <p>○求められている課題を解決できる創造力を習得する。</p> <p>○地域活性化や未来の社会に向けて、課題を設定し、新たに創造する力を習得する。</p> <p>内容（グループ探究）：</p> <p>○地域活性化を目的においた白馬探究を行う。</p> <p>○より良い社会の実現を目的においた起業探究を実施する。</p> | ・ポスター発表 | 総合探究 | 週2時間 隔週2時間 |
| | セカンドステージ | 3 | <p>目標：</p> <p>○学術的観点から探究を実践し、課題設定・解決能力を育成し、探究のプロセスを習得する。</p> <p>内容（グループ探究）：</p> <p>○学術的観点からグループ毎に文理に分かれて、文理探究を実施する。</p> | ・ポスター発表 | 総合探究 | 週2時間 隔週2時間 |
| 後期課程 | セカンドステージ | 4 | <p>目標：</p> <p>○先行研究から課題設定（気づき）を行い、探究（研究）のプロセスを習得できるになる</p> <p>内容（個人探究）：</p> <p>○「人間と社会」を活用し、演習を通じて「問い」を立てる訓練を行う。（2～3章）</p> <p>○年間で、個人探究に関わりのあるフィールドワークを実施する。（12時間）</p> <p>○先行研究などから新たな「問い」を立て、個人探究を実施する。</p> | ・スライド発表 | 探究 | 1単位 |
| | サードステージ | 5 | <p>目標：</p> <p>○4年間の探究の学びを活かし、自分の興味関心のあるものに自ら課題を設定し、自ら解決できる資質能力を養う。</p> <p>内容（個人探究）：</p> <p>○自己の進路や自己の興味・関心の中から、社会課題と関連し、メンター制度や探究支援員を活用しながら、探究活動を実施する。</p> | ・ポスター発表 | 探究 | 1単位 |
| | | 6 | <p>目標：</p> <p>○5年間学んできた探究をまとめることができる。</p> <p>内容：</p> <p>○5年間学んできた探究を論文にまとめる。</p> | ・論文発表 | 探究 | 1単位 |

道徳 6年間の指導計画

目 標 ・道徳の時間を中心に、他人を思いやる心と互いに助け合う心をはぐくむとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。また、自己の生き方、在り方を考えさせるとともに、地域や社会、ひいては世界の平和や人類の幸福に貢献する態度を身につける。

各ステージの目標

| | | |
|-------------------|-----------------|------------------------|
| ファーストステージ【基礎力養成期】 | セカンドステージ【活動実践期】 | サードステージ【応用発展期】 |
| 「思いやり」と「勤労」 | 「責任」と「奉仕」 | 社会的リーダーとしての「奉仕」と「社会貢献」 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 学習内容 | 学校特設科目・学校行事などとの関連 |
|------|-----------|----|--|--|
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図り、より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心を持ち、友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合う。 ○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するとともに、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。 | 文化一般：情操の育成 文化科学Ⅰ：話し合い、心情理解力 校外学習：団結力、協力、環境保全 |
| | | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとるとともに、多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝しそれにこたえる。 ○社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 ○それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方がることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に学ぶ。 | 自然科学Ⅰ：論理的思考力 校外学習：農業体験、持続可能な生態系利用 職場体験：勤労意識の向上、郷土愛 |
| | セカンドステージ | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持ち、真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○法や決まりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるよう努める。 ○自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 ○世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 | 自然科学Ⅱ：科学的な見方、考え方 研修旅行：伝統文化理解 |
| 後期課程 | ファーストステージ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の尊重と自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上と、よりよい校風をつくるとともに、他者や異性、ジェンダーフリーについての理解を深め、相手の人権を尊重する態度を身につける。 ○郷土や自然を愛する心を養い、進んでボランティア活動や自治的な活動に取り組み、地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、理解を深める。 | 文化科学Ⅱ：社会連帯、公正公平、権利と義務 総合的な学習「奉仕」：相互扶助、公德心 |
| | | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○望ましい生活習慣及び節度ある生活ができるように自主的に計画を立て実践し、自己を見つめて自己の向上を図るとともに、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○国際社会の一員として、国家の発展に努めるとともに、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 | 修学旅行（移動教室）：異文化理解 総合的な学習：個性の伸長、個性の尊重 |
| | サードステージ | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○家族への敬愛と感謝の念を深め、家族の一員としての自覚を持って、充実した家庭生活を築くとともに、生命のつながりについても、理解を深める。 ○より高い目標を目指し、希望と勇気を持って着実にやり抜く強い意志を持つとともに、人間としての在り方生き方についても考える。 | 文化科学Ⅳ：国際理解、異文化理解 総合的な学習：理想社会の実現 |

キャリア教育 6年間の指導計画

目 標 ・教科の学習、課題学習、論文作成、プレゼンテーション、その他各活動を通して、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力を育成するとともに、「総合的な学習の時間」を中心に、さまざまな体験的学習を行い、自己の将来のあり方について目標を設定させ、明確な目的をもって進むべき大学・学部等を選択する力を身につける。社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきか考える力を身につける。

各ステージの目標

| ファースト（1・2年）【基礎力養成期】 | セカンド（3・4年）【活動実践期】 | サード（5・6年）【応用発展期】 |
|--|--|--|
| ○体験的学習を通して、地域社会と自分とのかかわりを学び、職業観、勤労観を育成する。 ○自己の適性や能力を理解し、また自分の周りの仲間について理解し、人間関係形成能力を高める。 | ○人間の生き方について学ぶとともに、自己の適性について理解を深める。 ○進路についての情報収集と活用により、自己の将来の進路について考察する。 | ○卒業後の生き方を見ずえて、進路目標を決定する。 ○自己の適性を考慮し、進路実現に向けて具体的な準備を進めるとともに、6年一貫教育のまとめを行う。 |

| 課程 | ステージ | 学年 | 進路学習との関連場面 | | | 学年行事 | 備考 |
|------|-----------|---|--|---|--|--|--|
| | | | 【総合的な学習の時間】 ・プレゼンテーション能力の育成① ・グループによる協働① ・発表活動による学習成果の共有② | 【特別活動】 | 【教科】 | | |
| 前期課程 | ファーストステージ | 1 | 職業研究 | ・働くことについて③ ・職業について②③ ・職場見学③④ ・自分や仲間のことを知る① | ・校外学習① ・個人面談④ 合唱祭① 体育祭① 文化祭①②③ ホームルーム① 移動教室 事前学習② | グループ学習① 実験、実習① | ・校外学習 ・職場見学 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書 |
| | | 2 | | ・職業について研究を深める② ・職場体験③④ ・農業体験① ・地域と接して学ぶ② ・ステージ探究発表会②③ | ・農業体験①③ ・個人面談④ | コミュニケーション能力の育成① 情報の整理と活用② | ・職場体験 ・農業体験 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書 |
| 後期課程 | セカンドステージ | 3 | 大学訪問 | ・学部学科研究② ・大学訪問②④ ・社会とかかわりながら学ぶ② | ・個人面談④ ・研修旅行② 球技大会① | 理論的思考力の開発② 学力推移調査② | ・大学訪問 ・研修旅行（関西方面） ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書 |
| | | 4 | | ・高大連携、大学模擬授業④ ・進路希望調査③ ・奉仕活動を通じた社会に貢献する態度の育成① ・ステージ探究発表会②③ | ・個人面談④ 生徒会、委員会活動③ セーフティ教室③ 進路説明会④ オープンキャンパス④ | 生活、家庭、保育の学習③ 言語能力と情操の育成③ 社会参加意識の啓発③ | ・奉仕実践報告会 ・高大連携校への授業参加 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力診断テスト ・朝読書 |
| | 5 | ・高大連携、大学模擬授業④ ・将来設計プランの作成③④ ・進路希望調査③ ・進路講演会③ | | ・個人面談④ ・海外修学旅行② ・勉強合宿② | 卒業後を見ずえた科目の選択④ 思考力と意思決定能力の育成④ | ・海外修学旅行 ・高大連携校への授業参加 ・勉強合宿 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力診断テスト ・朝読書 | |
| | 6 | ・大学模擬講義④ ・大学別進路ガイダンス② ・分野別進路ガイダンス② ・進路希望調査③ ・在校生卒業生懇談会④ ・ステージ探究発表会②③ | | ・個人、三者面談④ | 図書館の活用② | ・在卒懇談会 ・高大連携校への授業参加 ・放課後、土曜、夏・冬期補習 ・学力診断テスト ・朝学習 | |

東京都立三鷹中等教育学校 道徳教育全体計画

【法的根拠】
日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

学校の教育目標
社会的リーダーとしての資質をもつ生徒を育成するため、次の教育目標を定める。
① 互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心をもった豊かな人間性を養う。
② 高い見識と幅広い視野を培う。
③ 自立と共生の精神を養う。

【地域の実情】 穏やかな地域
【学校の実情】 国際交流が盛ん
【子供の実態】 学習意欲が高い
【教師の願い】 思いやりの心をもった社会的リーダーの育成
【保護者の願い】 生活面と学習面の両立

学校の道徳教育の重点目標
思いやり・人間愛(ヒューマニティ)を主題に、社会的リーダーとして必要な判断力と行動力、思いやりの心を育成する。

各学年の指導の重点

第1学年
中学生としての自覚をもち、豊かな人間性を養う。

第2学年
2年生としての自覚をもち、思いやりのある人間関係を築く。

第3学年
自分の言動に責任を持ち、自己の生き方
在り方を考え、地域や社会に貢献する態度を養う。

各教科

国語
言語感覚を養い国語を愛する心を育てる。

社会
我が国の国土・歴史に愛情をもち、公民的な資質の基礎を培う。

数学
数学的なものの見方や考え方の良さを生活に生かす態度を養う。

理科
自然に対する関心を高め、科学的な考え方を養う。

音楽
表現・鑑賞を通して音楽的な情操を養う。

美術
表現・鑑賞を通して美的な情操を養う。

技術・家庭
生活と技術との関わりを通し、進んで生活を工夫する態度を養う。

保健体育
運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

外国語
外国の言語や文化に関心をもち、進んで交流する態度を養う。

選択

その他特に必要な教科
社会的リーダーを育成するため、高い見識と思いやりを養う。(探究等)

補
充
・
深
化
・
統
合

特別の教科 道徳

各学年の重点内容項目

- 1年
「思いやり」
・望ましい生活習慣の育成
・他人への思いやりと信頼
・生命尊重と自然愛護
- 2年
「勤労」
・礼儀作法の意義と感謝の精神
・郷土愛と勤労の尊さ
・向上心と個性の伸長
- 3年
「責任」
・自主・自律の精神
・法や決まりの理解と遵守
・集団生活の向上
・世界平和と人類の幸福への貢献

指導方針
・生徒一人一人の個性を尊重しながら、可能性を伸ばしていく指導
・生徒の道徳的な実践力を伸ばすため、各教科・特別活動との密接な連携

指導の工夫
・教材にある読み聞かせや朗読を利用するとともに、VTRやCDなどの視聴覚教材の利用を推進し、課題について生徒に十分理解させ、課題整理や課題解決の能力を育成する。
・生徒の体験や日常の出来事など身近な話題を多く取り入れたり、ICTを利用したり、理解しやすい教材を用い、具体的・積極的に生徒が自らの意見を述べ、円滑に議論できる条件や環境を設定する。

補
充
・
深
化
・
統
合

特別活動

学級活動
教師と生徒、生徒相互の理解を深め、互いに尊重する態度を育成する。

生徒会活動
自主的な活動を重んじ、進んで公共のために奉仕する態度を養う。

学校行事
集団の一員として自覚をもち、規律ある集団生活を築くとともに、助

総合的な学習の時間

- ・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。
- ・学校公開日、授業参観、道徳授業地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。

生活指導

- ・思いやりの心をもてる集団を育成する。
- ・健康で安全な学校生活を送れる。

環境整備

- ・豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるような環境を整備する。
- ・生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係を育てる。
- ・図書館の整備、充実に努める。

家庭・地域との連携

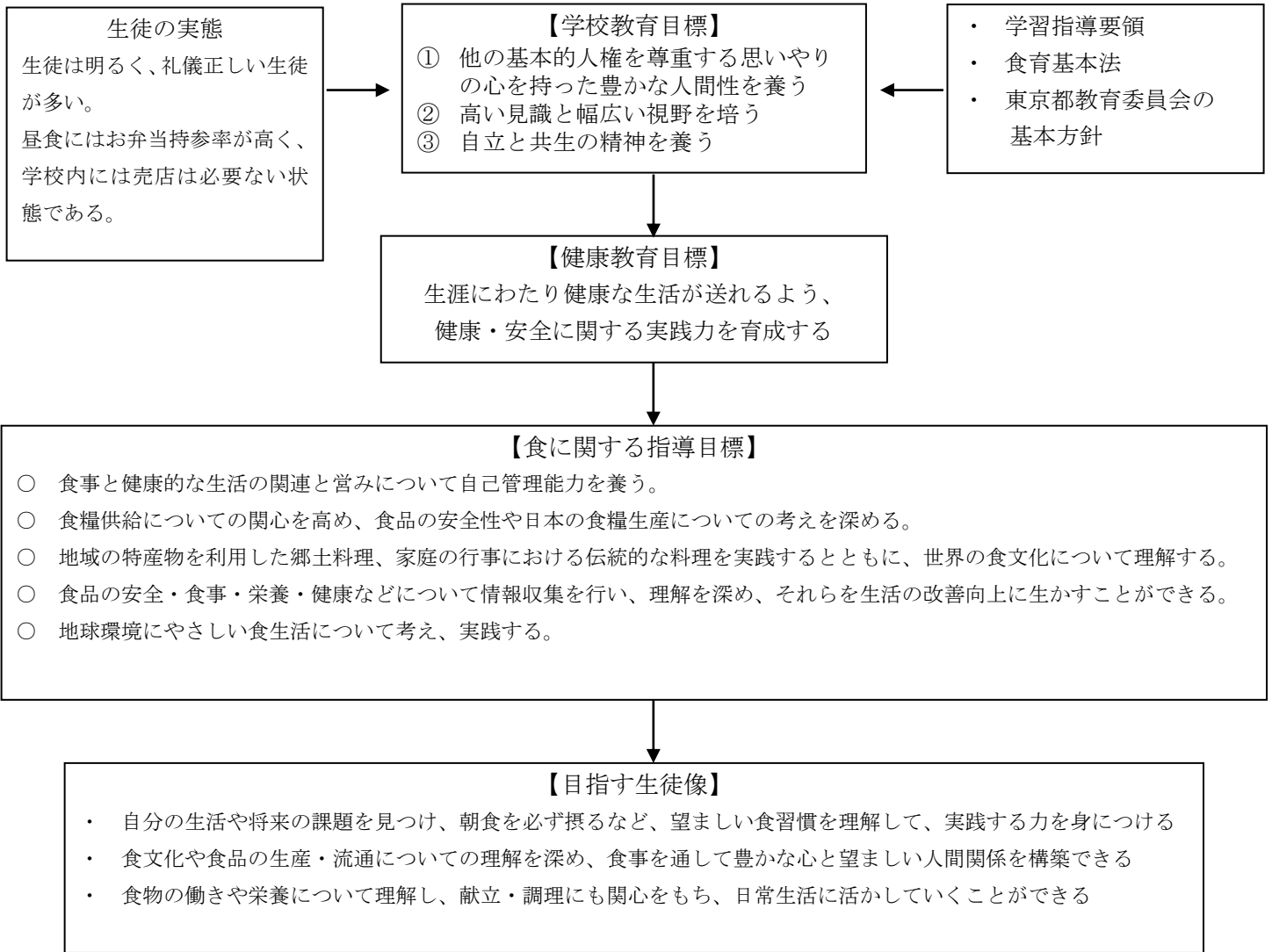
- ・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。
- ・学校公開日、授業参観、道徳授業地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。

推進体制

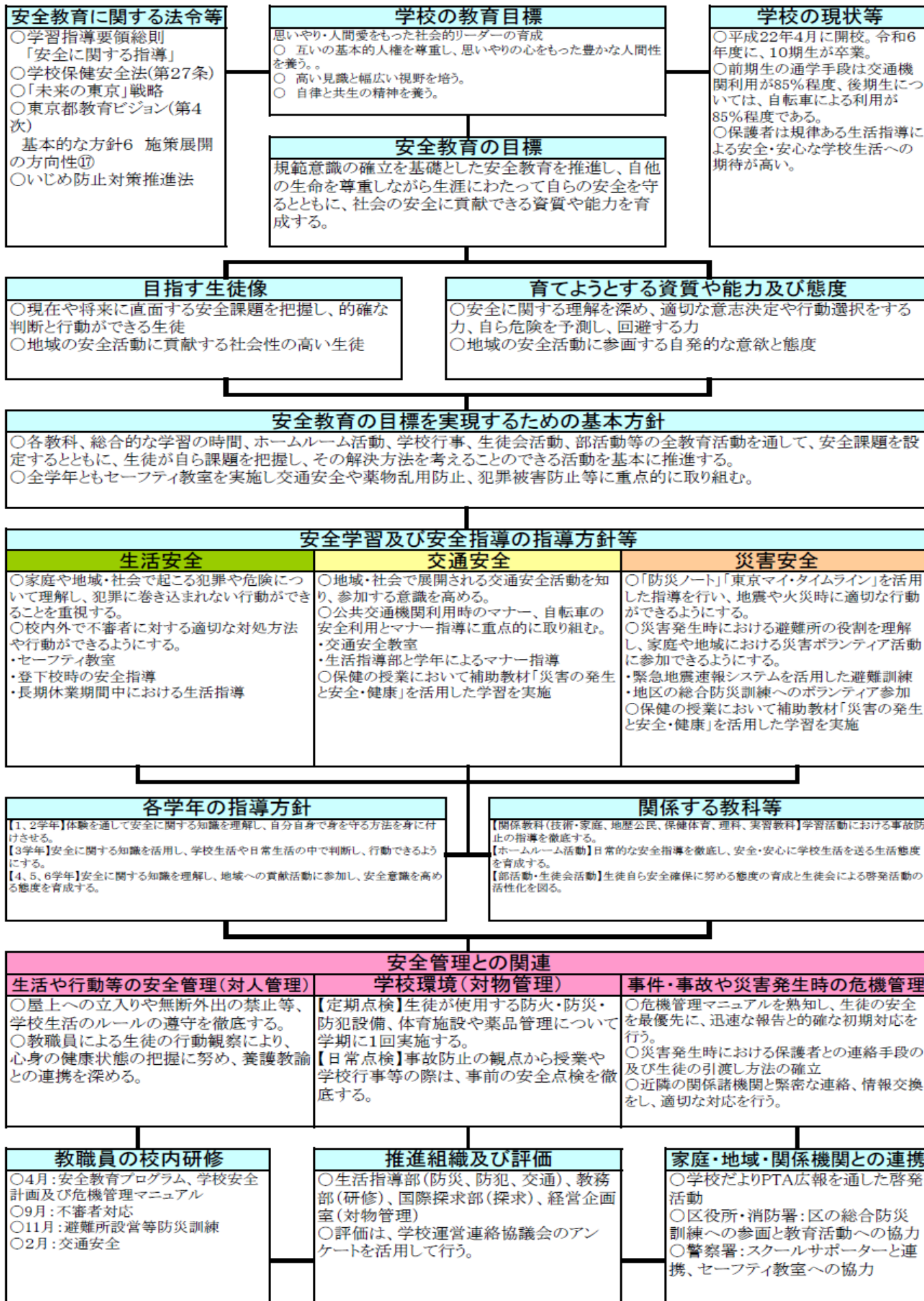
- ・道徳教育推進教師を中心に、各教科・各部と連携し、推進する。道徳授業地区公開講座を活用し、授業の在り方や他教科との連携について研究する。

特別活動全体計画

| | | |
|---|---|---|
| <p>日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領 都教委の教育目標</p> | <p>【学校の教育目標】 ○思いやり・人間愛をもった社会的リーダーの育成 *互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心をもった豊かな人間性を養う。 *高い見識と幅広い視野を培う *自立と共生の精神を養う</p> | <p>【学校・地域の実態】 ・学習意欲が高い ・落ち着いた環境 ・部活動や行事が盛ん 【保護者の願い】 ・充実した進路指導 ・いじめ等のない安心できる学校</p> |
| <p>【教科指導の重点】</p> | <p>【学校像】 ①教養教育により広く深い教養、知性を培う学校 ②世界的視野をはぐくむ学校 ③豊かな人間性を育成し、望ましい職業観・勤労観を涵養する学校 ④一人一人の生徒の進路希望を実現する学校 ⑤地域社会とともに歩む学校 ⑥生徒が切磋琢磨する活力ある学校 ⑦中高一貫教育校としての一体性を重視する学校</p> | <p>【総合的な学習の時間】 ①将来の在り方生き方を考え、社会に貢献しようとする志や使命感を育むために「人生設計学」を設定し、系統的なキャリア教育を展開しながら、進路希望を実現させる。 ②ボランティア活動や校外学習等の体験的活動を通して、実践力、コミュニケーション能力を育成し、思いやりの心と人間関係形成能力を培う。 ③自らの生き方と職業との関わりを考えさせ、職場見学や職場体験、講演会等の体験的学習等を計画的に行いながら、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ④自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な課題学習を行い、各ステージのまとめの論文の作成・発表を通してプレゼンテーション能力を育成する。</p> |
| <p>国語 読むこと・書くことの基礎となる、漢字・語彙の学習に継続的に取り組み、国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成する</p> | <p>【育てたい生徒像】 ① 社会の一員としての自覚をもち、「道徳」「総合的な学習・探究の時間」「人間と社会」等を通して高い倫理観を培うとともに、ボランティア活動への積極的な参加や地域との交流を通し、思いやりの心をもった社会的リーダーを目指す生徒 ② 高い見識を得るための学習活動と、豊かな人間性を得るための特別活動・部活動等の両立を目指し、限界までチャレンジする生徒 ③ 幅広い視野をもち、総合的な能力を育てるため、理系、文系にかかわらず全ての教科を意欲的に学習する生徒 ④ 自己の資質をより一層向上させることのできる進路を実現するために、高い目標をもち最後まで努力する生徒 ⑤ 全ての面において自主的、意欲的に取り組み、自分の意見を明確に表現するとともに、他者の意見を謙虚に受け止めることのできる生徒</p> | <p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p> |
| <p>社会 社会科学の基礎的な知識の確実な習得に努め、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心を身に付けさせる</p> | <p>【特別活動】 ①各学級の班活動や係活動を重視し、自己と他、集団との関わりを尊重する態度を育成する。生徒の自主性・自発性を重んじ、与えられた責任、使命を自覚できる人間に育てる。 ②生徒会、委員会、学級活動相互の連携を図り、学校行事の企画・立案・運営に主体的・自主的に関わる態度を育てる。異年齢集団との関わりの中から、集団との関わり方を学習し、達成感や成就感を実感させる。 ③部活動等の異年齢集団における継続的な活動において、目的を共有し互いに切磋琢磨することで、互いを尊重し合う豊かな人間関係を育て、個性や能力の伸長を図る。 ④集団への帰属意識の高まりや、学校生活の充実と発展を促す学校行事を実施し、異年齢集団における交流を深め、思いやりの心をもつ豊かな人間性を育て、社会的リーダーとしての資質を養う。</p> | <p>【生活指導】 ①あいさつの励行、礼儀正しい態度や身だしなみ、集団生活でのマナー、規範意識の育成等、きめ細かく規律ある生活指導を通して、社会的、協調性、規範意識などを育成する。 ②生活指導全体計画に基づいて全教職員が協力した、生徒の発達段階に応じた生活指導を行い、基本的な生活習慣や生活態度を身に付けさせる。 ③スクールカウンセラーを活用し、学校全体で教育相談体制を組織する。</p> |
| <p>数学 習熟の程度に応じた授業を実施し、発展的な内容や基本的な概念、原理・法則を理解させ、数学的な表現や処理の仕方を習得させる</p> | <p>【保健体育】 健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質、能力と、明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成</p> | <p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式(4,8,1月)、入学式(4月)、終業式(7,12月)、修了式(3月) 学芸的行事：文化祭(9月)、芸術鑑賞教室(7,2月) 集団宿泊行事：海外修学旅行(11月) 健康安全・体育的行事：健康診断(4月)、体育祭(9月)、避難訓練(4回)・防災訓練 勤労生産・奉仕的行事：美化デー(毎月)、清掃(毎日)</p> |
| <p>理科 自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探求する力と、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる</p> | <p>【外国語】 習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ALTを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る</p> | <p>【HR活動】 学級を単位として、学級や学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。 (1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること (2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること (3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること</p> |
| <p>音楽 音楽を深く感受する力を養い、個性的で豊かな表現に必要な音楽技術を身につけ、自己表現力を高める</p> | <p>【生徒会活動】 学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動を行うこと。 学校生活の充実、改善向上を図る活動：生徒総会(5月) 学校行事への協力に関する活動：文化祭・体育祭(9月) 中高一貫校連携事業における生徒会連絡会(11月)</p> | <p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p> |
| <p>美術 生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う</p> | <p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式(4,8,1月)、入学式(4月)、終業式(7,12月)、修了式(3月) 学芸的行事：文化祭(9月)、芸術鑑賞教室(7,2月) 集団宿泊行事：海外修学旅行(11月) 健康安全・体育的行事：健康診断(4月)、体育祭(9月)、避難訓練(4回)・防災訓練 勤労生産・奉仕的行事：美化デー(毎月)、清掃(毎日)</p> | <p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p> |
| <p>情報・家庭 体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用、自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を育てる</p> | <p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式(4,8,1月)、入学式(4月)、終業式(7,12月)、修了式(3月) 学芸的行事：文化祭(9月)、芸術鑑賞教室(7,2月) 集団宿泊行事：海外修学旅行(11月) 健康安全・体育的行事：健康診断(4月)、体育祭(9月)、避難訓練(4回)・防災訓練 勤労生産・奉仕的行事：美化デー(毎月)、清掃(毎日)</p> | <p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p> |
| <p>保健体育 健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質、能力と、明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成</p> | <p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式(4,8,1月)、入学式(4月)、終業式(7,12月)、修了式(3月) 学芸的行事：文化祭(9月)、芸術鑑賞教室(7,2月) 集団宿泊行事：海外修学旅行(11月) 健康安全・体育的行事：健康診断(4月)、体育祭(9月)、避難訓練(4回)・防災訓練 勤労生産・奉仕的行事：美化デー(毎月)、清掃(毎日)</p> | <p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p> |
| <p>外国語 習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ALTを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る</p> | <p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式(4,8,1月)、入学式(4月)、終業式(7,12月)、修了式(3月) 学芸的行事：文化祭(9月)、芸術鑑賞教室(7,2月) 集団宿泊行事：海外修学旅行(11月) 健康安全・体育的行事：健康診断(4月)、体育祭(9月)、避難訓練(4回)・防災訓練 勤労生産・奉仕的行事：美化デー(毎月)、清掃(毎日)</p> | <p>【道徳教育の指導】 ①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p> |



| | | | |
|------------|-------------|--|---|
| 各教科・科目との連携 | 普通教科・科目 | 地理歴史 | ・ 日常生活にみる世界の歴史（衣食住、家族） ・ 資源 産業（食料問題） ・ 生活文化 民族・宗教（食生活と宗教） |
| | | 理科 | ・ 化学と人間生活 ・ 天然高分子化合物 ・ 有機化合物と人間生活 |
| | | 保健 | ・ 健康的な食生活の重要性と意義 ・ 健康的な食生活習慣の形成 ・ 食品衛生活動のしくみと働き ・ 食品と環境の保健と私たち |
| | | 外国語 | ・ 食事場面での表現 |
| | | 家庭基礎 | ・ 生活の自立と消費と環境（食生活をつくる） ・ 自立して生きる（楽しく安全に食べる） |
| 総合的な学習の時間 | | ・ 環境 ・ 世界的な食糧問題 ・ 遺伝子組み換え作物 | |
| 特別活動 | HR 指導及び学校行事 | ・ 食生活について ・ 生徒保健委員会 | |
| 奉仕 | | ・ 食事マナーとサービス ・ 高齢者施設における食生活に関わる奉仕体験 | |
| 家庭・地域との連携 | | ・ 学校保健委員会 ・ 保健室来室時の個別指導 ・ 保護者会 ・ P T A 便り | |



令和8年度 学校安全計画 年間指導計画

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | |
|-----------|--------|--------------------------------|---|---|--|--|---|
| 各学年共通 | I 生活 | 日常 | 登下校の安全、施設設備の安全点検 (学級活動) 1-①、②、③、2-④ | スマホ、SNSの使い方 (学級活動) 3-⑥、⑦ | 不審者への対応 2-②、⑤、⑥ | 熱中症の予防、校庭での対処、体育館の換気 (朝の学活) 2-②、③、④ | 登下校の安全(文化祭・体育祭など行事の際の安全) (学級活動) 1-①、③、4-①、② |
| | | 定期 | 部活動と健康管理 (部活動) | セーフティ教室 | | 夏休みの生活と安全 (学級活動) 4-①～③ | |
| | | 教科等 | | | | 性情報への対処 (保健・学級活動) 3-⑦、4-⑦、⑧、⑨ | 保健(学級活動)「自分の身の安全」/保健委員会の運営 (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺ |
| | II 交通 | 日常 | 通学経路の安全確認 (朝の学活) 1-①②③ | 交通環境に応じた自転車の利用 (学級活動) 2-①、② | 雨天時の交通安全 (学級活動) 1-④、2-② | | |
| | | 定期 | 全国交通安全運動への理解と参加、交通安全リーフレットの活用「自転車利用五則」「地域貢献」 (学校行事)2-①、4-① | | | | 全国交通安全運動への理解と参加、交通安全リーフレットの活用「自転車利用五則」「地域貢献」 (学校行事)2-①、4-① |
| | | 教科等 | | | | | |
| | III 災害 | 日常 | 避難経路の確認 (学級活動) 1-①、2-① | | 落雷等の気象災害発生時の対応 (学級活動) 4-③ | 豪雨・暴風等の気象災害発生時の対応 (学級活動) 4-①、③ | 地震発生時の対応 (朝の学活) 2-②、③ |
| | | 定期 | 避難訓練(火災) | 避難訓練(地震) | 避難訓練(火災・地震) | 避難訓練(火災) | 避難訓練(地震) |
| | | 教科等 | 我が家の防災対策 (学級活動) 7-②、③ | 防災ノート 1-①② | 防災ノート 1-③④ 「東京マイ・タイムライン」を活用した指導 | | |
| 1年 | I 生活 | 日常定期 | 携帯電話のマナー (学級活動) 3-⑥、⑦ | ※部活動に「自分の身の安全」/交通安全の確保/災害時の対応/保健委員会の運営 (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺ | 情報モラル:スマホ、SNSの使い方 (学級活動) 3-⑥、⑦、4-⑥ | | |
| | | 教科等 | | セーフティ教室 | | | |
| | II 交通 | 日常定期 | | | | | |
| | | 教科等 | 自転車の安全な乗り方と交通法規、交通安全リーフレットの活用 (学級活動) 2-⑤、⑥ | | | | |
| | III 災害 | 日常定期 | | | | | |
| | | 教科等 | | | | | |
| 2年 | I 生活 | 日常定期 | | ※部活動に「自分の身の安全」/交通安全の確保/災害時の対応/保健委員会の運営 (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺ | | | |
| | | 教科等 | | セーフティ教室 | | | |
| | II 交通 | 日常定期 | | | | | |
| | | 教科等 | | | | | |
| | III 災害 | 日常定期 | | | | | |
| | | 教科等 | | | | | |
| 3年 | I 生活 | 日常定期 | | | | | |
| | | 教科等 | | セーフティ教室 | | | |
| | II 交通 | 日常定期 | 自転車の安全な乗り方の確認 (学級活動) 2-⑤、⑥ | | | | |
| | | 教科等 | | | | | |
| | III 災害 | 日常定期 | | | | | |
| | | 教科等 | | | | 教員研修(消防団との連携、AEDの使用方法の指導) (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺ | |
| 教職員の研修等 | | 安全教育プログラム、学校安全計画及び危機管理マニュアルの熟知 | | | 不審者対応 | | |
| 保護者地域との連携 | | | | | | | |

